－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	梅村　憲子						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～4	単位数	4.0

授業のテーマ	芸術全般に対する理解を深める入り口として、声楽曲を軸に音楽を体験的に知る。 読譜、初歩の楽典的知識、音楽史を学び、クラッシック音楽の理解を深める。 声楽曲を実際に歌うことによって「音色の美しさ」にも注目する。 鑑賞のための「開かれた耳」を育てる。
授業の概要	・楽譜に書かれたメッセージを正しく理解し、正しく表現できるように、 楽譜にある音楽用語、楽曲の時代背景、作曲家について、詩人について、講義と実技を交えながら進めていく。 ・美しく歌うための技術を身につけ、自ら音楽に携わる喜びを知る ・皆で声をそろえて歌うことによって、アンサンブル能力と「正しく聞く」能力を開発する。
到達目標	音楽史のアウトラインを理解し、それぞれの時代の楽曲の様式感を理解する。 音楽と他の分野の芸術との関係性を知る。 読譜のための基礎的な楽典の知識を身につける。 自分で歌うことによって、音楽の持つ喜び、癒しなどの効果を体験的に知る。 お互いの声をよく聴き合いアンサンブルの楽しさに気付く。 「よい音色とは何か」を聞き分けることにより、体の使い方と声との密接な関係に気付く。 音楽表現としての歌を歌うことができるようになる
授業計画	前期：日本における西洋音楽の流れ 第１回　日本の作曲家　滝廉太郎１ ・黎明期の日本の西洋音楽１ 第２回　日本の作曲家　滝廉太郎２ ・黎明期の西洋音楽２ 第３回　日本の作曲家　滝廉太郎３ ・黎明期の西洋音楽３ 第４回　日本の作曲家　山田耕作１ ・邦楽と西洋音楽１ 第５回　日本の作曲家　山田耕作２ ・邦楽と西洋音楽２ 第６回　日本の作曲家　山田耕作３ ・邦楽と西洋音楽３ 第７回　日本の作曲家　中田喜直１ ・日本語と西洋音楽１ 第８回　日本の作曲家　中田喜直２ ・日本語と西洋音楽２ 第９回　日本の作曲家　中田喜直３ ・日本語と西洋音楽　３ 第１０回　日本の作曲家　團伊久磨１ ・日本語と西洋音楽　４ 第１１回　日本の作曲家　團伊久磨２ ・日本語のオペラ１ 第１２回　日本の作曲家　團伊久磨３ ・日本語のオペラ２ 第１３回　日本の作曲家　三善晃 ・日本のコンテンポラリー 第１４回　日本の作曲家　武満徹 ・伝統楽器と西洋音楽 第１５回　日本の作曲家　その他の作曲家 　　実技試験 後期：ヨーロッパの音楽の流れ 第１回　グレゴリオ聖歌 ・モノフォニーについて 第２回　ルネサンスの音楽① ・ポリフォニーについて 第３回　ルネサンスの音楽② ・イタリア語の発音 第４回　ルネサンスの音楽③ ・舞曲について 第５回　バロック音楽① ・モノディーについて 第６回　バロック音楽② ・ドイツ語の発音 第７回　バロック音楽③ ・バッハについて 第８回　古典派の音楽①

授業計画	・ホモフォニーについて 第９回　古典派の音楽② ・モーツァルト 第１０回　古典派の音楽③ ・ベートーベン 第１１回　ロマン派の音楽① ・フランス革命と音楽 第１２回　ロマン派の音楽② ・ドイツリートについて 第１３回　ロマン派の音楽③ ・イタリアオペラについて 第１４回　近代の音楽 ・絵画と音楽 第１５回　現代の音楽 　　実技試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で配られた楽曲の復習 歌詞の意味を調べ、理解を深める
授業方法	課題となる楽曲について、音楽史上の位置づけ、基礎的な楽典的 音楽史の流れに沿って、楽曲の説明を加えながら、 講師のリードにより、皆で楽曲を歌う練習をする
評価基準と評価方法	授業への積極性など平常点（５０％）に加えて、学期末に実技試験（１５％×２）、レポート課題（１０％×２）を実施する 皆で楽曲を練習する時間も多く、欠席はすなわち練習回数の減数となる 欠席は減点の対象となるので注意されたし
教科書	その都度資料、楽譜を配布する
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	音楽入門A						
担当教員	梅村　憲子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	芸術全般に対する理解を深める入り口として、声楽曲を軸に音楽を体験的に知る。 読譜、初歩の楽典的知識、音楽史を学び、クラッシック音楽の理解を深める。 声楽曲を実際に歌うことによって「音色の美しさ」にも注目する。 鑑賞のための「開かれた耳」を育てる。
授業の概要	・楽譜に書かれたメッセージを正しく理解し、正しく表現できるように、 楽譜にある音楽用語、楽曲の時代背景、作曲家について、詩人について、講義と実技を交えながら進めていく。 ・美しく歌うための技術を身につけ、自ら音楽に携わる喜びを知る ・皆で声をそろえて歌うことによって、アンサンブル能力と「正しく聞く」能力を開発する。
到達目標	音楽史のアウトラインを理解し、それぞれの時代の楽曲の様式感を理解する。 音楽と他の分野の芸術との関係性を知る。 読譜のための基礎的な楽典の知識を身につける。 自分で歌うことによって、音楽の持つ喜び、癒しなどの効果を体験的に知る。 お互いの声をよく聴き合いアンサンブルの楽しさに気付く。 「よい音色とは何か」を聞き分けることにより、体の使い方と声との密接な関係に気付く。 音楽表現としての歌を歌うことができるようになる
授業計画	日本における西洋音楽の流れ 第１回　日本の作曲家　滝廉太郎１ ・黎明期の日本の西洋音楽１ 第２回　日本の作曲家　滝廉太郎２ ・黎明期の西洋音楽２ 第３回　日本の作曲家　滝廉太郎３ ・黎明期の西洋音楽３ 第４回　日本の作曲家　山田耕作１ ・邦楽と西洋音楽１ 第５回　日本の作曲家　山田耕作２ ・邦楽と西洋音楽２ 第６回　日本の作曲家　山田耕作３ ・邦楽と西洋音楽３ 第７回　日本の作曲家　中田喜直１ ・日本語と西洋音楽１ 第８回　日本の作曲家　中田喜直２ ・日本語と西洋音楽２ 第９回　日本の作曲家　中田喜直３ ・日本語と西洋音楽　３ 第１０回　日本の作曲家　團伊久磨１ ・日本語と西洋音楽　４ 第１１回　日本の作曲家　團伊久磨２ ・日本語のオペラ１ 第１２回　日本の作曲家　團伊久磨３ ・日本語のオペラ２ 第１３回　日本の作曲家　三善晃 ・日本のコンテンポラリー 第１４回　日本の作曲家　武満徹 ・伝統楽器と西洋音楽 第１５回　日本の作曲家　その他の作曲家 実技試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で配られた楽曲の復習 歌詞の意味を調べ、理解を深める
授業方法	課題となる楽曲について、音楽史上の位置づけ、基礎的な楽典的 音楽史の流れに沿って、楽曲の説明を加えながら、 講師のリードにより、皆で楽曲を歌う練習をする
評価基準と評価方法	授業への積極性など平常点（５０％）に加えて、学期末に実技試験（１５％×２）、レポート課題（１０％×２）を実施する 皆で楽曲を練習する時間も多く、欠席はすなわち練習回数の減数となる 欠席は減点の対象となるので注意されたし

教科書	その都度資料、楽譜を配布する
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	音楽入門B						
担当教員	梅村　憲子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	芸術全般に対する理解を深める入り口として、声楽曲を軸に音楽を体験的に知る。 読譜、初歩の楽典的知識、音楽史を学び、クラッシック音楽の理解を深める。 声楽曲を実際に歌うことによって「音色の美しさ」にも注目する。 鑑賞のための「開かれた耳」を育てる。
授業の概要	・楽譜に書かれたメッセージを正しく理解し、正しく表現できるように、 楽譜にある音楽用語、楽曲の時代背景、作曲家について、詩人について、講義と実技を交えながら進めていく。 ・美しく歌うための技術を身につけ、自ら音楽に携わる喜びを知る ・皆で声をそろえて歌うことによって、アンサンブル能力と「正しく聞く」能力を開発する。
到達目標	音楽史のアウトラインを理解し、それぞれの時代の楽曲の様式感を理解する。 音楽と他の分野の芸術との関係性を知る。 読譜のための基礎的な楽典の知識を身につける。 自分で歌うことによって、音楽の持つ喜び、癒しなどの効果を体験的に知る。 お互いの声をよく聴き合いアンサンブルの楽しさに気付く。 「よい音色とは何か」を聞き分けることにより、体の使い方と声との密接な関係に気付く。 音楽表現としての歌を歌うことができるようになる
授業計画	ヨーロッパの音楽の流れ 第１回　グレゴリオ聖歌 ・モノフォニーについて 第２回　ルネサンスの音楽① ・ポリフォニーについて 第３回　ルネサンスの音楽② ・イタリア語の発音 第４回　ルネサンスの音楽③ ・舞曲について 第５回　バロック音楽① ・モノディーについて 第６回　バロック音楽② ・ドイツ語の発音 第７回　バロック音楽③ ・バッハについて 第８回　古典派の音楽① ・ホモフォニーについて 第９回　古典派の音楽② ・モーツァルト 第１０回　古典派の音楽③ ・ベートーベン 第１１回　ロマン派の音楽① ・フランス革命と音楽 第１２回　ロマン派の音楽② ・ドイツリートについて 第１３回　ロマン派の音楽③ ・イタリアオペラについて 第１４回　近代の音楽 ・絵画と音楽 第１５回　現代の音楽 　　実技試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で配られた楽曲の復習 歌詞の意味を調べ、理解を深める
授業方法	課題となる楽曲について、音楽史上の位置づけ、基礎的な楽典的 音楽史の流れに沿って、楽曲の説明を加えながら、 講師のリードにより、皆で楽曲を歌う練習をする
評価基準と評価方法	授業への積極性など平常点（５０％）に加えて、学期末に実技試験（１５％×２）、レポート課題（１０％×２）を実施する 皆で楽曲を練習する時間も多く、欠席はすなわち練習回数の減数となる 欠席は減点の対象となるので注意されたし

教科書	その都度資料、楽譜を配布する
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読						
担当教員	柿沼　伸明						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	4.0

授業のテーマ	長編小説を読む
授業の概要	サマセット・モームの『人間の絆（きずな）』という長編小説を読んでいきます。モームは、１９世紀末から２０世紀前半に活躍したイギリスの作家です。『人間の絆』は自伝的な要素の強い小説で、とくに何らかの思想的傾向性をもたず、物語は淡々と展開していきます。内容は、９歳で両親を失い孤児となった主人公が、みずからの肉体的コンプレックスや人づきあいの下手さに悩みながら成長していき、青年期に達すると芸術に傾倒（けいとう）したり、恋愛を経験したりしながら、人生の幸福とは何かを考えていくものです。こういうタイプの小説は、教養小説と呼ばれます。 　授業参加者は、大学入学時までこのような比較的長い小説を読んでこなかったでしょうから、長文読解のトレーニングになると思います。また、主人公とともに人生の幸福とは何かを考えていくことは、意義深い体験になるだろうと信じます。
到達目標	小説テクストを分析的に読めるようになること
授業計画	第１回　授業の進め方、成績評価の方法の説明。モーム文学の解説。 第２回　教師が発表し、レジュメのまとめ方を実地指導。 第３回～第１４回　１回に１人約２０ページ、３人発表、計６０ページの速さで読み進めていく。これで１４回目に下巻の初めまで到達する。 第１５回　前回までに読んだところまでのレポートを提出してもらう。優秀なレポート幾つかをコピーしてもってくるので、それらを基に内容を全員で討論する。 第１６回　教師が発表し、実地指導。 第１７回～第２０回　１人約２０ページ、３人発表、計６０ページの速さで進む。 第２１回～第２２回　『人間の絆』の一部の逸話を扱った『痴人の愛』というイギリス映画があるので、これを鑑賞する。 第２３回～第２８回　計６０ページの速さで進み、２８回目で小説を読了したい。第２６回目にレポートの書き方について指導し、第２８回目に仮レポートを提出してもらう。 第２９回　提出された仮レポートを教師が徹底的に添削し、各人に返却する。このとき、どのようなことについて書くべきか、個別指導を行う。 第３０回　優秀なレポート幾つかのコピーをもってくるので、これらを輪読し、どのように優れているのか、どのように優れたレポートを書くべきなのかを説明する。その後、小説についての自分の考えを一人一人、発言してもらう。（以上の結果、各人は仮レポートを書き改めて本レポートを作成し、教務課に提出する）
授業外における学習（準備学習の内容）	自分の発表の番でなくとも小説を読むこと。
授業方法	授業参加者による発表
評価基準と評価方法	口頭発表30%、レポート70%で評価
教科書	サマセット・モーム『人間の絆（上・下）』（新潮文庫）中野好夫訳
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読						
担当教員	山田　道夫						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	4.0

授業のテーマ	『オデュッセイア』を読む
授業の概要	紀元前８世紀に成ったとされ、西洋文学史のＡでありＺである『オデュッセイア』を松平千秋の散文訳で講読する。
到達目標	常用漢字の枠を超えた漢字や熟語、慣用句など日本語の知識を拡げて、端正でリズム感豊かな日本語の文章を楽しめるようになる。読んで考え、考えて読むというクリティカルな読書の技法を身につける。
授業計画	前期 第１回　『オデュッセイア』概説(1)―神話的背景、映画ビデオ 第２回　『オデュッセイア』概説(2)―文学史的背景、映画ビデオ 第３回　第九歌「キュクロプスの話」 第４回　第十歌「魔女キルケーの話」 第５回　第一歌「神々の会議」 第６回　第二歌「テレマコスの旅立ち」 第７回　第五歌「魔女カリュプソの島」 第８回　第六歌「少女ナウシカー」 第９回　第七・八歌「パイエケス人の王宮」 第10回　第十一歌「冥府行」 第11回　第十二歌「セイレーン、スキュラ、カリュブディス」 第12回　レポートの課題と書き方 第13回　オデュッセウスと女たち 第14回　冒険ヒーローとしてのオデュッセウス 第15回　まとめと展望、期末レポート提出 後期 第１回　第十三歌「イタケへの帰還」 第２回　第十四歌「豚飼エウマイオス」 第３回　第十五歌「テレマコスの帰国」 第４回　第十六歌「父子の再会、討伐計画」 第５回　第十七歌「父子の帰館と求婚者たち」 第６回　第十八歌「乞食のオデュッセウス」 第７回　第十九歌「ペネロペイアとの対話」 第８回　第二十歌「討伐前夜」 第９回　第二十一・二十二歌「弓競技と求婚者誅殺」 第10回　求婚者たちの罪とゼウスの正義 第11回　第二十三歌「夫婦の再会」 第12回　認知のドラマと三つの印、謎のペネロペイア、レポートの課題と書き方 第13回　映画『キャストアウェイ』と『オデュッセイア』 第14回　映画『かくも長き不在』と『オデュッセイア』 第15回　まとめと展望、期末レポート提出
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業の前に、知らない漢字や語彙を広辞苑などの大辞典で調べて、自分でテクストを読み、授業後に読み返すという作業が授業参加の前提である。
授業方法	講読。教員による質問、解説、問題点の指摘などを交えながら、テクストを一緒に読んでゆく（前期は声に出して輪読 する）。漢字の読み取りテストも行う。
評価基準と評価方法	授業への参加度、授業態度、漢字テストなどの平常点３０％、期末レポート７０％で評価する。
教科書	ホメロス『オデュッセイア上』（岩波文庫）、松平千秋訳、岩波書店　ISBN4-00-321024-7 ホメロス『オデュッセイア下』（岩波文庫）、松平千秋訳、岩波書店　ISBN4-00-321025-5

参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読A						
担当教員	柿沼　伸明						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	長編小説を読む
授業の概要	サマセット・モームの『人間の絆（きずな）』という長編小説を読んでいきます。モームは、１９世紀末から２０世紀前半に活躍したイギリスの作家です。『人間の絆』は自伝的な要素の強い小説で、とくに何らかの思想的傾向性をもたず、物語は淡々と展開していきます。内容は、９歳で両親を失い孤児となった主人公が、みずからの肉体的コンプレックスや人づきあいの下手さに悩みながら成長していき、青年期に達すると芸術に傾倒（けいとう）したり、恋愛を経験したりしながら、人生の幸福とは何かを考えていくものです。こういうタイプの小説は、教養小説と呼ばれます。 　授業参加者は、大学入学時までこのような比較的長い小説を読んでこなかったでしょうから、長文読解のトレーニングになると思います。また、主人公とともに人生の幸福とは何かを考えていくことは、意義深い体験になるだろうと信じます。
到達目標	小説のテクストを分析的に読めるようになること
授業計画	第１回　授業の進め方、成績評価の方法の説明。モーム文学の解説。 第２回　教師が発表し、レジュメのまとめ方を実地指導。 第３回　１人約２０ページ分の内容を口頭発表、３人発表 第４回　１人約２０ページ分の内容を口頭発表、３人発表 第５回　１人約２０ページ分の内容を口頭発表、３人発表 第６回　１人約２０ページ分の内容を口頭発表、３人発表 第７回　１人約２０ページ分の内容を口頭発表、３人発表 第８回　１人約２０ページ分の内容を口頭発表、３人発表 第９回　『人間の絆』の映画化作品を鑑賞 第１０回　『人間の絆』の映画化作品を鑑賞 第１１回　１人約２０ページ分の内容を口頭発表、３人発表 第１２回　レポートの書き方について解説 第１４回　前回までに読んだところまでのレポートを提出 第１５回　提出レポートを添削して返却後、個別指導
授業外における学習（準備学習の内容）	自分の発表の番でなくとも小説を読むこと。
授業方法	口頭発表と質疑応答に基づく講義
評価基準と評価方法	口頭発表30%、レポート70%
教科書	サマセット・モーム『人間の絆（上・下）』（新潮文庫）中野好夫訳
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読A						
担当教員	山田　道夫						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	『オデュッセイア』を読む
授業の概要	紀元前８世紀に成ったとされ、西洋文学史のＡでありＺである『オデュッセイア』を松平千秋の散文訳で講読する。
到達目標	常用漢字の枠を超えた漢字や熟語、慣用句など日本語の知識を拡げて、端正でリズム感豊かな日本語の文章を楽しめるようになる。読んで考え、考えて読むというクリティカルな読書の技法を身につける。
授業計画	第１回　『オデュッセイア』概説(1)―神話的背景、映画ビデオ 第２回　『オデュッセイア』概説(2)―文学史的背景、映画ビデオ 第３回　第九歌「キュクロプスの話」 第４回　第十歌「魔女キルケーの話」 第５回　第一歌「神々の会議」 第６回　第二歌「テレマコスの旅立ち」 第７回　第五歌「魔女カリュプソの島」 第８回　第六歌「少女ナウシカー」 第９回　第七・八歌「パイエケス人の王宮」 第10回　第十一歌「冥府行」 第11回　第十二歌「セイレーン、スキュラ、カリュブディス」 第12回　レポートの課題と書き方 第13回　オデュッセウスと女たち 第14回　冒険ヒーローとしてのオデュッセウス 第15回　まとめと展望、期末レポート提出
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業の前に、知らない漢字や語彙を広辞苑などの大辞典で調べて、自分でテクストを読み、授業後に読み返すという作業が授業参加の前提である。
授業方法	講読。教員による質問、解説、問題点の指摘などを交えながら、テクストを一緒に読んでゆく（声に出して輪読する）。漢字の読み取りテストも行う。
評価基準と評価方法	授業への参加度、授業態度、漢字テストなどの平常点３０％、期末レポート７０％で評価する。
教科書	ホメロス『オデュッセイア上』（岩波文庫）、松平千秋訳、岩波書店　ISBN4-00-321024-7 ホメロス『オデュッセイア下』（岩波文庫）、松平千秋訳、岩波書店　ISBN4-00-321025-5
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読B						
担当教員	柿沼　伸明						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	長編小説を読む
授業の概要	サマセット・モームの『人間の絆（きずな）』という長編小説を読んでいきます。モームは、１９世紀末から２０世紀前半に活躍したイギリスの作家です。『人間の絆』は自伝的な要素の強い小説で、とくに何らかの思想的傾向性をもたず、物語は淡々と展開していきます。内容は、９歳で両親を失い孤児となった主人公が、みずからの肉体的コンプレックスや人づきあいの下手さに悩みながら成長していき、青年期に達すると芸術に傾倒（けいとう）したり、恋愛を経験したりしながら、人生の幸福とは何かを考えていくものです。こういうタイプの小説は、教養小説と呼ばれます。 　授業参加者は、大学入学時までこのような比較的長い小説を読んでこなかったでしょうから、長文読解のトレーニングになると思います。また、主人公とともに人生の幸福とは何かを考えていくことは、意義深い体験になるだろうと信じます。
到達目標	小説テクストを分析的に読めるようになること。
授業計画	第１回　教師が発表し、実地指導。 第２回～第５回　１人約２０ページ、３人発表、計６０ページの速さで進む。 第６回～第７回　『人間の絆』の一部の逸話を扱った『痴人の愛』というイギリス映画があるので、これを鑑賞する。 第８回～第１３回　計６０ページの速さで進み、１３回目で小説を読了したい。第１１回目にレポートの書き方について指導し、第１３回目に仮レポートを提出してもらう。 第１４回　提出された仮レポートを教師が徹底的に添削し、各人に返却する。このとき、どのようなことについて書くべきか、個別指導を行う。 第１５回　優秀なレポート幾つかのコピーをもってくるので、これらを輪読し、どのように優れているのか、どのように優れたレポートを書くべきなのかを説明する。その後、小説についての自分の考えを一人一人、発言してもらう。 （以上の結果、各人は仮レポートを書き改めて本レポートを作成し、教務課に提出する）
授業外における学習（準備学習の内容）	自分の発表の番でなくとも小説を読むこと。
授業方法	毎回、１人約２０ページほどの担当で、３名に発表してもらう。
評価基準と評価方法	口頭発表30%、レポート70%
教科書	サマセット・モーム『人間の絆（上・下）』（新潮文庫）中野好夫訳
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読B						
担当教員	山田　道夫						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	『オデュッセイア』を読む
授業の概要	紀元前８世紀に成ったとされ、西洋文学史のＡでありＺである『オデュッセイア』を松平千秋の散文訳で講読する。
到達目標	常用漢字の枠を超えた漢字や熟語、慣用句など日本語の知識を拡げて、端正でリズム感豊かな日本語の文章を楽しめるようになる。読んで考え、考えて読むというクリティカルな読書の技法を身につける。
授業計画	第１回　第十三歌「イタケへの帰還」 第２回　第十四歌「豚飼エウマイオス」 第３回　第十五歌「テレマコスの帰還」 第４回　第十六歌「父子の再会、討伐計画」 第５回　第十七歌「父子の帰館と求婚者たち」 第６回　第十八歌「乞食のオデュッセウス」 第７回　第十九歌「ペネロペイアとの対話」 第８回　第二十歌「討伐前夜」 第９回　第二十一・二歌「弓競技と求婚者誅殺」 第10回　求婚者たちの罪とゼウスの正義 第11回　第二十三歌「夫婦の再会」 第12回　認知のドラマと三つの印、謎のペネロペイア、レポートの課題と書き方 第13回　映画『キャストアウェイ』と『オデュッセイア』 第14回　映画『かくも長き不在』と『オデュッセイア』 第15回　まとめと展望、期末レポート提出
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業の前に、知らない漢字や語彙を広辞苑などの大辞典で調べて、自分でテクストを読み、授業後に読み返すという作業が授業参加の前提である。
授業方法	講読。教員による質問、解説、問題点の指摘などを交えながら、テクストを一緒に読んでゆく。漢字の読み取りテストも行う。
評価基準と評価方法	授業への参加度、授業態度、漢字テストなどの平常点３０％、期末レポート７０％で評価する。
教科書	ホメロス『オデュッセイア上』（岩波文庫）、松平千秋訳、岩波書店　ISBN4-00-321024-7 ホメロス『オデュッセイア下』（岩波文庫）、松平千秋訳、岩波書店　ISBN4-00-321025-5
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	考古学						
担当教員	渡辺　伸行						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜5	配当学年	2～4	単位数	4.0

授業のテーマ	日本考古学を学ぶ
授業の概要	(1)日本考古学概論 歴史を学ぶには、文字で記録されたものから知る方法と、文字のない時代や文字で記録されなかった生活から知る方法があります。ここでは、主として文字に記録されなかった物から歴史を考える方法、つまり考古学的方法を学習します。その上で、最近の発掘調査成果を踏まえて、考古学から日本の歴史をたどってみます。
到達目標	遺跡から学ぶ方法、つまり遺跡がその土地に作られた意図とその場所が選ばれた理由を考え、歴史を体感する想像力を涵養します。考古学が対象とする遺物＝「もの」の背後の人間の技術と精神を学び、考古資料を扱う学芸員としての基本的な思考法を身につけることを目指します。
授業計画	前期授業計画 第1回　考古学とはなにか 第2回　考古学の方法と時代区分 第3回　旧石器時代の生活～自然環境と動・植物相～ 第4回　縄文時代～自然環境と生業～ 第5回　縄文時代の住居と集落 第6回　縄文人の精神生活 第7回　縄文時代の終末と弥生時代の開始 第8回　考古系博物館施設の見学 第9回　縄文人と弥生人 第10回　弥生時代の住居と集落 第11回　青銅器と祭祀 第12回　魏志倭人伝の考古学 第13回　魏志倭人伝と倭国大乱 第14回　集落遺跡現地見学 第15回　弥生時代の墓～墳丘墓へ 後期授業計画 第1回　前方後円墳の出現～前期古墳の特徴～ 第2回　巨大古墳の築造とその時代 第3回　古墳時代の集落と豪族居館 第4回　大陸との交流と渡来文化 第5回　古墳現地研修 第6回　後期古墳から終末期古墳へ 第7回　飛鳥・奈良時代 ～文字の普及と地方社会～ 第8回　宮都の造営～飛鳥京から平安京～ 第9回　仏教の普及と古代寺院の造営 第10回　古代集落の変遷～飛鳥時代から平安時代～ 第11回　古代宮都現地見学 第12回　福原京と大輪田の泊 第13回　戦国時代の山城と近世の城館 第14回　近世から近代の神戸～港町の変遷～ 第15回　課題個別発表
授業外における学習（準備学習の内容）	休日には、身近にある博物館や歴史・考古資料館を見学してください。 史跡や神社仏閣なども訪ねて、その場所の地形や歴史地理を考える習慣をつけてください。
授業方法	講義及び演習と現地見学
評価基準と評価方法	試験40%、レポート40%、平常点20%
教科書	プリント配布

参考書	石川日出志『農耕社会の成立』岩波新書　ISBN-978400431271 寺沢薫『 王権誕生』講談社学術文庫ISBN-9784062919029 藤本強『考古学でつづる日本史』同成社ISBN-9784886214218 菊池徹夫『考古学の教室』平凡社ISBN-9784582853872　　小林謙一『縄文はいつから？』新泉社ISBN-9784787711014　　阿部芳郎『考古学の挑戦』岩波ジュニア新書ISBN-9784005006571 佐々木憲一『はじめて学ぶ考古学』有斐閣ISBN-9784641124349

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	広告企画編集						
担当教員	荒木　宏						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	火曜4	配当学年	3～4	単位数	4.0

授業のテーマ	広告の基礎知識の習得および表現技術の理解。
授業の概要	広告はコミュニケーションです。さまざまなメディアを活用し、言葉、映像、音楽を使って効果的に企業のメッセージを伝達する広告。その表現手法を学ぶ上で必要な基礎知識、広告ビジネスやメディアの現況、広告制作のプロセス、世界の広告表現などに触れ、広告制作技術の基本を理解します。広告制作の基本（コピーライティング）を知ることによって自己表現能力、コミュニケーション力の向上を目指します。
到達目標	自分の考えや思っていることを、文章や言葉で簡潔に且つ効果的に表現できるようになること。
授業計画	《前期》 １．ガイダンス（授業の概要・進め方、成績評価の方法・基準などの説明、注意事項など） ２．広告とコミュニケーション ３．広告と産業。広告産業の概要 ４．メディアと広告表現①（新聞・雑誌） ５．メディアと広告表現②（テレビ・ラジオ） ６．メディアと広告表現③（ｱｳﾄ･ｵﾌﾞ･ﾎｰﾑ･ﾒﾃﾞｨｱ） ７．メディアの変化と広告表現 ８．広告計画からクリエーティブワークまで ９．ブランディングとは １０．コンセプトの発見 １１．表現アイデアとその発想法 １２．プレゼンテーション １３．新聞広告・雑誌広告・ポスター制作のプロセス １４．テレビＣＭ・ラジオＣＭ制作のプロセス １５．広告制作のルールと倫理 《後期》 １．コピーライティングとは ２．コピーライターの資質 ３．欧米の広告表現 ４．アジアの広告表現 ５．日本の広告表現 ６．広告表現に見られる日本の特異性 ７．ワンコピー、ワンビジュアル ８．新聞広告を作ってみる ９．ＴＶＣＭを作ってみる １０．ＴＶＣＭに見る企業のイメージ戦略 １１．公共広告について １２．神戸松蔭女子学院大学のラジオＣＭを作ってみる １３．ラジオＣＭ原稿の制作 １４．ラジオＣＭ企画案のプレゼンテーションとフィードバック １５．ラジオＣＭ完成原稿の発表
授業外における学習（準備学習の内容）	日常生活の中で何気なく見ているテレビや新聞などの広告、街にある様々なメッセージを少し意識的に見るように心がけてください。広告が面白くなってくれば、講義がもっと面白くなると思います。
授業方法	主に講義により授業を進めて行きます。授業の性格上、映像を見ながらの講義が多くなります。
評価基準と評価方法	評価のための期末試験は行いません。講義の中で何回か課題を出題します。課題の評価は、内容が優れていれば勿論高く評価しますが、内容よりも取り組む姿勢を重視します。課題への取り組み、受講態度、出席率などを配慮し、総合的に評価します。
教科書	特定の教科書は使用しません。

参考書	小松　洋支、中村　卓司　監修　『新・コピーライター入門』　（株）電通 藤沢　武夫　『広告の学び方つくり方』　昭和堂 岸　勇希　『コミュニケーションデザイン　ーコミュニケーションをデザインする本ー』　（株）電通

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶA／平安の文学A						
担当教員	片岡　利博						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	源氏物語須磨の巻を読む
授業の概要	源氏物語須磨の巻を読みながら、源氏物語の世界に親しみ、あわせて、王朝物語と現代の小説との違いについて考える。
到達目標	王朝長編物語を精読するための基礎力を養う。
授業計画	１　源氏物語概説１ ２　源氏物語概説２ ３　須磨の巻を読む１ ４　同上２ ５　同上３ ６　同上４ ７　同上５ ８　同上６ ９　同上７ １０　同上８ １１　同上９ １２　同上１０ １３　同上１１ １４　まとめ １５　試験
授業外における学習（準備学習の内容）	ストーリーをしっかり理解するために、授業後、各自でノートを整理すること
授業方法	講義と講読
評価基準と評価方法	レポート（１～２回）と期末試験による
教科書	校注源氏物語分巻　須磨（武蔵野書院）
参考書	教室で指示する

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶB／平安の文学B						
担当教員	片岡　利博						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	源氏物語浮舟の巻を読む
授業の概要	源氏物語浮舟の巻を読みながら、源氏物語宇治十帖の世界に親しみ、あわせて、源氏物語正編との違いについて考える。
到達目標	王朝長編物語を精読するための基礎力を養う。
授業計画	１　源氏物語概説１ ２　源氏物語概説２ ３　浮舟の巻を読む１ ４　同上２ ５　同上３ ６　同上４ ７　同上５ ８　同上６ ９　同上７ １０　同上８ １１　同上９ １２　同上１０ １３　同上１１ １４　まとめ １５　試験
授業外における学習（準備学習の内容）	ストーリーをしっかり理解するために、授業後、各自でノートを整理すること
授業方法	講義と講読
評価基準と評価方法	レポート（１～２回）と期末試験による
教科書	校注源氏物語分巻　浮舟（武蔵野書院）
参考書	教室で指示する

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	宗教の歴史A						
担当教員	勝村　弘也						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	宗教の歴史を回顧する
授業の概要	原始宗教から、仏教、古代ユダヤ教、キリスト教などの高等宗教まで諸宗教について比較しながら通覧する。
到達目標	宗教の現代的な意味を見出す。また現代世界における価値観の多様化がどこに起因しているのかについて深く考える。
授業計画	１）仏教の基本的なものの考え方（１）宮沢賢治の詩を読む ２）仏教の基本的なものの考え方（２）平家物語から考える ３）日本の仏教説話 ４）ブッダの教え ５）大乗仏教 ６）石器時代の宗教 ７）日本神話（１） ８）日本神話（２） ９）シャーマニズム １０）世界の神話（１） １１）世界の神話（２） １２）古代ユダヤ教（１） １３）古代ユダヤ教（２） １４）イエスの教えとキリスト教 １５）プロテスタンティズムと近代世界
授業外における学習（準備学習の内容）	配布されるテクストを読んでおくこと
授業方法	主として講義形式。学生による報告をも適宜行い、質疑応答に相当の時間をかける。
評価基準と評価方法	授業への参加（単なる出席ではない）、２回程度の小レポートおよび学期末のレポートによる。
教科書	
参考書	講義において知らせる

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	宗教の歴史B						
担当教員	勝村　弘也						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	宗教の歴史を回顧する
授業の概要	日本の仏教、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教などの諸宗教について比較しながら通覧する。また芸術と宗教の関係について考える。宗教をめぐる現代社会のさまざまな問題について考察する。
到達目標	宗教の現代的な意味を見出す。また現代世界における価値観の多様化がどこに起因しているのかについて深く考える。
授業計画	１）ユダヤ教 ２）キリスト教とユダヤ教 ３）ギリシア思想とキリスト教 ４）日本における仏教の展開（１） ５）日本における仏教の展開（２）ゲスト・スピーカーを招く予定である ６）イスラーム（１） ７）中世のキリスト教世界（１） ８）中世のキリスト教世界（２） ９）イスラーム（２） １０）啓蒙思想と理神論、人権思想 １１）ゾロアスター教の歴史 １２）宗教と芸術（１） １３）宗教と芸術（２） １４）現代世界と諸宗教（１） １５）現代世界と諸宗教（２）
授業外における学習（準備学習の内容）	配布されるテクストを読んでおくこと
授業方法	主として講義形式。学生による報告をも適宜行い、質疑応答に相当の時間をかける。
評価基準と評価方法	授業への参加（単なる出席ではない）、２回程度の小レポートおよび学期末のレポートによる。
教科書	
参考書	講義において知らせる

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	西洋古典入門IA（ギリシアの神話と文学）						
担当教員	山田　道夫						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	ギリシアの神話と文学
授業の概要	古代ギリシア人の驚嘆すべき文化的達成（叙事詩、抒情詩、悲劇、喜劇、歴史叙述、哲学、弁論、彫刻、建築等々）は、西洋、ひいては現代世界の学問文化の源流であるとともに、今日もその模範としての意義をうしなってはいない。そして彼らの文学も歴史も哲学も、諸民族の神話と比較して格段に豊かで洗練された彼らの神話のインスピレーションから生まれてきた。この授業では万華鏡のようなギリシア神話の世界とその神話を題材としたギリシア古典文学の特質と魅力について学んでゆく。
到達目標	ギリシアの神話と文学について基礎的な知識をもつとともに、文学を学び楽しむための読解の技能を身につける。
授業計画	第１回　神話（mythos,myth,mythology）とは何か？　ギリシア神話の原典は？ 第２回　ギリシア神話の構造―宇宙の生成、神々、英雄、人間 第３回　ギリシア文学の時代区分、古典期アテナイ―ギリシア文化の黄金時代 第４回　王位簒奪神話とオリンポスの神々 第５回　トロイア戦争とホメロスの叙事詩(1)―『イリアス』 第６回　トロイア戦争とホメロスの叙事詩(2)―『オデュッセイア』、小テスト① 第７回　プロメテウス神話とヘシオドスの人間観 第８回　アイスキュロスの『縛られたプロメテウス』 第９回　ギリシア神話の英雄たち(1)―不条理を生きる 第10回　ギリシア神話の英雄たち(2)―ペルセウス他、小テスト② 第11回　ギリシア神話と日本の神話 第12回　ギリシア悲劇の最高傑作―ソポクレスの『オイディプス王』 第13回　女の叫び―エウリピデスの『メデイア』 第14回　貞淑で賢い女の楽しい話―エウリピデスの『ヘレネー』 第15回　回顧と展望、最終テスト
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の進度に合わせ、また授業中の指示にしたがって、教科書を読むとともに、図書館で古典のテクストや参考文献を借り出して読むこと。
授業方法	教科書やプリントを使用しながら講義する。
評価基準と評価方法	授業への参加度（３０％）、２回の小テスト（３０％）、最終テスト（４０％）で評価する。
教科書	西村賀子『ギリシア神話―神々と英雄に出会う』（中公新書）ISBN4-12-101798-6
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	西洋古典入門IB（ギリシア語）						
担当教員	山田　道夫						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	ギリシア語初歩
授業の概要	ただ単に「ギリシア語を学ぶ」といえば、それは現在のギリシャで話されている「現代ギリシャ語」ではなくて、古代のギリシア語のことである。ふつうこのギリシア語を学ぶのは西洋文化の源泉となった文学・歴史・哲学の古典、さらには新訳聖書などを原語で読んだり、研究したりするためだが、この授業では、受講生がギリシア語とはどんな言語かを知り、西洋古典文化や、英語やドイツ語など印欧語系の言語そのものへの興味関心を高めることを目的として、ごく簡単な文法を学び、簡単な文章を訳読する。
到達目標	ギリシア文字を発音し、動詞と名詞の初歩的な変化形を識別し、その範囲での簡単なギリシア語の文章を理解できるようになること。
授業計画	第１回　古典ギリシア語について、ギリシア語のアルファベット、音韻の分類 第２回　発音（二重母音、注意すべき子音、気息記号） 第３回　発音（音節とアクセント） 第４回　動詞の変化(1)―直説法能動相現在人称変化 第５回　第一変化名詞(1) 第６回　動詞の変化(2)―直説法能動相未来人称変化 第７回　第一変化名詞(2) 第８回　動詞の変化(3)―直説法能動相未完了過去人称変化 第９回　第二変化名詞 第10回　第一第二変化形容詞 第11回　前置詞 第12回　動詞の変化(4)―直説法能動相アオリスト人称変化 第13回　簡単なギリシア語の文章を読む 第14回　簡単なギリシア語の文章を読む 第15回　簡単なギリシア語の文章を読む
授業外における学習（準備学習の内容）	教科書の復習、宿題の練習問題
授業方法	教科書に沿って文法事項を学び、練習問題を解いてゆく。
評価基準と評価方法	授業への参加度や学習態度、課題の達成度を総合して平常点で評価する。
教科書	田中美知太郎、松平千秋『ギリシア語入門』（岩波全書）ISBN4-00-020125-5
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の宗教						
担当教員	勝村　弘也						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～4	単位数	4.0

授業のテーマ	宗教の歴史を回顧する
授業の概要	原始宗教から、仏教、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教などの高等宗教まで諸宗教について比較しながら通覧する。これは現代社会のさまざまな問題について考察するためである。
到達目標	宗教の現代的な意味を見出す。また現代世界における価値観の多様化がどこに起因しているのかについて深く考える。
授業計画	前期 １）仏教の基本的なものの考え方（１）宮沢賢治の詩を読む ２）仏教の基本的なものの考え方（２）平家物語から考える ３）日本の仏教説話 ４）ブッダの教え ５）大乗仏教 ６）石器時代の宗教 ７）日本神話（１） ８）日本神話（２） ９）シャーマニズム １０）世界の神話（１） １１）世界の神話（２） １２）古代ユダヤ教（１） １３）古代ユダヤ教（２） １４）イエスの教えとキリスト教 １５）プロテスタンティズムと近代世界 後期 １）ユダヤ教 ２）キリスト教とユダヤ教 ３）ギリシア思想とキリスト教 ４）日本における仏教の展開（１） ５）日本における仏教の展開（２） ６）イスラーム（１） ７）中世のキリスト教世界（１） ８）中世のキリスト教世界（２） ９）イスラーム（２） １０）啓蒙思想と理神論、人権思想 １１）ゾロアスター教の歴史 １２）宗教と芸術（１） １３）宗教と芸術（２） １４）現代世界と諸宗教（１） １５）現代世界と諸宗教（２）
授業外における学習（準備学習の内容）	配布されるテクストを読んでおくこと
授業方法	主として講義形式。学生による報告をも適宜行い、質疑応答に相当の時間をかける。
評価基準と評価方法	授業への参加（単なる出席ではない）、各学期２回程度の小レポートおよび学期末のレポートによる。
教科書	

参考書	講義において知らせる

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸I						
担当教員	多賀谷・武田（良）・柿沼・浦部						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	4.0

授業のテーマ	近現代のイギリス・ドイツ・ロシア・中国の文学と文化
授業の概要	担当者：多賀谷　真吾 テーマ：文芸としての英米文学 英米文学における詩と劇の話をする。具体的には、シェイクスピアの劇、ワーズワスのロマン派の詩、そしてマザー・グースなどである。詩を身近に感じて、親しんでもらうことがこの授業の最大目標である。文学としてではなく、文芸としての詩の面白さを紹介するが、そのひとつのやり方として、後半の授業では、詩が映画という他の芸術領域と密接な関係を持つことを指摘する。 担当者：武田　良材 テーマ：二つの世界大戦とドイツ文学 20世紀前半に活躍し、今なおドイツ文学界で最も有名なトーマス・マンならびにマン家を取り上げる。ノーベル賞作家トーマス・マン、その兄で、官能的作風の断固たる反戦の闘士ハインリヒ・マン、ナチスに敵対したトーマス・マンの子供たち。彼らの事績から、当時のドイツ文学をめぐる状況が幅広く知られる。同じく侵略国だった日本の文学状況を浮き上がらせる鏡でもある。 受講に際しては、トーマス・マンの長編小説を一つは読んでおくことが望ましい。 担当者：柿沼　伸明 テーマ：ロシア文化史 18世紀から20世紀にかけてのロシアの歴史、文学、美術、音楽、バレエ、アニメについて概説する。ロシア文学としては、19世紀の二大文豪であるトルストイとドストエフスキーの生涯と作品をとりあげる。音楽と美術は、世界的によく知られた作曲家や画家の作品を実際に鑑賞してみる。また、ロシアで開発されたピンスクリーンアニメ、切り絵アニメ、油絵アニメの制作方法を説明し、その映像効果を直接、味わってみる。 担当者：浦部　依子 テーマ：中国近現代文学概論 アヘン戦争（1840）を境として、それまでの中国文化の体系は大きく変化し、内外の複雑な政治情況の中で胚胎した新しい文学は、近代中国の文学の方向を確実に形成していった。本講義は、清朝末期から五・四運動（1919）前までの中国近代文学の情況と。五・四運動から新中国の成立（1949）までの現代文学の情況、およびそれ以降の文芸上の重要事項をとりあげ、中国近現代文学の誕生の周辺とその諸相について講じる。 　本講義で取り扱う中国の新しい文学は、文言に替わる口語体の文章の提唱など、中国伝統文学の特質とは異なるものであるが、その一方で変わることのない共通点もある。それは、中国文学はおよそ何れの時代においても、政治を抜きにしては述べ難いという点である。 　毎回の講義では各時期の社会背景を概説したのち一、二人の作家を取りあげ、作品解釈やディベートなどを通じて、時代と作家が表現しようとしたものについての考察を進めてゆく。
到達目標	近現代のイギリス・ドイツ・ロシア・中国の文学と文化の理解
授業計画	担当者：多賀谷　真吾 第１回：イントロダクション 第２回：英語の詩ってどんなもの？ 第３回：マザーグースとは？ 第４回：詩人と自然―ワーズワス 第５回：シェイクスピアの言葉の力 第６回：詩と映画の深い関係（１） 第７回：詩と映画の深い関係（２） 第８回：まとめと結論 担当者：武田　良材 第１回：若きトーマス・マンの成功（大衆文学） 第２回：文化対文明の兄弟げんか 第３回：エーリカ・マンとクラウス・マンの反ナチス活動（ナチスの台頭） 第４回：アメリカでの成功（亡命） 第５回：悪魔との契約（第二次世界大戦） 第６回：クラウス・マンのアンガージュマンと絶望（冷戦） 第７回：日本でのナチス文学ならびに亡命ドイツ文学（戦争責任） 担当者：柿沼　伸明 第１回：ロシアのアニメ映画監督の紹介 第２回：ロシア史概観 第３回：１９世紀ロシア文学史（トルストイ解説） 第４回：ロシアにおけるバレエの歴史とチャイコフスキー 第５回：１９世紀ロシア文学史（ドストエフスキー解説） 第６回：１８～２０世紀ロシア美術小史

授業計画	第７回：ロシアにおけるクラシック音楽小史 担当者：浦部　依子　　＊作家と作品は変更することがある。 第１回：中国文学史における近現代文学の位置と特質 第２回：清代後期の社会背景と文学 （龔自珍「詠史」・梁啓超「太平洋遇雨」/「少年中国説」・女流作家秋瑾「満江紅」） 第３回：中華民国期の社会背景と文学（五四新文化運動とは・胡適・陳独秀・魯迅「狂人日記」） 第４回：中華民国期の文学（女流作家謝冰心「二つの家庭」・魯迅「阿Q正伝」・郭沫若「漂流三部曲・岐路」） 第５回：（小テスト①実施）中華民国期の文学（茅盾「林商店」・巴金「家」・老舎「駱駝祥子」・女流作家丁玲「霞村にいた時」・毛沢東「文芸講話」とは） 第６回：中華人民共和国（新中国）成立期の社会背景と文学（趙樹里「小二黒結婚」/「李有才板話」） 第７回：新中国文革期の文芸（歴史戯曲　呉晗「海瑞罷官」・文化大革命とは・革命現代京劇） 第８回：（小テスト②実施）近現代文学のまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	各授業担当者の指示に従うこと。
授業方法	４人の講師によるオムニバス形式の講義
評価基準と評価方法	出席30%、レポート70%で評価。４人の講師が出した評点の平均値によって成績が決定される。
教科書	プリントを配布
参考書	授業中に紹介 （以下、浦部依子先生の授業の参考書） ①吉田富夫『中国現代文学史　一九一五 - 四九』（朋友書店、1997） ②藤井省三、大木康『新しい中国文学史』（ミネルヴァ書房、1997） ＊第Ⅱ部「近現代の中国文学」（p.102～） ③魯迅、竹内好訳『阿Q正伝・狂人日記　他十二篇（吶喊）』（岩波書店、1981） ④山田敬三『魯迅の世界』（大修館書店、1977） ⑤丸山昇監修『中国現代文学珠玉選　小説〈1〉～〈3〉』（二玄社、2000～2001） ⑥『中国現代文学選集』20巻（平凡社、1962～1963） ⑦丸山昇、伊藤虎丸、新村徹編『中国現代文学事典』（東京堂出版、1985、1996） ⑧中国文学研究会編『中国新文学事典』（河出文庫、1955）

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸II						
担当教員	山本（明）・勝村・浦部・木下						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	4.0

授業のテーマ	古典となっている世界の文学や芸術作品について学ぶ
授業の概要	４名の担当者による講義である。以下に各担当者による授業の概要を述べる。 担当者：山本明美 ヨーロッパ１７世紀末までの古典文芸をおおまかに理解するのが目的。ヨーロッパの古典文芸は二つの潮流の賜物である。二つの潮流とは古代ギリシア・ローマ文化とキリスト教文化である。これらの潮流がいかに古典の文芸を創造していったかを眺める。 担当者：勝村弘也 古代オリエントの歴史と文化。まず、西アジアの地理と風土についてのべる。その後、古代メソポタミア文明について概説し、「ギルガメシュ叙事詩」と聖書の「ノアの方舟物語」の関係について考察する。次に、古代エジプト文明、特に中王国時代以降の文学と美術について詳しく述べる。これを学ぶために必要なヒエログリフに関する基礎的な事項について解説する。 担当者：浦部依子 中国文学は、伝統的ジャンルの「詩・文」のほか、宋代頃には音楽を伴う「詞」が成長、元明清には「戯曲・小説」の興隆を見て、「女性」や「男女」の文学主題は、愈々その精彩を放ちます。本講義では中国文学の特質と戯曲文学の位置を講じて、いくつかの戯曲を紹介し、映像資料によるレヴューと討論やグループ別の名場面の寸劇発表を通して、戯曲のヒロインの主体意識を考察します。 担当者：木下昌巳 古代ギリシアの文芸を概観し、その代表的作品を解説・鑑賞する。古代ギリシアの文化は、ヨーロッパにおいては、学問・芸術など広範囲に渡って、キリスト教と並びヨーロッパ全体の文化全体の源泉というべき地位を担い、多方面に圧倒的な影響を与えてきた。文芸においても、ギリシア古典期に書かれた諸作品は、近代に至るまで古典的規範として仰がれ、時代時代の精神を吹き込まれながら読まれ続け、さまざまな分野の芸術家たちにインスピレーションを与え続けてきたのである。この講義では、古代ギリシアの文芸作品のなかから、プラトンの対話篇『饗宴』を読み、ソポクレスの悲劇『オイディプス王』をＤＶＤを使って鑑賞する。
到達目標	世界の古典的な作品に親しみ、３年次以降の学びの基礎を作る
授業計画	担当者：山本明美 第１回 ヨーロッパの歴史・地域・文化 第２回　イタリア：ダンテ『神曲』 第３回　イタリア：ボッカッチョ『デカメロン』 第４回　イギリス：チョサー『カンタベリー物語』 第５回　フランス：ペロー『童話集』 第６回　フランスの新旧論争について 第７回 試験 担当者：勝村弘也 第１回：西アジアの地理と風土、古代メソポタミアの歴史 第２回：「ギルガメシュ叙事詩」と「ノアの方舟物語」 第３回：前回つづき、ヒエログリフの解読 第４回：古代エジプトの美術、ヒエログリフを学ぶ 第５回：神話的世界観 第６回：古代エジプトの歴史と神話（１） 第７回：古代エジプトの歴史と神話（２） 第８回：「死者の書」 担当者：浦部依子　　＊ 戯曲設定は、変更することがあります。 第1回　a中国文学の特質と古典戯曲文学の位置 　　b匈奴へ嫁した宮女　王昭君 「昭君出塞（しょうくんしゅっさい）」 第2回　メイドがとりもつお嬢様の恋　崔鶯鶯 「西廂記（せいしょうき）」 第3回　糠（ぬか）をたべる嫁　趙五娘 「琵琶記（びわき）」 第4回小テスト　生き返ったお嬢様　杜麗娘 「牡丹亭（ぼたんてい）」 第5回　名妓が拾ったまことの恋　王美娘 「占花魁（おいらんを占む）」 第6回小テスト 中国語基礎レッスン、セリフ練習、女性主体意識討論、名場面のグループ発表 第7回　名場面のグループ発表（続き） 担当者：木下昌巳 １、ギリシアの文芸概観 ２、文芸と哲学 ３、プラトン『饗宴』を読む（１）　人はなぜ恋をするのか？ ４、プラトン『饗宴』を読む（２）　「プラトニック・ラブ」 ５、ギリシア悲劇概観 ６、ソポクレス『オイディプス王』を鑑賞する（１） ７、ソポクレス『オイディプス王』を鑑賞する（２）

授業計画	８、ギリシア悲劇と現代思想ーオイディプス・コンプレックスについて
授業外における学習（準備学習の内容）	配布資料を熟読しておくこと
授業方法	山本：講義と試験。学生は作品を読み配布資料の問題と取り組み、試験を受ける。 勝村：講義 浦部：文学講義（映像資料によるレヴューと討論を含む） 文学表現（グループによる名場面の寸劇発表） 木下：講義
評価基準と評価方法	担当者：山本明美　　平常点２４％、レポート７６％を総合評価。 担当者：勝村弘也　　平常点約４０％、レポート約６０％。 担当者：浦部依子　　平常点約50％、小テスト2回約45％、発表約5％で総合的に評価します。 担当者：木下昌巳　　レポート70％、平常点30％。
教科書	講義開始日に配布する資料。山本担当：『ペロー童話集』（岩波文庫）
参考書	担当者：山本　『ペロー童話集』（岩波文庫） 担当者：勝村　　文献リストを授業中に配布する 担当者：浦部 ・中国文学全般に関する参考文献（抜粋）： 倉石武四郎『中国文学講話』東京:岩波書店1974 ISBN-10: 4469230154 吉川幸次郎『中国文学入門』東京:弘文堂1976 ISBN-10: 406158023X 岩城秀夫『中国文学概論』京都:朋友書店1996 ISBN-10: 4892810479 興膳宏編『中国文学を学ぶ人のために』京都:世界思想社1991 ISBN-10: 479070386X 浦部依子（月刊「東方」連載）「花の中国文学漫歩」東京:東方書店1998年3月～99年2月 （205号～216号）ISSN:0910-8904 大木康『中国明清時代の文学』東京：放送大学教育振興会2001 ISBN-10: 4595670303 （中国語）章培恒･駱玉明主編『中国文学史 新著』（全三冊）上海:復旦大学出版社2007 ISBN：9787309054620 など ・戯曲の日本語訳書（抜粋）： 王昭君（おうしょうくん） 1『還魂記・漢宮秋』宮原民平訳　国訳漢文大成文学部第10巻//b　東京: 國民文庫刊行會, 1921.7 西廂記（せいしょうき） 1『西廂記・琵琶記』宮原民平訳註　国訳漢文大成文学部第9巻//a 東京：國民文庫刊行會, 1923 2『西廂記』王実甫著、鹽谷節山訳　東京：昌平堂, 1948 3『新訳西廂記』岸春風楼訳　東京: 文教社, 1916（大正5年） 4『西廂記』　岡島獻太郎訳 東京: 團々社書店（発売）, 1894 琵琶記（びわき） 1『西廂記・琵琶記』宮原民平訳註 国訳漢文大成 文学部第9巻//a東京：國民文庫刊行會, 1923 2『國譯琵琶記』　鹽谷温訳註　国訳漢文大成 文学部第35册(第9帙の3) 東京: 國民文庫刊行會, 1923 杜麗娘 「牡丹亭（ぼたんてい）」 1『還魂記・漢宮秋』宮原民平訳　国訳漢文大成文学部第10巻//b　東京: 國民文庫刊行會, 1921.7 2『還魂記』岩城秀夫訳（中国古典文学大系・戯曲集・下）東京：平凡社 王美娘 「占花魁（おいらんを占む）」 1「売油郎独占花魁」『今古奇観』中国古典文学大系３７・３８上又は下に　千田九一他訳　東京：平凡社　１９７０・１９７３〕 担当者：木下昌巳 プラトン 著　森進一訳　『競演』　（新潮文庫） ソポクレス 著　藤澤令夫訳　『オイディプス王』　（岩波文庫） （必要な箇所はは授業中に配布するので、各自で購入する必要はありません。）

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸IA						
担当教員	多賀谷　真吾・武田　良材						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	近現代のイギリスとドイツの文学・文化
授業の概要	担当者：多賀谷　真吾 テーマ：文芸としての英米文学 英米文学における詩と劇の話をする。具体的には、シェイクスピアの劇、ワーズワスのロマン派の詩、そしてマザー・グースなどである。詩を身近に感じて、親しんでもらうことがこの授業の最大目標である。文学としてではなく、文芸としての詩の面白さを紹介するが、そのひとつのやり方として、後半の授業では、詩が映画という他の芸術領域と密接な関係を持つことを指摘する。 担当者：武田　良材 テーマ：二つの世界大戦とドイツ文学 20世紀前半に活躍し、今なおドイツ文学界で最も有名なトーマス・マンならびにマン家を取り上げる。ノーベル賞作家トーマス・マン、その兄で、官能的作風の断固たる反戦の闘士ハインリヒ・マン、ナチスに敵対したトーマス・マンの子供たち。彼らの事績から、当時のドイツ文学をめぐる状況が幅広く知られる。同じく侵略国だった日本の文学状況を浮き上がらせる鏡でもある。 受講に際しては、トーマス・マンの長編小説を一つは読んでおくことが望ましい。
到達目標	近現代のイギリスとドイツの文学・文化の理解
授業計画	担当者：多賀谷　真吾 第１回：イントロダクション 第２回：英語の詩ってどんなもの？ 第３回：マザーグースとは？ 第４回：詩人と自然―ワーズワス 第５回：シェイクスピアの言葉の力 第６回：詩と映画の深い関係（１） 第７回：詩と映画の深い関係（２） 第８回：まとめと結論 担当者：武田　良材 第１回：若きトーマス・マンの成功（大衆文学） 第２回：文化対文明の兄弟げんか 第３回：エーリカ・マンとクラウス・マンの反ナチス活動（ナチスの台頭） 第４回：アメリカでの成功（亡命） 第５回：悪魔との契約（第二次世界大戦） 第６回：クラウス・マンのアンガージュマンと絶望（冷戦） 第７回：日本でのナチス文学ならびに亡命ドイツ文学（戦争責任）
授業外における学習（準備学習の内容）	各授業担当者の指示に従うこと。
授業方法	２人の講師によるオムニバス形式の講義
評価基準と評価方法	出席30%、レポート70%で評価。２人の講師が出した評点の平均値によって成績が決定される。
教科書	プリントを配布
参考書	授業中に紹介

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸IB						
担当教員	柿沼　伸明・浦部　依子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	近現代のロシアと中国の文学・文化
授業の概要	担当者：柿沼　伸明 テーマ：ロシア文化史 18世紀から20世紀にかけてのロシアの歴史、文学、美術、音楽、バレエ、アニメについて概説する。ロシア文学としては、19世紀の二大文豪であるトルストイとドストエフスキーの生涯と作品をとりあげる。音楽と美術は、世界的によく知られた作曲家や画家の作品を実際に鑑賞してみる。また、ロシアで開発されたピンスクリーンアニメ、切り絵アニメ、油絵アニメの制作方法を説明し、その映像効果を直接、味わってみる。 担当者：浦部　依子 テーマ：中国近現代文学概論 アヘン戦争（1840）を境として、それまでの中国文化の体系は大きく変化し、内外の複雑な政治情況の中で胚胎した新しい文学は、近代中国の文学の方向を確実に形成していった。本講義は、清朝末期から五・四運動（1919）前までの中国近代文学の情況と。五・四運動から新中国の成立（1949）までの現代文学の情況、およびそれ以降の文芸上の重要事項をとりあげ、中国近現代文学の誕生の周辺とその諸相について講じる。 　本講義で取り扱う中国の新しい文学は、文言に替わる口語体の文章の提唱など、中国伝統文学の特質とは異なるものであるが、その一方で変わることのない共通点もある。それは、中国文学はおよそ何れの時代においても、政治を抜きにしては述べ難いという点である。 　毎回の講義では各時期の社会背景を概説したのち一、二人の作家を取りあげ、作品解釈やディベートなどを通じて、時代と作家が表現しようとしたものについての考察を進めてゆく。
到達目標	近現代のロシアと中国の文学・文化の理解
授業計画	担当者：柿沼　伸明 第１回：ロシアのアニメ映画監督の紹介 第２回：ロシア史概観 第３回：１９世紀ロシア文学史（トルストイ解説） 第４回：ロシアにおけるバレエの歴史とチャイコフスキー 第５回：１９世紀ロシア文学史（ドストエフスキー解説） 第６回：１８～２０世紀ロシア美術小史 第７回：ロシアにおけるクラシック音楽小史 担当者：浦部　依子　　＊作家と作品は変更することがある。 第１回：中国文学史における近現代文学の位置と特質 第２回：清代後期の社会背景と文学 （龔自珍「詠史」・梁啓超「太平洋遇雨」/「少年中国説」・女流作家秋瑾「満江紅」） 第３回：中華民国期の社会背景と文学（五四新文化運動とは・胡適・陳独秀・魯迅「狂人日記」） 第４回：中華民国期の文学（女流作家謝冰心「二つの家庭」・魯迅「阿Q正伝」・郭沫若「漂流三部曲・岐路」） 第５回：（小テスト①実施）中華民国期の文学（茅盾「林商店」・巴金「家」・老舎「駱駝祥子」・女流作家丁玲「霞村にいた時」・毛沢東「文芸講話」とは） 第６回：中華人民共和国（新中国）成立期の社会背景と文学（趙樹里「小二黒結婚」/「李有才板話」） 第７回：新中国文革期の文芸（歴史戯曲　呉晗「海瑞罷官」・文化大革命とは・革命現代京劇） 第８回：（小テスト②実施）近現代文学のまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	各授業担当者の指示に従うこと。
授業方法	２人の講師によるオムニバス形式の講義
評価基準と評価方法	出席30%、レポート70%で評価。２人の講師が出した評点の平均値によって成績が決定される。
教科書	プリントを配布

参考書	授業中に紹介 （以下、浦部依子先生の授業の参考書） ①吉田富夫『中国現代文学史　一九一五 - 四九』（朋友書店、1997） ②藤井省三、大木康『新しい中国文学史』（ミネルヴァ書房、1997） 　＊第Ⅱ部「近現代の中国文学」（p.102～） ③魯迅、竹内好訳『阿Q正伝・狂人日記　他十二篇（吶喊）』（岩波書店、1981） ④山田敬三『魯迅の世界』（大修館書店、1977） ⑤丸山昇監修『中国現代文学珠玉選　小説〈1〉～〈3〉』（二玄社、2000～2001） ⑥『中国現代文学選集』20巻（平凡社、1962～1963） ⑦丸山昇、伊藤虎丸、新村徹編『中国現代文学事典』（東京堂出版、1985、1996） ⑧中国文学研究会編『中国新文学事典』（河出文庫、1955）

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸IIA						
担当教員	山本　明美・勝村　弘也						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	古典となっている世界の文学や芸術作品について学ぶ
授業の概要	２名の担当者による講義である。以下に各担当者による授業の概要を述べる。 担当者：山本明美 ヨーロッパ１７世紀末までの古典文芸をおおまかに理解するのが目的。ヨーロッパの古典文芸は二つの潮流の賜物である。二つの潮流とは古代ギリシア・ローマ文化とキリスト教文化である。これらの潮流がいかに古典の文芸を創造していったかを眺める。 担当者：勝村弘也 古代オリエントの歴史と文化。まず、西アジアの地理と風土についてのべる。その後、古代メソポタミア文明について概説し、「ギルガメシュ叙事詩」と聖書の「ノアの方舟物語」の関係について考察する。次に、古代エジプト文明、特に中王国時代以降の文学と美術について詳しく述べる。これを学ぶために必要なヒエログリフに関する基礎的な事項について解説する。
到達目標	世界の古典的な作品に親しみ、３年次以降の学びの基礎を作る
授業計画	担当者：山本明美 第１回 ヨーロッパの歴史・地域・文化 第２回　イタリア：ダンテ『神曲』 第３回　イタリア：ボッカッチョ『デカメロン』 第４回　イギリス：チョサー『カンタベリー物語』 第５回　フランス：ペロー『童話集』 第６回　フランスの新旧論争について 第７回 試験 担当者：勝村弘也 第１回：西アジアの地理と風土、古代メソポタミアの歴史 第２回：「ギルガメシュ叙事詩」と「ノアの方舟物語」 第３回：前回つづき、ヒエログリフの解読 第４回：古代エジプトの美術、ヒエログリフを学ぶ 第５回：神話的世界観 第６回：古代エジプトの歴史と神話（１） 第７回：古代エジプトの歴史と神話（２） 第８回：「死者の書」
授業外における学習（準備学習の内容）	配布資料を熟読しておくこと
授業方法	山本：講義と試験。学生は授業で解説を聞きながら諸作品の要約・抜粋を読み、試験を受ける。 勝村：講義
評価基準と評価方法	担当者：山本明美　　平常点２４％、レポート７６％を総合評価。 担当者：勝村弘也　　平常点約４０％、レポート約６０％。
教科書	講義開始日に配布する資料。担当者：山本　『ペロー童話集』（岩波文庫）
参考書	担当者：勝村　　文献リストを授業中に配布する

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸IIB						
担当教員	浦部　依子・木下　昌巳						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	古典となっている世界の文学や芸術作品について学ぶ
授業の概要	２名の担当者による講義である。以下に各担当者による授業の概要を述べる。 担当者：浦部依子 中国文学は、伝統的ジャンルの「詩・文」のほか、宋代頃には音楽を伴う「詞」が成長、元明清には「戯曲・小説」の興隆を見て、「女性」や「男女」の文学主題は、愈々その精彩を放ちます。本講義では中国文学の特質と戯曲文学の位置を講じて、いくつかの戯曲を紹介し、映像資料によるレヴューと討論やグループ別の名場面の寸劇発表を通して、戯曲のヒロインの主体意識を考察します。 担当者：木下昌巳 古代ギリシアの文芸を概観し、その代表的作品を解説・鑑賞する。古代ギリシアの文化は、ヨーロッパにおいては、学問・芸術など広範囲に渡って、キリスト教と並びヨーロッパ全体の文化全体の源泉というべき地位を担い、多方面に圧倒的な影響を与えてきた。文芸においても、ギリシア古典期に書かれた諸作品は、近代に至るまで古典的規範として仰がれ、時代時代の精神を吹き込まれながら読まれ続け、さまざまな分野の芸術家たちにインスピレーションを与え続けてきたのである。この講義では、古代ギリシアの文芸作品のなかから、プラトンの対話篇『饗宴』を読み、ソポクレスの悲劇『オイディプス王』をＤＶＤを使って鑑賞する。
到達目標	世界の古典的な文芸作品に親しみ、３年次以降の学びの基礎を作る
授業計画	担当者：浦部依子　　＊戯曲設定は、変更することがあります。 第1回　a中国文学の特質と古典戯曲文学の位置 　　b匈奴へ嫁した宮女　王昭君　「昭君出塞（しょうくんしゅっさい）」 第2回　メイドがとりもつお嬢様の恋　崔鶯鶯　「西廂記（せいしょうき）」 第3回　糠（ぬか）をたべる嫁　趙五娘　「琵琶記（びわき）」 第4回小テスト　生き返ったお嬢様　杜麗娘　「牡丹亭（ぼたんてい）」 第5回　名妓が拾ったまことの恋　王美娘　「占花魁（おいらんを占む）」 第6回小テスト 中国語基礎レッスン、セリフ練習、女性主体意識討論、名場面のグループ発表 第7回　名場面のグループ発表（続き） 担当者：木下昌巳 １、ギリシアの文芸概観 ２、文芸と哲学 ３、プラトン『饗宴』を読む（１）　人はなぜ恋をするのか？ ４、プラトン『饗宴』を読む（２）　「プラトニック・ラブ」 ５、ギリシア悲劇概観 ６、ソポクレス『オイディプス王』を鑑賞する（１） ７、ソポクレス『オイディプス王』を鑑賞する（２） ８、ギリシア悲劇と現代思想ーオイディプス・コンプレックスについて
授業外における学習（準備学習の内容）	配布資料を熟読しておくこと
授業方法	浦部：文学講義（映像資料によるレヴューと討論を含む） 文学表現（グループによる名場面の寸劇発表） 木下：講義
評価基準と評価方法	担当者：浦部依子　　平常点約50%、小テスト2回約45%、発表約5%で総合的に評価します。 担当者：木下昌巳　　レポート70%、平常点30%。
教科書	前期の講義開始日に配布する資料と同じ。
参考書	担当者：浦部 ・中国文学全般に関する参考文献（抜粋）： 倉石武四郎『中国文学講話』東京:岩波書店1974 ISBN-10: 4469230154 吉川幸次郎『中国文学入門』東京:弘文堂1976 ISBN-10: 406158023X 岩城秀夫『中国文学概論』京都:朋友書店1996 ISBN-10: 4892810479

参考書	興膳宏編『中国文学を学ぶ人のために』京都:世界思想社1991 ISBN-10: 479070386X 浦部依子（月刊「東方」連載）「花の中国文学漫歩」東京:東方書店1998年3月～99年2月 （205号～216号）ISSN:0910-8904 大木康『中国明清時代の文学』東京：放送大学教育振興会2001 ISBN-10: 4595670303 （中国語）章培恒･駱玉明主編『中国文学史 新著』（全三冊）上海:復旦大学出版社2007 ISBN：9787309054620 など ・戯曲の日本語訳書（抜粋）： 王昭君（おうしょうくん） 1『還魂記・漢宮秋』宮原民平訳　国訳漢文大成文学部第10巻//b　東京: 國民文庫刊行會, 1921.7 西廂記（せいしょうき） 1『西廂記・琵琶記』宮原民平訳註　国訳漢文大成文学部第9巻//a 東京：國民文庫刊行會, 1923 2『西廂記』王実甫著、鹽谷節山訳　東京：昌平堂, 1948 3『新訳西廂記』岸春風楼訳　東京: 文教社, 1916（大正5年） 4『西廂記』　岡島獻太郎訳 東京: 團々社書店（発売）, 1894 琵琶記（びわき） 1『西廂記・琵琶記』宮原民平訳註 国訳漢文大成 文学部第9巻//a東京：國民文庫刊行會, 1923 2『國譯琵琶記』　鹽谷温訳註　国訳漢文大成 文学部第35册(第9帙の3) 東京: 國民文庫刊行會, 1923 杜麗娘 「牡丹亭（ぼたんてい）」 1『還魂記・漢宮秋』宮原民平訳　国訳漢文大成文学部第10巻//b　東京: 國民文庫刊行會, 1921.7 2『還魂記』岩城秀夫訳（中国古典文学大系・戯曲集・下）東京：平凡社 王美娘 「占花魁（おいらんを占む）」 1「売油郎独占花魁」『今古奇観』中国古典文学大系３７・３８上又は下に　千田九一他訳　東京：平凡社　１９７０・１９７３〕 担当者：木下昌巳 プラトン 著　森進一訳　『競演』　（新潮文庫） ソポクレス 著　藤澤令夫訳　『オイディプス王』　（岩波文庫） （必要な箇所はは授業中に配布するので、各自で購入する必要はありません。）

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	柿沼　伸明						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業論文の指導
授業の概要	卒業論文執筆のための基本作業と細かな文章作法を教え、各人が自分の関心テーマに沿って充実した卒業論文を完成させることを助ける。
到達目標	卒業論文の完成
授業計画	第１回：卒業論文提出までの日程・課題の説明する。 第２～６回：卒業論文のテーマの見つけ方、参考文献の探し方、卒業論文の書き方、日本語の文章作法等を指導する。 第７～１５回：受講者各人が卒論原案について口頭発表（１人２回）。お互いに討議し、問題点を指摘し合う。 （第１４回目に、卒論の章構成・各章内容の箇条書き・参考文献リストを提出すること） 第１６～２０回：論理展開の方法、引用と脚注の仕方など卒論の細則について解説する。受講者は、執筆中の章の内容について詳しく口頭発表せねばならない。 （１０月中旬までに、少なくとも完成させた卒論の１章を指導教官に提出すること） ２１回目以降：提出された文章を添削し、論理構成や日本語表現などについて個別に指導する。 （書き終えた章はどんどん指導教官のもとに持ってくること。１人３～４回程度、卒論テクストを校閲する。最終的にＯＫが出されたとき初めて、卒論制作が終了する） １月中旬：卒論を教務課に提出。 （ＯＫの出されていない卒論制作者は、引き続き作業を継続すること。ＯＫの出た卒論も、もう一度精読する）
授業外における学習（準備学習の内容）	卒論のテーマが定まったならば、関連書籍・論文をどんどん読んでいくこと。
授業方法	初めは講義、原稿をもってきた段階から文章添削と個別指導。
評価基準と評価方法	出席20%、卒業論文の内容80%で評価。
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	勝村　弘也						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業研究の指導
授業の概要	研究テーマの設定、各自のテーマに応じた研究方法の指導、論文の書き方などを指導する。
到達目標	適切なテーマを設定して、論文の形式にまとめあげること。
授業計画	前期は、卒業年次学生の関心に対応した文献の講読を中心とする。研究の方向性を見出し、それに対応した研究方法を考える。前期末までに主要な参考文献を確定する。 後期は、個別指導を原則とする。１１月に中間発表を行う。
授業外における学習（準備学習の内容）	各自で必要なフールドワークを行ったり、参考文献を読む。
授業方法	講義形式、読書会形式、個別指導、学生の研究発表など。
評価基準と評価方法	卒業研究の結果のみ（１００パーセント）で評価する。
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	木村　勲						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	金曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	論文の書き方
授業の概要	演習。10月までは順番に各自の進捗状況を報告、11月から個別指導。
到達目標	「論文」といえる論文の完成。
授業計画	１　心構え：学業の仕上げと就職活動について ２　論文の書き方①　章・節構成など。 ３　論文の書き方②　文献調査法、脚注の付し方など(以上、当方説明) ４――９　各回２人ずつ、自己のテーマについて概要報告。 １０――１５　各回２人ずつ、より具体化した２度目の報告。 １６――１８　各回４人ずつ、夏休みの成果報告。 １９――３０　各回数人ずつ文章指導（該当者以外の者は真摯・静粛に自習）
授業外における学習（準備学習の内容）	自己のテーマの基本文献を読み込む。
授業方法	１学期は全員ゼミで報告。2学期からは個別指導。
評価基準と評価方法	論文のでき（100点満点で）。
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	宗像　衣子						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	木曜2	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒論を書こう
授業の概要	文学・芸術・文化（近現代中心、欧米－日本中心） 各学生の関心に沿ったテーマによる卒業論文の作成を目指して個別指導する。
到達目標	卒論完成
授業計画	完全個別指導。各学生と相談し、日時、内容、回数を決めます。
授業外における学習（準備学習の内容）	卒論制作
授業方法	演習
評価基準と評価方法	平常点２０％、論文８０％
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	村上　知彦						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	金曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	雑誌・出版とメディア文化　卒業研究および卒論指導
授業の概要	雑誌・出版とメディア文化に関わるテーマについての、卒業研究の個人発表および関連テキストの講読。発表と全体討論、および個別指導による卒業論文の執筆指導。
到達目標	卒業研究の主題となる問題を発見し、発表・討論をふまえて卒業論文を書き上げる。
授業計画	前期 （１）卒業研究の進め方 （２）〜（３）卒業論文の書き方・文章作法の指導 （４）〜（９）卒論テーマについての第１回口頭発表、関連文献講読、全体討論 （10）〜（14）卒論テーマについての第２回口頭発表、討論と個別指導、卒論原案作成 （15）卒論原案についての全体指導 後期 （16）〜（18）夏休み期間の研究状況報告と中間発表 （19）〜（26）個人面談、仮提出、論点・構成および文章指導 （27）〜（28）全体試問、修正指導 （29）〜（30）提出論文の発表、再提出指導
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：文献探索、調査などを積極的におこなう。 授業後学習：討論での意見、教員の指導を積極的に活用する。
授業方法	演習形式および個別指導
評価基準と評価方法	卒業論文80%、中間発表および研究に取り組む姿勢20%
教科書	「勝つための論文の書き方」鹿島茂、文春新書　ISBN4-16-660295-0 「論文の教室　レポートから卒論まで」戸田山和久、日本放送出版協会　ISBN　978-4-14-001954-2
参考書	「よくわかるメディアスタディーズ」伊藤守編著、ミネルヴァ書房　ISBN 978-4623052066 その他、各人のテーマに応じて授業中に紹介します。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	山田　道夫						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業研究・論文作成の指導
授業の概要	文芸第一演習Ⅳを修得した者を対象に、神話の文芸を題材とする比較文学・文芸批評的研究の領域において、卒業研究および卒業論文作成を指導する。
到達目標	受講生各自が選択した主要テクストを綿密に読解考察し、参考文献を探索調査して、自分なりの問題を見出し、有意味で整合的な解答を構築するという作業を完遂することが到達すべき目標です。これによって、これまでさまざまな授業で積み上げてきた「読んで考える力、考えて書く力」に総仕上げを施すことになる。
授業計画	前期 第１回　イントロダクション―卒業研究と卒業論文について 第２回　広い研究トピックの選定(1) 第３回　広い研究トピックの選定(2) 第４回　主要テクストの選定(1) 第５回　主要テクストの選定(2) 第６回　主要テクストの選定(3) 第７回　参考文献の探索(1) 第８回　参考文献の探索(2) 第９回　主要テクストの解題と参考文献リストの作成 第10回　問題の探索(1) 第11回　問題の探索(2) 第12回　問題の探索(3) 第13回　先行研究・資料の収集(1) 第14回　先行研究・資料の収集(2) 第15回　問題の絞込みと夏休み期間中の研究計画 後期 第１回　第一次草稿提出 第２回　中間報告会(1) 第３回　中間報告会(2) 第４回　個別指導による研究の展開と執筆 第５回　個別指導による研究の展開と執筆 第６回　個別指導による研究の展開と執筆 第７回　個別指導による研究の展開と執筆 第８回　個別指導による研究の展開と執筆 第９回　個別指導による研究の展開と執筆 第10回　個別指導による研究の展開と執筆 第11回　第二次草稿提出 第12回　提出前点検 第13回　提出前点検 第14回　卒業論文試問 第15回　卒業論文試問
授業外における学習（準備学習の内容）	卒業研究は卒業年次の大半の時間をあてて取り組むべき課業である。授業外における広範な文献・資料調査が要求される。
授業方法	前期は演習形式で、順番に経過報告・発表しながらディスカッションする。後期は中間報告会のあとは個別指導による研究の展開と執筆。毎週２～３名ずつ面談する。
評価基準と評価方法	卒業研究への取組み３０％、提出された卒業論文の出来具合７０％で評価する。
教科書	

参考書	授業時に指示する。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化I／比較文化論I						
担当教員	宗像　衣子						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～4	単位数	4.0

授業のテーマ	文芸と文化
授業の概要	文学・芸術等を広い視野から深く吟味する能力を養うために、文芸を生み出す「文化」、 また文芸によって築かれてゆく「文化」について考察する必要がある。日本文化を比較的に 捉え直すことをも目指して、西洋の諸文化との比較検討を行う。 ここでは、日本と他の国（フランスを中心にヨーロッパ・アメリカ諸国）とのつながりを見る比較研究、 そして諸ジャンル（文学・美術・音楽・演劇・社会・思想・歴史等）の間の関連を探る比較研究を、 現代文化へと開かれる「１９世紀文芸・文化、アール・ヌーヴォー、ジャポニスム」を中心にして、 試みたい。 このようにして、様々な作品や文化を視聴覚教材も加えて見たり聴いたり読んだりしながら、 私たちにとって身近な親しい事柄の源に、思いもかけず出会えます。
到達目標	私たちの日常の生活や関心がどのような幅広い奥深い歴史をもっているかを発見しながら、 多様な文化・文学・芸術に接する楽しみ・よろこびを豊かに味わいましょう。
授業計画	以下、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。 １　　オリエンテーション ２　　１９世紀西欧文化 ３　　西欧文化と日本文化 ４　　序論・歴史状況　欧米と日本１（フランス・ベルギー） ５　　欧米と日本２（ドイツ・オーストリア） ６　　欧米と日本３（イギリス・アメリカ） ７　　欧米と日本４（スペイン・イタリア） ８　　欧米と日本５（日本） ９　　総論・文芸の全体　欧米と日本１（フランス・ベルギー） １０　欧米と日本２（ドイツ・オーストリア） １１　欧米と日本３（イギリス・アメリカ） １２　欧米と日本４（スペイン・イタリア） １３　欧米と日本５（日本） １４　まとめ １５　学習の展望 １６　研究ガイダンス １７　各論・個別の芸術家や作品 １８　欧米と日本１（フランス） １９　欧米と日本２（ベルギー） ２０　欧米と日本３（ドイツ） ２１　欧米と日本４（オーストリア） ２２　欧米と日本５（イギリス） ２３　欧米と日本６（アメリカ） ２４　欧米と日本７（スペイン） ２５　欧米と日本８（イタリア） ２６　欧米と日本９（日本） ２７　世紀末文化・芸術の射程 ２８　比較文化の成果と意義 ２９　研究の展望 ３０　総合
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	平常点７０％、レポート等３０％

教科書	授業中に関連資料や参考書を紹介・配付する。
参考書	ジャポニスム 著 大島清次（講談社学術文庫）

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化III／比較文化論III						
担当教員	柿沼　伸明						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	2～4	単位数	4.0

授業のテーマ	映画に見る現代社会
授業の概要	授業内容：映画を鑑賞しながら、世界各国の社会や文化の様相を理解することを目的とします。グローバル化した複雑な現代社会を理解するためには、世界の地域地域の個別的な歴史的・社会的な事情を把握しておく必要があります。他方、優れた映画は、それぞれの社会を映す鏡のような存在です。映画のなかで描き出された社会の固有のありさまを、専門書の読書によって理解し、現在、自分の置かれている状況と比較しながら考えてみてください。鑑賞する映画作品は、日本も含め、できる限り世界各国を網羅する予定です。
到達目標	映像を通しての現代世界の理解
授業計画	1回　授業概要と成績評価基準の説明 2回　『北京バイオリン』の背景（現代中国の巨大な社会格差）解説 3回　『北京バイオリン』鑑賞 4回　『北京バイオリン』鑑賞後の解説、感想文記入 5回　『グッバイ、レーニン』の背景（1989年の東欧革命と1990年のドイツ統一）解説 6回　『グッバイ、レーニン』鑑賞後の解説、感想文記入 7回　『女はみんな生きている』の背景（現代フランスの移民問題、あるいはマグレブ差別）解説 8回　『女はみんな生きている』鑑賞後の解説、感想文記入 9回　『逆噴射家族』の背景（1980年代の日本の家族形態の変化、または家族の絆の危機）解説 10回　『逆噴射家族』鑑賞後の解説、感想文記入 11回　『ウォール街』の背景（1980年代のアメリカの金融資本主義醸成と拝金主義）解説 12回　『ウォール街』鑑賞 13回　『ウォール街』鑑賞後の解説、感想文記入 14回　『不適切な真実』の背景（現代世界を脅かす地球温暖化）解説 15回　『不適切な真実』鑑賞後の解説、感想文記入 16回　『Always　三丁目の夕日』の背景（1950年代後半の日本の高度成長期における地域社会の絆）解説 17回　『Always　三丁目の夕日』鑑賞後の解説、感想文記入 18回　『ブラッド・ダイヤモンド』の背景（1990年代アフリカ小国シエラレオネの内戦と資源搾取の状況）解説 19回　『ブラッド・ダイヤモンド』鑑賞 20回　『ブラッド・ダイヤモンド』鑑賞後の解説、感想文記入 21回　『猟奇的な彼女』の背景（現代韓国の社会事情）解説 22回　『猟奇的な彼女』鑑賞後の解説、感想文記入 23回　『モスクワは涙を信じない』の背景（1950年代後半～70年代後半のソ連の市民生活）解説 24回　『モスクワは涙を信じない』鑑賞 25回　『モスクワは涙を信じない』鑑賞後の解説、感想文記入 26回　『中国の小さなお針子』の背景（1970年代初頭の文革期中国の下放政策と改革開放後の現代中国）解説 27回　『中国の小さなお針子』鑑賞後の解説、感想文記入 28回　『遠い夜明け』の背景（1980年代の南アフリカ共和国の人種隔離政策と人権闘争）解説 29回　『遠い夜明け』鑑賞 30回　『遠い夜明け』鑑賞後の解説、感想文記入
授業外における学習（準備学習の内容）	興味をもった映画で描かれた社会・歴史に関する専門書２冊以上を読むこと。
授業方法	映画に映し出された現実の歴史的・社会的背景を理解してもらうための講義。
評価基準と評価方法	映画鑑賞後の感想文20%、レポート（前期後期１回ずつ）80%。
教科書	毎回、解説プリントを配布します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化Ⅳ／比較文化論Ⅳ						
担当教員	谷本　慎介						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～4	単位数	4.0

授業のテーマ	＜結婚＞をめぐるドラマ：オペラとミュージカルを中心に
授業の概要	洋の東西を問わず、演劇一般のテーマとして＜結婚＞という社会制度が取り上げられるのは、古代からの普遍的慣習といえます。本授業では、近代ヨーロッパのオペラやそこから派生したオペレッタ、ミュージカルにおける＜結婚＞の諸相を見ます。 基本的には毎回、具体的なオペラやミュージカルを取り上げて、内実を把握し、ＤＶＤ等の視聴覚教材を見て、内容を理解していただきます。
到達目標	具体的な諸作品を理解することによって、＜結婚＞というせいどがどのように描かれ、扱われているかを検証します。それによって文化の実相に肉迫しようと試みます。
授業計画	前期：第１回　主旨説明 第２回　『ドン・ジョヴァンニ』① 第３回　『ドン・ジョヴァンニ』② 第４回　『フィガロの結婚』① 第５回　『フィガロの結婚』② 第６回　『ローエングリン』① 第７回　『ローエングリン』② 第８回　『天国と地獄』① 第９回　『天国と地獄』② 第10回　『蝶々夫人』① 第11回　『蝶々夫人』② 第12回　『トゥーランドット』 第13回　『屋根の上のヴァイオリン弾き』① 第14回　『屋根の上のヴァイオリン弾き』② 第15回　質疑応答とテスト 後期：第１回　主旨説明 第２回　『魔笛』① 第３回　『魔笛』② 第４回　『フィデリオ』 第５回　『ホフマン物語』① 第６回　『ホフマン物語』② 第７回　『マイ・フェア・レディ』① 第８回　『マイ・フェア・レディ』② 第９回　『ムーラン・ルージュ』 第10回　『ロミオとジュリエット』 第11回　『ウエスト・サイド・ストーリー』 第12回　『真夏の夜の夢』 第13回　『オテロ』 第14回　『サウンド・オブ・ミュージック』 第15回　質疑応答とテスト
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	テスト７０％、平常点３０％
教科書	なし（プリントを配布します）
参考書	特になし。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化V／比較文化論V						
担当教員	光田　和伸						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	金曜1	配当学年	2～4	単位数	4.0

授業のテーマ	母と子のことば
授業の概要	１０年ほど前のことです。コンビニでレジ打ちをする女性のあることばづかいが話題になりました。客の買い物をひととおり通しおわってから、「以上でよろしかったでしょうか」と客にたずねる、その「よろしかった」がおかしいというのです。過去ではない、現在なのだから「よろしいでしょうか」に改めるべきだ、と。 　２つのことが注意をひきました。改めろと言っているのは中年以降の男性に限られるということ、そして、コンビニのマニュアルには、特にそのようなことばづかいは指導されておらず、女性たちの自発的な言語行動であると推察されたことです。 　結論からいえば、改めろという意見は間違いです。「よろしかった」は過去ではなく完了（結果の現在）だからです。それでは全国のあちこちでおこった「よろしかったでしょうか」という言い方の奥には、どんな女性の思いがやどっていたのでしょうか。謎をさがす旅に出てみます。
到達目標	日本語をささえているものは、詩歌に代表される古典のことばづかいのほかに、子育ての場で主として母から子へと受け渡されることばづかいであることを認識します。
授業計画	前期　テキストとして『子ども風土記』（柳田国男）をとりあげ、次の章を読みながら考えていきます。 １　「鹿・鹿・角･何本」「あてもの遊び」 ２　「かごめ・かごめ」「中の中の小仏」 ３　「地蔵あそび」「鉤占いの話」 ４　「ベロベロの神」「おもちゃの起り」 ５　「木の枝の力」「念木・ねんがら」 ６　「燈台もと暗し」「ねぎごと」 ７　「弓太郎と念者」「大人から子どもへ」 ８　「小児の役目」「鳥小屋の生活」 ９　「祝い棒の力」「力あることば」 １０「ゆの木の祝言」「千艘や万艘」 １１「猿ちご問答」「公認の悪戯」 １２「左義長と正月小屋」「こども組」 １３「女児のままごと」「精霊飯」 １４「盆と成女式」「こどもの新語」 １５「くばりごと」「あきゃく遊び」 後期　テキストとして『母の手毬歌』（柳田国男）をとりあげ、次の章を読みながら考えていきます。 １　「正月の遊び」 ２　「手毬と木綿糸」 ３　「母と手毬」 ４　「あれ見やれ向う見やれ」 ５　「寺と椿の花」 ６　「しょんがい婆」 ７　「伝承者ということ」 ８　「昼飯と昼寝」 ９　「小昼飯とコバサマ」 １０「間食という言葉」 １１「お茶の始まり」 １２「砂糖の魅力」 １３「お菓子の歴史」 １４「遅い朝飯」 １５「女と運搬」
授業外における学習（準備学習の内容）	未知の語彙、単語については学習しておくことがのぞましい。
授業方法	購読形式ですが、つとめてスローリーディング（事項･単語をじゅうぶんに理解しながら先へ進む）に徹します。
評価基準と評価方法	レポート形式を予定しています。

教科書	授業の冒頭に指示します。
参考書	『柳田国男全集』ほか、柳田国男の著作。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化VII／（広報広告論）						
担当教員	西川　純司						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	木曜4	配当学年	2～4	単位数	4.0

授業のテーマ	広告活動の理解　／　社会のなかの広告：文化・都市・メディア
授業の概要	前期の講義では、広告活動についての基本的な知識を習得することを目指します。私たちはふつう広告を受け取る側にいて、それがどのようにして制作されているのかを知る機会がほとんどありません。しかし、広告が私たちに届けられるまでには多くの人や組織が関わり、多大な時間とお金がかけられています。講義では、こうした広告活動を理解するために必要な、広告の定義や分類、広告計画のインプットからアウトプットの過程、さらには広告関連の法規や規制などの基礎的な知識を学びます。実際にテレビCMや雑誌広告、ネット広告などを見ながら解説していきたいと思います。 後期の講義では、「社会のなかの広告」をテーマに、いかに広告が社会と結びついているかを考えます。とりわけ、文化、都市、メディアという3つの観点から、社会学的な知見を参照しつつ、それぞれ具体的なトピックを取り上げて検討していきます。また、実際の広告物を取り上げて、それを批評的に捉えてみることもします。講義の進め方として、毎回テーマに沿ったかたちで講義を行うだけでなく、文章を読んだり映画鑑賞したうえでグループで議論をする機会を設けます。
到達目標	前期を受講することで、広告の送り手（広告主・広告会社）がどのような流れで広告を制作しているのか、その実務的なプロセスについて体系的な知識を習得することができます。実際の広告物を専門用語を使って分析し、体系的に説明できるようになることを目指します。また、グループワークを通じて、自分で考え、発言し、議論する力が鍛えられます。 後期を受講することで、広告をその背後にある「社会」と関連づけて分析できるだけの広い視野と考察力を身につけることができます。また、他者の文章を正確に読解したり、映画の内容を読み解くなかで、それらに対する自分の考え方をまとめ、発言し、他の受講生と議論する力の向上を図ります。
授業計画	前期 1　イントロダクション 2　広告とは何か 3　マーケティング計画と広告 4　広告主と広告会社の組織構造 5　広告計画の構造と調査 6　広告戦略の立案 7　広告予算の決定方法 8　広告コミュニケーション過程と効果 9　広告表現の計画 10　広告媒体の計画 11　ブランド・コミュニケーション管理 12　広告効果の測定/広告関連の法規と規制 13　グローバル広告戦略 14　インターネット広告 15　前期のまとめ 後期 １　イントロダクション: 社会における広告 ２　文化と広告(1)：若者の消費 ３　文化と広告(2)：若者文化と広告 ４　文化と広告(3)：現代社会における広告 ５　広告のいま：広告鑑賞(1) ６　都市と広告(1)：映画鑑賞　『トゥルーマン・ショー』 ７　都市と広告(2)：映画鑑賞　『トゥルーマン・ショー』 ８　都市と広告(3)：テーマパークと広告 ９　広告のいま：広告鑑賞(2) １０　メディアと広告(1)：広告をつくる １１　メディアと広告(2)：広告をつくる １２　メディアと広告(3)：広告をつくる １３　広告のいま：広告鑑賞(3) １４　課題レポート検討会 １５　後期のまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の前後に参考書を読んでおくと理解が深まります。また、簡単な宿題を出すことがあるので、その時はしっかりと取り組んでほしいと思います。 日常的に広告を意識するようにしておくと、レポート作成にも役立ちます。
授業方法	講義を中心としますが、テレビCMや映画などの映像を観たり、簡単なグループワークをする機会も多く設けます。

評価基準と評価方法	中間レポート 35%、期末レポート 35%、平常点（欠席した場合は減点）30%、で評価します。
教科書	毎回プリントを配布します。
参考書	前期のみ 『現代広告論［新版］』、岸志津江・田中洋・嶋村和恵、有斐閣、ISBN978-4-641-12356-4

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IA						
担当教員	宗像　衣子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	文芸と文化
授業の概要	文学・芸術等を広い視野から深く吟味する能力を養うために、文芸を生み出す「文化」、 また文芸によって築かれてゆく「文化」について考察する必要がある。日本文化を比較的に 捉え直すことをも目指して、西洋の諸文化との比較検討を行う。 ここでは、日本と他の国（フランスを中心にヨーロッパ・アメリカ諸国）とのつながりを見る比較研究、 そして諸ジャンル（文学・美術・音楽・演劇・社会・思想・歴史等）の間の関連を探る比較研究を、 現代文化へと開かれる「１９世紀文芸・文化、アール・ヌーヴォー、ジャポニスム」を中心にして、 試みたい。 このようにして、様々な作品や文化を視聴覚教材も加えて見たり聴いたり読んだりしながら、 私たちにとって身近な親しい事柄の源に、思いもかけず出会えます。
到達目標	私たちの日常の生活や関心がどのような幅広い奥深い歴史をもっているかを発見しながら、 多様な文化・文学・芸術に接する楽しみ・よろこびを豊かに味わいましょう。
授業計画	以下、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。 １　　オリエンテーション ２　　１９世紀西欧文化 ３　　西欧文化と日本文化 ４　　序論・歴史状況　欧米と日本１（フランス・ベルギー） ５　　欧米と日本２（ドイツ・オーストリア） ６　　欧米と日本３（イギリス・アメリカ） ７　　欧米と日本４（スペイン・イタリア） ８　　欧米と日本５（日本） ９　　総論・文芸の全体　欧米と日本１（フランス・ベルギー） １０　欧米と日本２（ドイツ・オーストリア） １１　欧米と日本３（イギリス・アメリカ） １２　欧米と日本４（スペイン・イタリア） １３　欧米と日本５（日本） １４　まとめ １５　学習の展望
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	平常点７０％、レポート等３０％
教科書	授業中に関連資料や参考書を紹介・配付する。
参考書	ジャポニスム 著 大島清次（講談社学術文庫）

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IB						
担当教員	宗像　衣子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	文芸と文化
授業の概要	文学・芸術等を広い視野から深く吟味する能力を養うために、文芸を生み出す「文化」、 また文芸によって築かれてゆく「文化」について考察する必要がある。日本文化を比較的に 捉え直すことをも目指して、西洋の諸文化との比較検討を行う。 ここでは、日本と他の国（フランスを中心にヨーロッパ・アメリカ諸国）とのつながりを見る比較研究、 そして諸ジャンル（文学・美術・音楽・演劇・社会・思想・歴史等）の間の関連を探る比較研究を、 現代文化へと開かれる「１９世紀文芸・文化、アール・ヌーヴォー、ジャポニスム」を中心にして、 試みたい。 このようにして、様々な作品や文化を視聴覚教材も加えて見たり聴いたり読んだりしながら、 私たちにとって身近な親しい事柄の源に、思いもかけず出会えます。
到達目標	私たちの日常の生活や関心がどのような幅広い奥深い歴史をもっているかを発見しながら、 多様な文化・文学・芸術に接する楽しみ・よろこびを豊かに味わいましょう。
授業計画	以下、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。 １　研究ガイダンス ２　各論・個別の芸術家や作品 ３　欧米と日本１（フランス） ４　欧米と日本２（ベルギー） ５　欧米と日本３（ドイツ） ６　欧米と日本４（オーストリア） ７　欧米と日本５（イギリス） ８　欧米と日本６（アメリカ） ９　欧米と日本７（スペイン） １０　欧米と日本８（イタリア） １１　欧米と日本９（日本） １２　世紀末文化・芸術の射程 １３　比較文化の成果と意義 １４　研究の展望 １５　総合
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	平常点７０％、レポート等３０％
教科書	授業中に関連資料や参考書を紹介・配付する。
参考書	ジャポニスム 著 大島清次（講談社学術文庫）

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IIA						
担当教員	柿沼　伸明						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	映画に見る現代社会
授業の概要	授業内容：映画を鑑賞しながら、世界各国の社会や文化の様相を理解することを目的とします。グローバル化した複雑な現代社会を理解するためには、世界の地域地域の個別的な歴史的・社会的な事情を把握しておく必要があります。他方、優れた映画は、それぞれの社会を映す鏡のような存在です。映画のなかで描き出された社会の固有のありさまを、専門書の読書によって理解し、現在、自分の置かれている状況と比較しながら考えてみてください。鑑賞する映画作品は、日本も含め、できる限り世界各国を網羅する予定です。
到達目標	映像を通しての現代世界の理解
授業計画	1回　授業概要と成績評価基準の説明 2回　『北京バイオリン』の背景（現代中国の巨大な社会格差）解説 3回　『北京バイオリン』鑑賞 4回　『北京バイオリン』鑑賞後の解説、感想文記入 5回　『グッバイ、レーニン』の背景（1989年の東欧革命と1990年のドイツ統一）解説 6回　『グッバイ、レーニン』鑑賞後の解説、感想文記入 7回　『女はみんな生きている』の背景（現代フランスの移民問題、あるいはマグレブ差別）解説 8回　『女はみんな生きている』鑑賞後の解説、感想文記入 9回　『逆噴射家族』の背景（1980年代の日本の家族形態の変化、または家族の絆の危機）解説 10回　『逆噴射家族』鑑賞後の解説、感想文記入 11回　『ウォール街』の背景（1980年代のアメリカの金融資本主義醸成と拝金主義）解説 12回　『ウォール街』鑑賞 13回　『ウォール街』鑑賞後の解説、感想文記入 14回　『不適切な真実』の背景（現代世界を脅かす地球温暖化）解説 15回　『不適切な真実』鑑賞後の解説、感想文記入
授業外における学習（準備学習の内容）	興味をもった映画で描かれている社会・歴史に関する専門書２冊以上を読むこと。
授業方法	映画に映し出された現実の歴史的・社会的背景を理解してもらうための講義。
評価基準と評価方法	映画鑑賞後の感想文20%、レポート（前期後期１回ずつ）80%。
教科書	毎回、解説プリントを配布します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IIB						
担当教員	柿沼　伸明						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	映画に見る現代社会
授業の概要	授業内容：映画を鑑賞しながら、世界各国の社会や文化の様相を理解することを目的とします。グローバル化した複雑な現代社会を理解するためには、世界の地域地域の個別的な歴史的・社会的な事情を把握しておく必要があります。他方、優れた映画は、それぞれの社会を映す鏡のような存在です。映画のなかで描き出された社会の固有のありさまを、専門書の読書によって理解し、現在、自分の置かれている状況と比較しながら考えてみてください。鑑賞する映画作品は、日本も含め、できる限り世界各国を網羅する予定です。
到達目標	映像を通しての現代世界の理解
授業計画	1回　『Always　三丁目の夕日』の背景（1950年代後半の日本の高度成長期における地域社会の絆）解説 2回　『Always　三丁目の夕日』鑑賞後の解説、感想文記入 3回　『ブラッド・ダイヤモンド』の背景（1990年代アフリカ小国シエラレオネの内戦と資源搾取の状況）解説 4回　『ブラッド・ダイヤモンド』鑑賞 5回　『ブラッド・ダイヤモンド』鑑賞後の解説、感想文記入 6回　『猟奇的な彼女』の背景（現代韓国の社会事情）解説 7回　『猟奇的な彼女』鑑賞後の解説、感想文記入 8回　『モスクワは涙を信じない』の背景（1950年代後半～70年代後半のソ連の市民生活）解説 9回　『モスクワは涙を信じない』鑑賞 10回　『モスクワは涙を信じない』鑑賞後の解説、感想文記入 11回　『中国の小さなお針子』の背景（1970年代初頭の文革期中国の下放政策と改革開放後の現代中国）解説 12回　『中国の小さなお針子』鑑賞後の解説、感想文記入 13回　『遠い夜明け』の背景（1980年代の南アフリカ共和国の人種隔離政策と人権闘争）解説 14回　『遠い夜明け』鑑賞 15回　『遠い夜明け』鑑賞後の解説、感想文記入
授業外における学習（準備学習の内容）	興味をもった映画で描かれている社会・歴史に関する専門書２冊以上を読むこと。
授業方法	映画に映し出された現実の歴史的・社会的背景を理解してもらうための講義。
評価基準と評価方法	映画鑑賞後の感想文20%、レポート（前期後期１回ずつ）80%。
教科書	毎回、解説プリントを配布します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IIIA						
担当教員	谷本　慎介						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	＜結婚＞をめぐるドラマ①：オペラとミュージカルを中心に
授業の概要	洋の東西を問わず、演劇一般のテーマとして＜結婚＞という社会制度が取り上げられるのは、古代からの普遍的慣習といえます。本授業では、近代ヨーロッパのオペラやそこから派生したオペレッタ、ミュージカルにおける＜結婚＞の諸相を見ます。 基本的には毎回、具体的なオペラやミュージカルを取り上げて、内実を把握し、ＤＶＤ等の視聴覚教材を見て、内容を理解していただきます。
到達目標	具体的な諸作品を理解することによって、＜結婚＞という制度がどのように描かれ、扱われているかを検証します。それによって文化の実相に肉迫しようと試みます。
授業計画	第１回　主旨説明 第２回　『ドン・ジョヴァンニ』（モーツァルト）① 第３回　『ドン・ジョヴァンニ』（モーツァルト）② 第４回　『フィガロの結婚』（モーツァルト）① 第５回　『フィガロの結婚』（モーツァルト）② 第６回　『ローエングリン』（ワーグナー）① 第７回　『ローエングリン』（ワーグナー）② 第８回　『天国と地獄』（オッフェンバック）① 第９回　『天国と地獄』（オッフェンバック）② 第10回　『蝶々夫人』（プッチーニ）① 第11回　『蝶々夫人』（プッチーニ）② 第12回　『トゥーランドット』（プッチーニ） 第13回　『屋根の上のヴァイオリン弾き』（アレイヘム）① 第14回　『屋根の上のヴァイオリン弾き』（アレイヘム）② 第15回　質疑応答とテスト
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	テスト７０％、平常点３０％
教科書	なし（プリントを配布します）
参考書	特になし。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IIIB						
担当教員	谷本　慎介						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	＜結婚＞をめぐるドラマ②：オペラとミュージカルを中心に
授業の概要	洋の東西を問わず、演劇一般のテーマとして＜結婚＞という社会制度が取り上げられるのは、古代からの普遍的慣習といえます。本授業では、近代ヨーロッパのオペラやそこから派生したオペレッタ、ミュージカルにおける＜結婚＞の諸相を見ます。 基本的には毎回、具体的なオペラやミュージカルを取り上げて、内実を把握し、ＤＶＤ等の視聴覚教材を見て、内容を理解していただきます。
到達目標	具体的な諸作品を理解することによって、＜結婚＞という制度がどのように描かれ、扱われているかを検証します。それによって文化の実相に肉迫しようと試みます。
授業計画	第１回　主旨説明 第２回　『魔笛』（モーツァルト）① 第３回　『魔笛』（モーツァルト）② 第４回　『フィデリオ』（ベートーヴェン） 第５回　『ホフマン物語』（オッフェンバック）① 第６回　『ホフマン物語』（オッフェンバック）② 第７回　『マイ・フェア・レディ』（バーナード・ショウ）① 第８回　『マイ・フェア・レディ』（バーナード・ショウ）② 第９回　『ムーラン・ルージュ』（バズ・ラーマン） 第10回　『ロミオとジュリエット』（シェイクスピア） 第11回　『ウエスト・サイド・ストーリー』（バーンスタイン） 第12回　『真夏の夜の夢』（シェイクスピア） 第13回　『オテロ』（ヴェルディ） 第14回　『サウンド・オブ・ミュージック』（リチャード・ロジャース） 第15回　質疑応答とテスト
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	テスト７０％、平常点３０％
教科書	なし（プリントを配布します）
参考書	特になし。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IVA						
担当教員	光田　和伸						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	子ども遊びの日本語
授業の概要	子ども遊びのなかで伝承されてきたことばを通して、日本語が生成発展してきた過程の１つを検証します。
到達目標	日本語のゆりかごは古典だけでなく、子どもたちの世界のことばもその１つであることを認識します。
授業計画	テキストとして『子ども風土記』（柳田国男）を使い、次の章を購読します。 １　「鹿･鹿･角･何本」「あてもの遊び」 ２　「かごめ・かごめ」「中の中の小仏」 ３　「地蔵あそび」「鉤占いの話」 ４　「ベロベロの神」「おもちゃの起り」 ５　「木の枝の力」「念木・ねんがら」 ６　「燈台もと暗し」「ねぎごと」 ７　「弓太郎と念者」「大人から子どもへ」 ８　「小児の役目」「鳥小屋の生活」 ９　「祝い棒の力」「力あることば」 １０「ゆの木の祝言」「千艘や万艘」 １１「猿ちご問答」「公認の悪戯」 １２「左義長と正月小屋」「こども組」 １３「女児のままごと」「精霊飯」 １４「盆と成女式」「子どもの新語」 １５「くばりごと」「おきゃく遊び」
授業外における学習（準備学習の内容）	未知の語彙、事項は調べておくことがのぞましい。
授業方法	購読形式ですが、いわゆるスローリーディングに徹します。
評価基準と評価方法	レポートを予定しています。
教科書	授業の冒頭で指示します。
参考書	柳田国男の著作類。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IVB						
担当教員	光田　和伸						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	子育てのことば
授業の概要	母から子へ伝承されることばづかいについて考えます。
到達目標	日本語のゆりかごには、古典のほかにも、母から子へ伝承される基本的な型があることを認識します。
授業計画	テキストとして『母の手毬歌』（柳田国男）を使い、次の章を購読します。 １　「正月の遊び」 ２　「手毬と木綿糸」 ３　「母と手毬」 ４　「あれ見やれ向う見やれ」 ５　「寺と椿の花」 ６　「しょんがい婆」 ７　「伝承者ということ」 ８　「昼飯と昼寝」 ９　「小昼飯とコバサマ」 １０「間食という言葉」 １１「お茶の始まり」 １２「砂糖の魅力」 １３「お菓子の歴史」 １４「遅い朝飯」 １５「女と運搬」
授業外における学習（準備学習の内容）	未知の語彙、事項があれば内容を確認してくることがのぞましい.
授業方法	購読形式をとりますが、スローリーディングに徹します。
評価基準と評価方法	レポートを予定しています。
教科書	授業の冒頭に指示します。
参考書	柳田国男の著作類。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化VA						
担当教員	西川　純司						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	広告活動の理解
授業の概要	広告活動についての基本的な知識を習得することを目指します。私たちはふつう広告を受け取る側にいて、それがどのようにして制作されているのかを知る機会がほとんどありません。しかし、広告が私たちに届けられるまでには多くの人や組織が関わり、多大な時間とお金がかけられています。講義では、こうした広告活動を理解するために必要な、広告の定義や分類、広告計画のインプットからアウトプットの過程、さらには広告関連の法規や規制などの基礎的な知識を学びます。実際にテレビCMや雑誌広告、ネット広告などを見ながら解説していきたいと思います。
到達目標	受講することで、広告の送り手（広告主・広告会社）がどのような流れで広告を制作しているのか、その実務的なプロセスについて体系的な知識を習得することができます。実際の広告物を専門用語を使って分析し、体系的に説明できるようになることを目指します。また、グループワークを通じて、自分で考え、発言し、議論する力が鍛えられます。
授業計画	1　イントロダクション 2　広告とは何か 3　マーケティング計画と広告 4　広告主と広告会社の組織構造 5　広告計画の構造と調査 6　広告戦略の立案 7　広告予算の決定方法 8　広告コミュニケーション過程と効果 9　広告表現の計画 10　広告媒体の計画 11　ブランド・コミュニケーション管理 12　広告効果の測定/広告関連の法規と規制 13　グローバル広告戦略 14　インターネット広告 15　前期のまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の前後に参考書を読んでおくと理解が深まります。また、簡単な宿題を出すことがあるので、その時はしっかりと取り組んでほしいと思います。 日常的に広告を意識するようにしておくと、レポート作成にも役立ちます。
授業方法	講義を中心としますが、テレビCMなどの映像を観たり、簡単なグループワークをする機会も多く設けます。
評価基準と評価方法	期末レポート 70%、平常点（欠席した場合は減点）30%、で評価します。
教科書	毎回プリントを配布します。
参考書	前期 『現代広告論［新版］』、岸志津江・田中洋・嶋村和恵、有斐閣、ISBN978-4-641-12356-4

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化VB						
担当教員	西川　純司						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	社会のなかの広告：文化・都市・メディア
授業の概要	「社会のなかの広告」をテーマに、いかに広告が社会と結びついているかを考えます。とりわけ、文化、都市、メディアという3つの観点から、社会学的な知見を参照しつつ、それぞれ具体的なトピックを取り上げて検討していきます。また、実際の広告物を取り上げて、それを批評的に捉えてみることもします。講義の進め方として、毎回テーマに沿ったかたちで講義を行うだけでなく、文章を読んだり映画鑑賞したうえでグループで議論をする機会を設けます。
到達目標	受講することで、広告をその背後にある「社会」と関連づけて分析できるだけの広い視野と考察力を身につけることができます。また、他者の文章を正確に読解したり、映画の内容を読み解くなかで、それらに対する自分の考え方をまとめ、発言し、他の受講生と議論する力の向上を図ります。
授業計画	１　イントロダクション: 社会における広告 ２　文化と広告(1)：若者の消費 ３　文化と広告(2)：若者文化と広告 ４　文化と広告(3)：現代社会における広告 ５　広告のいま：広告鑑賞(1) ６　都市と広告(1)：映画鑑賞　『トゥルーマン・ショー』 ７　都市と広告(2)：映画鑑賞　『トゥルーマン・ショー』 ８　都市と広告(3)：テーマパークと広告 ９　広告のいま：広告鑑賞(2) １０　メディアと広告(1)：広告をつくる １１　メディアと広告(2)：広告をつくる １２　メディアと広告(3)：広告をつくる １３　広告のいま：広告鑑賞(3) １４　課題レポート検討会 １５　後期のまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	簡単な宿題を出すことがあるので、その時はしっかりと取り組んでほしいと思います。 日常的に広告を意識するようにしておくと、レポート作成にも役立ちます。
授業方法	講義を中心としますが、テレビCMや映画などの映像を観たり、簡単なグループワークをする機会も多く設けます。
評価基準と評価方法	期末レポート 70%、平常点（欠席した場合は減点）30%、で評価します。
教科書	毎回プリントを配布します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	美術入門						
担当教員	上久保　真理						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～4	単位数	4.0

授業のテーマ	美術の歴史や技術の基礎的な知識に触れる.
授業の概要	美術とはどんなもの？何のためのもの？改めて問われると、答えるのに困ったりする. マンガやアニメなど、日本の美術が海外で人気だが、わたしたちはそのルーツについて意外に知らないことが多い. この授業では美術の歴史の概略を辿りつつ、美術制作の基礎に触れることを目指す. 長い歴史の中で、それぞれの文化の中で、人々が美術にどのような思いを託してきたのかを感じとろう.
到達目標	美術作品を通して、その歴史や文化、技法について考え、社会的、思想的背景を感じとろうとする姿勢を養う.
授業計画	第1回　導入（授業についての注意、授業計画など） 第2回　美術の起源１ー刻むー 第3回　美術の起源２ー組み合わせるー 第4回　美術の起源３ー記録するー 第5回　美術の起源４ーイラストレイトするー 第6回　細密画を描く 第7回　黄金比を求めて 第8回　静物デッサン 第9回　遠近法という発明 第10回　グリッドの応用 第11回　アナモルフォーズ 第12回　イメージを広げる 第13回　抽象とデザイン 第14回　サンプリフィエとデフォルメ 第15回　まとめ 第16回　導入 第17回　絵巻の世界ー物語を動かすー 第18回　アニメーションを作る１ー描くー 第19回　アニメーションを作る２ー動かすー 第20回　浮世絵の世界 第21回　浮世絵を作る１ー下絵ー 第22回　浮世絵を作る２ー版を彫るー 第23回　浮世絵を作る３ー版を彩るー 第24回　浮世絵を作る４ー版を摺るー 第25回　西洋と日本 第26回　記号化と引用 第27回　マンガの手法 第28回　日本の現代美術 第29回　自由制作 第30回　まとめと展望
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマについて、各自が前もって調べてみること. また授業で興味を持ったことがらについてさらに掘り下げて調べてみること. 授業内で取り上げる時代や技法などについての宿題レポートや発表準備.
授業方法	講義と演習を織り交ぜ、ワークショップ形式も取り入れて授業を進める. スライド、DVDなどの使用. 希望により学外演習なども含む. 個人もしくはグループ単位での発表やコンピュータ室での作業もあり.
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、提出物や発表40%、期末レポート30%の総合による.
教科書	適宜プリントを配布する.
参考書	授業中に随時紹介する.

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	美術入門A						
担当教員	上久保　真理						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	美術の歴史や技法の基礎的な知識に触れる.
授業の概要	美術とはどんなもの？何のためのもの？改めて問われると、わたしたちは意外に美術について知らないことに気付く. この授業では美術の歴史の概略を辿りつつ、美術制作の基礎に触れることを目指す. 長い歴史の中で、それぞれの文化の中で、人々が美術にどのような思いを託してきたのかを感じとろう.
到達目標	美術作品を通して、その歴史や文化、技法について考え、社会的、思想的背景を感じとろうとする姿勢を養う.
授業計画	第1回　導入（授業についての注意、授業計画など） 第2回　美術の起源１ー刻むー 第3回　美術の起源２ー組み合わせるー 第4回　美術の起源３ー記録するー 第5回　美術の起源４ーイラストレイトするー 第6回　細密画を描く 第7回　黄金比を求めて 第8回　静物デッサン 第9回　遠近法という発明 第10回　グリッドの応用 第11回　アナモルフォーズ 第12回　イメージを広げる 第13回　抽象とデザイン 第14回　サンプリフィエとデフォルメ 第15回　まとめと展望
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマや制作内容について、各自が前もって調べてみること. また授業で興味を持ったことがらについてさらに掘り下げて調べてみること. 授業内で取り上げる時代や技法などについての宿題レポートや発表準備.
授業方法	講義と演習を織り交ぜ、ワークショップ形式も取り入れて授業を進める. スライド、DVDなどの使用. 希望により学外演習なども含む. 個人もしくはグループ単位での発表や、コンピュータ室での作業もあり.
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、提出物や発表40%、期末レポート30%の総合による.
教科書	適宜プリントを配布する.
参考書	授業中に随時紹介する.

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	美術入門B						
担当教員	上久保　真理						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	日本の美術の歴史や技術の基礎的な知識に触れる.
授業の概要	マンガやアニメなど、日本の美術が海外で人気だ. でも、わたしたちはそのルーツについて意外に知らないことが多い. この授業では日本美術の歴史や技法の基礎的知識の一端に触れることを目指す. 長い歴史や文化の中で、人々が美術にどのような思いを託してきたのかを感じとろう.
到達目標	日本の美術作品を通して、その歴史や文化、技法について考え、社会的、思想的背景を感じとろうとする姿勢を養う.
授業計画	第1回　導入（授業についての注意、授業計画など） 第2回　絵巻の世界ー物語を動かすー 第3回　アニメーションを作る１ー描くー 第4回　アニメーションを作る２ー動かすー 第5回　浮世絵の世界 第6回　浮世絵を作る１ー下絵ー 第7回　浮世絵を作る２ー版を彫るー 第8回　浮世絵を作る３ー版を彩るー 第9回　浮世絵を作る４ー版を摺るー 第10回　西洋と日本 第11回　記号化と引用 第12回　マンガの手法 第13回　日本の現代美術 第14回　自由制作 第15回　まとめと展望
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマや制作内容について、各自が前もって調べてみること. また授業で興味を持ったことがらについてさらに掘り下げて調べてみること. 授業内で取り上げる時代や技法などについての宿題レポートや発表準備.
授業方法	講義と演習を織り交ぜ、ワークショップ形式も取り入れて授業を進める. スライド、DVDなどの使用. 希望により学外演習なども含む. 個人もしくはグループ単位での発表やコンピュータ室での作業もあり.
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、提出物や発表40%、期末レポート30%の総合による.
教科書	適宜プリントを配布する.
参考書	授業中に随時紹介する.

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文学入門A／日本文学入門I						
担当教員	石原　のり子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	日本文学史を概観することで、日本の文化・文芸を理解するために必要となる基礎的な知識の習得を目的とする。文学史だけでなく、我が国の文学が形成される背景となった歴史や異文化の受容なども学ぶ。
授業の概要	前期は、古代から中世までの文学作品を対象とする。
到達目標	総合文芸学科で学ぶために必要となる、日本文学の基礎を学ぶ。
授業計画	第一回 ガイダンス 授業で取り扱う作品の概要を学ぶ 第二回 取り上げる作品：『日本書紀』など 我が国最初の正史である『日本書紀』を取り上げ、我が国の成り立ちの神話について学ぶ。 第三回 取り上げる作品：『万葉集』 漢字の伝来により、それまでは語りつぐことにより遺されていた言葉（歌謡なども含む）が、万葉仮名を使って表現されるようになったことを学ぶ。またこの頃になると、専門歌人とも言うべき人々が現れた。しかし、当時の公的文学はあくまでも漢詩であり、『懐風藻』をはじめ、多くの漢詩集が編まれたことを知る。 第四回 取り上げる作品：『古今和歌集』 遣唐使の廃止により、国風文化が花開く。天皇の勅命により、やまとうたを集めた初の和歌集『古今和歌集』が編纂される。これにより、我が国の公的文学は漢詩文から和歌へと変容を遂げる。 第五回 取り上げる作品：『蜻蛉日記』 仮名文字がうまれ、女性も日記を書くようになる。（依然として男性貴族の日記は漢文体で書かれていたことも確認する）階級を異にする夫との結婚によって生じた苦悩を赤裸々に描いた『蜻蛉日記』は、後世の文学に大きな影響を与えた。 第六回 取り上げる作品：『竹取物語』 『源氏物語』に「物語の出来はじめの祖」と書かれた『竹取物語』、和歌を中心に据えて物語を構成する歌物語など、以後の物語文学に大きな影響を与えた作品を概観する。 第七回 取り上げる作品：『枕草子』 女流日記文学から、平安時代の宮廷文化、貴族の生活などを学ぶ。『源氏物語』の生まれる土壌となった、宮廷サロンについても学ぶ。 第八回 取り上げる作品：『源氏物語』 我が国の文学史上屈指の傑作である『源氏物語』について学ぶ。プロット、心理描写、修辞などに優れ、これ以後、本作品の影響を受けていない文学はないと言っても過言ではない。平安後期から鎌倉時代にかけて、『源氏物語』に触発された、中世王朝物語が数多く生まれたことも学ぶ。 第九回 映像で見る『源氏物語』の世界 第十回 取り上げる作品：『今昔物語集』 説話物語というジャンルが生まれる。本朝から唐土・天竺の説話を集める。 第十一回 取り上げる作品：『新古今和歌集』など 源頼朝により鎌倉に幕府が置かれ、政治の中心が京都から東国へと移り、貴族の世から武士の世へと移り変わった。しかし、文化の中心は依然として京都にあった。『古今和歌集』から連綿と受け継がれた勅撰和歌集の歴史を辿る。

授業計画	第十二回 取り上げる作品：『方丈記』『徒然草』 仮名と漢字の混ざった和漢混淆文による随筆。乱世に生きた鴨長明の描き出す無常観は、その時代の空気を反映していると言えよう。一方、兼好法師は「心に思ふまま」を綴る。軽妙洒脱で皮肉のきいた作品の妙味を味わう。 第十三回 取り上げる作品：『平家物語』『太平記』 前者は琵琶法師、後者は太平記読みによって、庶民にも享受された。能楽や浄瑠璃など、後世の芸能にも大きな影響を与えた。 第十四回 取り上げる作品：能楽（『葵上』『敦盛』など） 世阿弥によって大成された能楽は、往古の文学を摂取し、花開いた。古典作品を題材にした作品を取り上げる。 第十五回 まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で取り上げる作品はごく一部に過ぎず、わが国の文学史を詳細に見ることはできません。また、文学史を学ぶ上で、歴史の知識も必要となってきます。取り上げる作品・時代の背景の予習、授業後、各自の専門に必要な事柄を調べることなどが求められます。
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	小テストを含む平常点４０％、期末試験６０％の合計で評価します。
教科書	プリントを配布します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文学入門B／日本文学入門II						
担当教員	木下　美佳						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	日本文学史を概観することで、日本の文化・文芸を理解するために必要となる基礎的な知識の習得を目的とする。文学史だけでなく、我が国の文学が形成される背景となった歴史や異文化の受容なども学ぶ。
授業の概要	後期は、近世から現代までの文学作品を対象とする。
到達目標	総合文芸学科で学ぶために必要となる、日本文学の基礎を学ぶ。
授業計画	第1回　ガイダンス—近世から現代への流れ 第2回　文学の大衆化—写本の時代から版本の時代へ 第3回　元禄文学—井原西鶴、近松門左衛門など 第4回　和歌と国学—堂上と地下 第5回　近世中後期の小説の系譜—上田秋成・曲亭馬琴 第6回　近世から近代へ—坪内逍遙・二葉亭四迷 第7回　日清・日露戦争の時代 第8回　映像で見る『外科室』 第9回　明治から大正へ—自然主義と反自然主義 第10回　大正の文学 第11回　プロレタリア文学と芸術派 第12回　昭和十年代の文学 第13回　戦後の文学 第14回　近代詩—明治から大正まで 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	近世から現代までの流れを概観するため、授業で取り上げる作品や事柄はおのずと限られてくる。 事前に取り上げる時代について予習しておく。また、授業中に紹介された参考文献などを中心に、 授業に関わる文献を読み、さらに理解を深める。
授業方法	講義形式で行う
評価基準と評価方法	平常点（小テスト・感想カードを含む）40%、期末試験60%
教科書	プリントを配布する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IA／文芸講読A						
担当教員	宗像　衣子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	文芸の味わい
授業の概要	文芸諸ジャンルの交流を味わいながら、文芸が文化の全体において考察されるおもしろさを実感してもらいたい。 文学と芸術にまたがる身近なテーマをもった文章を、思想・歴史・宗教・社会・科学といった文化を浮き彫りにするものとして学び、文芸が幅広く関係し合う様子を確認する。 ヨーロッパ、主にフランスの近現代、印象派以降の美術（画家たち、たとえばモネ・ゴッホ・ゴーギャン・ピカソ・マチスなど）と文学（詩人・作家・批評家たち）に関わるテキストを読みながら（そのプロセスで音楽性・音楽家にも触れることになる）（また関係して、日本の作家・作品についても学ぶ）（テキスト形態は論説評論文だけでなく、詩や小説、随筆・手紙等にまたがる）、様々な「物の見方・感じ方」に接して、文芸・文化の多様性に親しんで、着実に読解力と広い視野を手に入れてほしい。
到達目標	文字を読むだけでなく、美術・映像を見たり音楽を聞いたり、という総合文芸学科ならではの学び方・楽しみ方で全体的な手ごたえを得ましょう。 同時に、実は皆さんの身近な文芸・文化との色々な関わりに出会えるはずです。
授業計画	以下、授業の性質上、受講生の学習状況・希望等によって修正・変更されることがある。 １　オリエンテーション ２　ヨーロッパ近現代の芸術家達 ３　ゴッホ等と文学 ４　ゴッホ等と文学者 ５　ゴッホ等と日本の芸術 ６　ゴッホ等と日本の文化 ７　その他関連資料１（文芸） ８　その他関連資料２（文化） ９　ヨーロッパと日本の芸術家達 １０　日本の文芸 １１　日本の芸術 １２　その他関連研究１（身辺の文芸） １３　その他関連研究２（身辺の文化） １４　まとめとレポート １５　反省・展開
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習
授業方法	演習
評価基準と評価方法	平常点７０％、レポート等３０％
教科書	授業中に関連資料や参考書を配付・紹介する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IB／文芸講読B						
担当教員	宗像　衣子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	文芸の味わい
授業の概要	文芸諸ジャンルの交流を味わいながら、文芸が文化の全体において考察されるおもしろさを 実感してもらいたい。 文学と芸術にまたがる身近なテーマをもった文章を、思想・歴史・宗教・社会・科学といった文化を 浮き彫りにするものとして学び、文芸が幅広く関係し合う様子を確認する。 ヨーロッパ、主にフランスの近現代、印象派以降の美術（画家たち、たとえばモネ・ゴッホ・ ゴーギャン・ピカソ・マチスなど）と文学（詩人・作家・批評家たち）に関わるテキストを読みながら （そのプロセスで音楽性・音楽家にも触れることになる）（また関係して、日本の作家・作品 についても学ぶ）（テキスト形態は論説評論文だけでなく、詩や小説、随筆・手紙等にまたがる）、 様々な「物の見方・感じ方」に接して、文芸・文化の多様性に親しんで、着実に読解力と広い視野を 手に入れてほしい。
到達目標	文字を読むだけでなく、美術・映像を見たり音楽を聞いたり、という総合文芸学科ならでは の学び方・楽しみ方で全体的な手ごたえを得ましょう。 同時に、実は皆さんの身近な文芸・文化との色々な関わりに出会えるはずです。
授業計画	後期授業前に再確認します。 以下は、常にヨーロッパの芸術・文化、美術・音楽・文学との関係において学びます。出席者の様子・意向に応じて下記内容が変更される場合があります。 １回　全員で授業出発点の合意・話し合い ２回　文芸購読の価値と目標 ３回　東山魁夷　テキスト１（生涯） ４回　同　テキスト２（初期） ５回　同　テキスト３（中期） ６回　同　テキスト４（晩期） ７回　同　テキスト５（最晩年） ８回　全員討議 ９回　希望と状況により学外見学 １０回　アンソロジー１（西洋・絵と言葉） １１回　同テキスト２（東洋・絵と言葉） １２回　同テキスト３（東西文化） １３回　討議・討論 １４回　復習とレポート １５回　反省とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習
授業方法	演習
評価基準と評価方法	平常点７０％、レポート等３０％
教科書	授業中に関連資料や参考書を配付・紹介する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IIA／文芸講読C						
担当教員	山田　道夫						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	『シラノ・ド・ベルジュラック』を読む
授業の概要	19世紀末プランスの耽美主義と古典的教養を融合させて、文学史上最大の人気者「鼻のシラノ」を生み出した、ロマンチック・ラブの最高傑作『シラノ・ド・ベルジュラック』を講読する。筋の組み立て、人物造型、思想、時代背景、古典の影響など、多様な観点から批判的に読解する。
到達目標	テクストをさまざまな視点から読み解いて、自分なりの分析や品評（文芸作品としてどのような卓越性・創造性を作り出せているか）を行うための技能を身につける。
授業計画	第１回　イントロダクション（授業の受け方、出席要件、評価方法、テクスト概説） 第２回　第一幕 第３回　第一幕、映画ビデオ 第４回　第二幕、漢字読み取りテスト 第５回　第二幕、映画ビデオ 第６回　第三幕、漢字読み取りデスト 第７回　第三幕　映画ビデオ 第８回　第四幕　漢字読み取りテスト 第９回　第四幕　映画ビデオ 第10回　第五幕　漢字読み取りデスト 第11回　第五幕　映画ビデオ 第12回　レポートの課題と書き方、漢字読み取りテスト 第13回　『シラノ』のロマンチック・ラブについて 第14回　シラノとソクラテス 第15回　まとめと展望、期末レポート提出
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業で講読するテクストの範囲を授業までに辞書等を調べながら読んで、疑問点を整理してくる必要がある。
授業方法	講読、教員による質問、解説、問題点の指摘などを交えながら一緒に読んでゆく。1幕ごとに漢字の読み取りテストをし、映画『シラノ・ド・ベルジュラック』の対応箇所を観る。
評価基準と評価方法	授業への参加度や漢字テストの点数等による平常点（３０％）と期末レポートの出来具合（７０％）で評価する。
教科書	『シラノ・ド・ベルジュラック』（岩波文庫） エドモン・ロスタン著、鈴木信太郎・辰野隆訳
参考書	『シラノ・ド・ベルジュラック』（光文社古典新訳文庫） ロスタン著、渡辺守章訳

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IIB／文芸講読D						
担当教員	山田　道夫						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	エウリピデスの悲劇『メデイア』を読む
授業の概要	ギリシア古典期の三大悲劇作家のうち、後世もっとも人気のあったエウリピデスの現存作品のうち、映画に舞台にと現代人に対してもとりわけ強烈な訴求力をもつ『メデイア』を講読する。筋の組み立て、人物造型、思想、神話的背景等の多様な観点から批判的に読解する。
到達目標	テクストをさまざまな視点から読み解いて、自分なりの分析や品評を展開するための技能を身につける。
授業計画	第１回　イントロダクション（テクストおよびギリシア悲劇について） 第２回　プロロゴスとパロドス 第３回　第１エペイソディオン、第１スタシモン 第４回　第２エペイソディオン、第２スタシモン 第５回　第３エペイソディオン、第３スタシモン 第６回　第４エペイソディオン、第４スタシモン 第７回　第５エペイソディオン、第５スタシモン 第８回　第６エペイソディオン、第６スタシモン 第９回　エクソドス 第10回　ビデオで見る『メデイア』 第11回　レポートの課題と考察の観点について 第12回　メデイアはなぜ子殺しをしなければならなかったのか、あるいは殺したのか？ 第13回　『メデイア』のエクソドスについて 第14回　エウリピデスの「機械仕掛けの神（デウス・エクス・マーキナー）」について 第15回　まとめと展望
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業で読むテクストをあらかじめ自分でよく読んで疑問点を整理し、授業後にも読み返す、参考文献を読むなどの予習復習が必要。
授業方法	講読。教員による質問、解説、問題点の指摘などを交えながら、一緒に読んでゆく。
評価基準と評価方法	授業への参加度、予習・復習の状況などの平常点を３０％、学期末レポートの出来具合（７０％)で評価する。
教科書	『ギリシア悲劇Ⅲ』（ちくま文庫） エウリピデス著、松平千秋他訳、筑摩書房
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IVA／文芸講読I（アイ）						
担当教員	勝村　弘也						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	ルネサンスから１８世紀までの西洋の音楽
授業の概要	クラシック音楽を鑑賞するための基礎的な知識を習得する。そのために必要と思われる様々なテクスト（楽譜、楽曲の解説文を含む）を読み解いてゆく。視聴覚教材を毎回使用する。
到達目標	音楽鑑賞のための基礎知識の習得
授業計画	１）音楽史年表、音楽と儀礼 ２）近代西洋の音楽の特徴について考える、弦楽４重奏 ３）ルネサンスと宗教改革 ４）前回のつづき ５）舞曲 ６）組曲 ７）ヴィヴァルディとモーツアルト ８）前回のつづき ９）演奏の場について考える １０）バロック文化 １１）協奏曲の歴史（１） １２）協奏曲の歴史（２） １３）バッハの音楽 １４）モーツアルトの音楽 １５）まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	AVセンターの教材を使って適宜音楽を聴く。
授業方法	さまざまなテクストを読む。ＣＤやＶＴＲを用いての音楽鑑賞。
評価基準と評価方法	平常点５０％（小テストおよび小レポートを含む）、期末のレポート５０％を原則とする。なお、受講態度の優れている者には、平常点を加点することがある。 ＊注記：「受講態度」というのは、出席点ではなく、予習・復習やテクストの理解の程度などのことです。なお、この科目では、２回以上連続で欠席しますとペナルティーが課せられます。
教科書	講義が始まってから指定する
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IVB／文芸講読J（ジェイ）						
担当教員	勝村　弘也						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	１９世紀の西ヨーロッパの人々の暮らしと音楽芸術
授業の概要	１８世紀末から１９世紀にかけての西ヨーロッパの社会の変化が音楽芸術に及ぼした影響について学ぶとともに、ロマン派の音楽の特徴を学ぶ。あわせて１９世紀の西ヨーロッパにおける色々な分野の芸術家について学ぶ。
到達目標	音楽芸術を鑑賞するために必要な基礎知識の習得。音楽と社会の関係について考えるための方法の習得。
授業計画	１）マリア・テレジアとその時代 ２）フランス革命がもたらしたもの ３）ジャン・ジャック・ルソーの思想、音楽論 ４）ソナタ形式 ５）交響曲の歴史（１） ６）交響曲の歴史（２） ７）ビーダーマイヤーの都 ８）喫茶店文化 ９）ロマン主義とロマン主義絵画 １０）シューベルトの生涯と音楽 １１）幻想交響曲 １２）メンデルスゾーンの生涯と音楽 １３）メンデルスゾーンの生涯と音楽 １４）マーラーの音楽（１） １５）マーラーの音楽（２）
授業外における学習（準備学習の内容）	配布資料を熟読すること
授業方法	講読形式を中心とするが、ＣＤやＶＴＲを用いた音楽鑑賞も行う。
評価基準と評価方法	平常点５０％（小テストおよび小レポートを含む）、期末のレポート５０％を原則とする。なお、受講態度の優れている者には、平常点を加点することがある。 ＊注記：「受講態度」というのは、出席点ではなく、予習・復習やテクストの理解の程度などのことです。なお、この科目では、２回以上連続で欠席しますとペナルティーが課せられています。ＡＶセンターで音楽ＣＤを聞いて、レポートを書くというようなことです。この科目の受講ルールは複雑ですので、最初に受講生には詳しく説明しています。
教科書	未定
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読VA／文芸講読K						
担当教員	村上　知彦						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	まんがと性別越境-「リボンの騎士」と少女まんがの展開
授業の概要	現代の物語まんがは、文学とはまたちがった形でさまざまな主題を表現してきた。この講義では、戦後少女まんがの出発点ともいえる手塚治虫「リボンの騎士」を取り上げ、そこに表現された性別越境の主題を手がかりに、少女まんがにおけるその展開とまんが史の中での位置づけ、その後のまんが表現に与えた影響、さらにはまんがという表現の特質にまで考察を進めたい。作品の読解を中心に、多様な関連作品を解説、比較しながら進めるので、テキストを充分理解して授業に臨むことはもちろん、まんが研究への幅広い関心を持ち、紹介する作品についても可能なかぎり目を通すなど、授業への積極的参加を望みたい。
到達目標	「リボンの騎士」を手がかりに、そこから多様に広がる手塚まんがの一貫した主題を知る。また「性別越境」という一つの主題がさまざまに展開する、現代少女まんがの表現の広がりを理解する。
授業計画	（１）イントロダクション/ストーリー少女まんがの誕生 （２）「リボンの騎士」を読む/1 （３）「リボンの騎士」を読む/2 （４）「リボンの騎士」論の諸相　藤本/中野/竹内の「リボンの騎士」論 （５）「リボンの騎士」論の展開/1　押山の“ジェンダー表象”論（１） （６）「リボンの騎士」論の展開/2　押山の“ジェンダー表象”論（２） （７）「リボンの騎士」と宝塚歌劇/手塚治虫と宝塚 （８）手塚まんがと性別越境/1　ロボットと人形 （９）手塚まんがと性別越境/2　昆虫とクローン/母と少年 (10) 少女まんがの性別越境/1　ベルサイユのばら (11) 少女まんがの性別越境/2　雪の子/シュリンクス・パーン (12) 少女まんがの性別越境/3　風と木の詩/日出処の天子 (13) 少女まんがの性別越境/4　櫻の園/ＳＴＡＹ/大奥 (14) 戦う少女たち　ＢＡＳＡＲＡ/少女革命ウテナ (15) まとめ/まんがと性別表現
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：テキストは必ず事前に通読の上、授業計画に従って精読して授業に臨むこと。 授業後学習：授業で取り上げた作品について、関心を持ったものを読んでみよう。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	期末レポート（60%）、提出物および平常点等(40%)
教科書	「リボンの騎士・少女クラブ版」手塚治虫、講談社漫画文庫　ISBN4-06-260656-9
参考書	「ベルサイユのばら」全５巻　池田理代子、集英社文庫　ISBN4-08-748220-0〜4-08-748224-3 その他、授業中に紹介します。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読VB／文芸講読L						
担当教員	村上　知彦						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	まんがと批評-まんがの論じ方
授業の概要	絵と言葉によってつづられる文芸の一形式であり、戦後日本の重要な文化でもあるまんがをめぐる多様な主題を論じた批評・研究を概観し、それらをふまえつつ、まんが作品を批評的に読み解く。指定テキストの他、受講者の希望するまんが作品もテキストとして取り上げ、それらの作品についての批評・研究などを参照しながら授業内での発表・討議をおこない、最終的には短い批評的文章を、各自レポートとして書き上げることを目指す。 テキストをもとにした講義、および発表形式。何度か、課題等の提出を求める。
到達目標	まんが作品を批評的に読み解く方法を学び、まんが作品に対する受講者自身による批評文を、レポートとして書き上げる。
授業計画	（１）イントロダクション （２）まんがの論じ方/まんが批評小史 （３）まんがと批評/批評とは何か （４）コードとコンテクスト/物語のコード分析 （５）作品講読1-1/課題・萩尾望都「トーマの心臓」 （６）作品講読1-2　作者とタイトル （７）作品講読1-3　書き出しと主人公 （８）作品講読1-4　物語のコード （９）作品講読1-5　描写と表現 （10）作品講読2-1（課題作品は授業中に決定） （11）作品講読2-2　作者とタイトル （12）作品講読2-3　書き出しと主人公 （13）作品講読2-4　物語のコード （14）作品講読2-5　描写と表現 （15）まとめ/作品分析のヒント
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：テキストは必ず事前に通読の上、授業計画に従って精読して授業に臨むこと。 授業後学習：毎回の学んだことをふまえて、自分自身の作品の読みとり方を文章化してみる。
授業方法	講義および個人発表
評価基準と評価方法	期末レポート（50%）、および発表・平常点等（50%）により総合的に評価する。
教科書	「トーマの心臓」萩尾望都、小学館文庫　ISBN4-09-191013-0 その他、授業中に指示します。
参考書	「増補　文学テクスト入門」前田愛、ちくま学芸文庫　ISBN4-480-08095-3 その他、授業中に紹介します。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IIIA						
担当教員	柿沼　伸明						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	西洋文芸と映画 ラディゲ『肉体の悪魔』とその映画表現の比較
授業の概要	レーモン・ラディゲは、夭折（ようせつ）した天才作家である。彼が16～18歳のときに『肉体の悪魔』を書き、20歳で出版して、フランス文壇に一大センセーションを巻き起こし、同年、腸チフスで死んでしまう。作品は「フランス心理主義の伝統の再現」「古典主義的な美」などと評された。『肉体の悪魔』は3度、映画化された。1947年のフランス映画、1985年のオーストリア映画、1986年のイタリア映画（伊仏合作）。イタリア映画は原作の翻案で、舞台もパリからローマに移されている。オーストリア映画は入手不能なので、小説を読んだ後、他の2つの映画作品を鑑賞し、原作と比較してみたい。
到達目標	文学テクストの読解と、その映像的解釈の鑑賞
授業計画	第１回：単位認定の説明、ラディゲの生涯・20世紀初めのフランスに関する解説 第２回：p.6-p.26　輪読 第３回：p.27-p.47　輪読 第４回：p.48-p.68　輪読 第５回：p.69-p.89　輪読 第６回：p.90-p.110　輪読 第７回：p.111-p.131　輪読 第８回：p.132-p.152　輪読 第９回：p.153-p.173　輪読 第１０回：p.174-p.194　輪読 第１１回：p.195-最後　輪読 第１２回：フランス映画『肉体の悪魔』鑑賞 第１３回：フランス映画『肉体の悪魔』鑑賞、仮レポート提出 第１４回：イタリア映画『肉体の悪魔』鑑賞 第１５回：イタリア映画『肉体の悪魔』鑑賞、添削後、仮レポート返却
授業外における学習（準備学習の内容）	自分で小説を読んでおくこと
授業方法	講義
評価基準と評価方法	出席率とレポート内容に基づき総合的に評価
教科書	ラディゲ、中条省平訳『肉体の悪魔』（光文社古典新訳文庫）
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IIIB						
担当教員	柿沼　伸明						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	日本文芸と映画 夏目漱石『それから』とその映画表現の比較
授業の概要	漱石『それから』の舞台は、日露戦争勝利後の日本。西欧列強に追いつき、追い越せとばかり、国中がアクセクしているなか、親からの仕送りをもらい、朝食には紅茶とトーストを食べ、暇にまかせて英文書を読み漁る主人公の代助。優雅な高等遊民生活を送っていた彼だが、友人の妻を愛することによって運命が一変する。個人主義のなかった明治期日本で、個人的情念を貫いた結果、社会や家族制度によって個人がいかに押しつぶされていくかが、この小説のテーマである。1985年製作の森田芳光監督の映画化作品は、当時の社会風景と主人公の内的葛藤を、独特な映像センスで活写している。代助を演じる松田優作も味がある。
到達目標	文学テクストの読解と、その映像的解釈の鑑賞
授業計画	第１回：単位認定の説明、『それから』と日露戦争後の日本に関する解説 第２回：p.5-p.30　輪読 第３回：p.31-p.61　輪読 第４回：p.62-p.92　輪読 第５回：p.93-p.123　輪読 第６回：p.124-p.154　輪読 第７回：p.155-p.185　輪読 第８回：p.186-p.216　輪読 第９回：p.217-p.247　輪読 第１０回：映画『それから』鑑賞 第１１回：映画『それから』鑑賞 第１２回：p.245-p.275　輪読 第１３回：p.276-p.306　輪読、仮レポート提出 第１４回：p.307-最後　輪読 第１５回：『それから』に関する評論の輪読、添削した仮レポート返却
授業外における学習（準備学習の内容）	自分で小説を読んでおくこと
授業方法	講義
評価基準と評価方法	出席率とレポート内容に基づき総合的に評価
教科書	夏目漱石『それから』（新潮文庫）
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習I						
担当教員	宗像　衣子						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	4.0

授業のテーマ	文学・芸術の創造性と文化の諸相
授業の概要	文芸をめぐる諸問題を、以下の視点から検討してゆく。 分野：言語・文学―芸術（美術・音楽）―社会・思想―文化 時代：近代（18・19世紀）―現代（20・21世紀）を軸に 地域：フランスを中心に西洋・アメリカ―東洋・日本 ここから広がる関連領域にどのような研究テーマの可能性があるかを紹介し、 数例の探究を経験した上で、出席者が各々関心をもっている事柄を手掛かりに研究発表をしてゆく。 その突き合わせによって、種々の研究内容・方法を学び、関連資料に接しながら、 全員がこの研究領域に関する知見を深めて、 自らの研究課題を発掘し見直しつつ、より豊かな地平から探究してゆくことを目指す。
到達目標	身近な関心から出発し、視聴覚資料も見たり聞いたりしながら、様々な「見方・感じ方」に触れて、 関心と意識と知識を充実させ、広い視野を開拓してほしい。 出席者皆の感性・知性を重ねることで、思いもかけない楽しみや自分が変わるよろこびを たくさん発見できます。
授業計画	以下、授業の性質上、受講生の人数・状況等によって修正されることがある。 前期 １回　　演習オリエンテーション ２～１１回　4年生による研究発表と討論 １２～１５回　補足討論・関連資料研究・まとめ 　　見学授業を含む場合がある 後期 １６回　　演習ガイダンス １７～２４回　３年生による研究発表と討議 ２５～３０回　補足討論・関連資料研究 　　見学授業を含む場合がある
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習
授業方法	演習
評価基準と評価方法	平常点８０％、レポート等２０％
教科書	授業内容に即した各種資料や参考書を配付・紹介する。
参考書	日本の風景・西欧の景観 著 A.ベルク 篠田勝英訳(講談社)

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習II						
担当教員	勝村　弘也						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	4.0

授業のテーマ	民俗学と歴史研究
授業の概要	２年サイクルの授業計画に従っている演習。前期は、昔話の研究方法について学んだ後で、世界の生活文化について調べて行きます。同時に世界各地の神話を比較します。後期は、歴史の社会史的研究方法について学びます。また技術と芸術の関係について考察します。
到達目標	自分でテーマを設定して、歴史を研究する。
授業計画	１）宮沢賢治の童話に描かれた人々の生活（１） ２）宮沢賢治の童話に描かれた人々の生活（２） ３）昔話の比較研究（１） ４）昔話の比較研究（２） ５）昔話の比較研究（３） ６）民話の構造（１） ７）民話の構造（２） ８）世界の生活文化（１）アジア、太平洋 ９）世界の生活文化（２）アフリカ、南アメリカ １０）世界の生活文化（３）地中海世界、西アジア １１）世界の生活文化（４）ヨーロッパ １２）世界の神話（１） １３）世界の神話（２） １４）世界の神話（３） １５）前期のまとめと反省 １６）近代以前のヨーロッパ社会（１） １７）近代以前のヨーロッパ社会（２） １８）阿部謹也の著作を読む（１） １９）阿部謹也の著作を読む（２） ２０）阿部謹也の著作を読む（３） ２１）死生観の歴史（１） ２２）死生観の歴史（２） ２３）死生観の歴史（３） ２４）死生観の歴史（４） ２５）技術と人間 ２６）科学技術と芸術（１） ２７）科学技術と芸術（２） ２９）科学技術と芸術（３） ３０）後期のまとめと反省
授業外における学習（準備学習の内容）	特に発表に当たった時は、参考文献などを読み、決められた課題について適当な長さにまとめて印刷すること。簡単な課題については、口頭発表できるように知識を整理しておくこと。
授業方法	学生による研究発表と討論を中心にした演習形式。簡単な課題は、全員に課されることがある。
評価基準と評価方法	出席(単なる「出席」の意味ではなく、課題の発表、討論への参加が前提条件である）。テーマごとに割り当てられる研究発表（ここまでの項目で約６０パーセント）。各学期末のレポート（約４０パーセント）などを総合する。評価の比率については目安である。レポートに関しては加点されることがある。
教科書	
参考書	毎回のように授業中に紹介します。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習Ⅳ						
担当教員	山田　道夫						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	4.0

授業のテーマ	神話の中の女たち
授業の概要	ギリシア神話や日本の神話に登場する女性たちにスポットを当てて、神話を題材としたテクストをさまざまな角度から考察する。取り上げる主要なテクストはギリシア悲劇と古事記。前期は先ず「抑圧された女たちとカタルシス」という観点からオレステイア劇のエレクトラについて調べ、異なるテクストのなかでどのようなヒロイン像がどのように造型されているかを考察し、さらにそれらと対照させながら『古事記』の女性たちへも考察の範囲を拡げてゆく。
到達目標	古代の文芸における悲劇的女性像を探ってゆくという作業を通して、さまざまな文芸テクストを深く、また相互に比較して多面的に考察する力、自分なりの解釈や筋の通った批評を組み立てる力を養う。
授業計画	前期 第１回　イントロダクション、テクスト・参考文献概説 第２回　オレステイア劇とエレクトラ 第３回　アイスキュロス「オレステイア三部作」の場合 第４回　ソポクレス『エレクトラ』(1) 第５回　ソポクレス『エレクトラ』(2) 第６回　ソポクレス『エレクトラ』(3) 第７回　エウリピデス『エレクトラ』(1) 第８回　エウリピデス『エレクトラ』(2) 第９回　エウリピデス『エレクトラ』(3) 第10回　４回生による調査発表とディスカッション 第11回　４回生による調査発表とディスカッション 第12回　ギリシア神話の女性たち(1) 第13回　ギリシア神話の女性たち(2) 第14回　ギリシア神話の女性たち(3) 第15回　まとめと展望、期末レポート提出 後期 第１回　シンデレラの話(1) 第２回　シンデレラの話(2) 第３回　シンデレラの話(3) 第４回　『古事記』「沙本毘古と沙本毘売」 第５回　『古事記』「石之日売皇后の嫉妬」 第６回　エウリピデス『タウリケのイピゲネイア』(1) 第７回　エウリピデス『タウリケのイピゲネイア』(2) 第８回　エウリピデス『タウリケのイピゲネイア』(3) 第９回　３回生による調査発表とディスカッション 第10回　３回生による調査発表とディスカッション 第11回　３回生による調査発表とディスカッション 第12回　アリストテレスの『詩学』(1) 第13回　アリストテレスの『詩学』(2) 第14回　アリストテレスの『詩学』(3) 第15回　まとめと展望、期末レポート提出
授業外における学習（準備学習の内容）	シラバスを見て、各回の授業で取り上げるテクストや参考文献をあらかじめよく読み、問題点を整理しておくこと。
授業方法	演習。あらかじめじぶんで拾い出した問題点とそれについての解釈を提示しあい議論する。ひとり一度ずつまとまった研究発表の機会がある。
評価基準と評価方法	出席状況と授業態度を総合した平常点５０％と学期末のレポート（５０％）によって評価する。
教科書	授業時に指示する

参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習V						
担当教員	柿沼　伸明						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	4.0

授業のテーマ	パトリック・ジュースキント『香水―ある人殺しの物語』を読む ヨーロッパの芳香と悪臭の文化史について考える
授業の概要	パトリック・ジュースキントは、ドイツの現代作家である。小説『香水―ある人殺しの物語』（1985）によって、ギュンター・グラスやミャエル・エンデに次ぐ、ひさびさの世界的に著名なドイツ人作家に躍り出た。 2006年にこの作品は映画化されているので、その映画作品も鑑賞する。 　また、ヨーロッパ中世以来の「香りの文化史」も研究していきたい。中世の都市をとりまく悪臭からどのように香料やハーブといった香りの文化が育成していき、1921年のココ・シャネルの「No.5」という香水の世界的流行に発展していったのか。後期には、シャネルの数奇な人生についても触れたい。 　香りについての文化史、香水についての歴史に関する論文をもってくるので、担当者はこれを要約発表してほしい。以上とは別に、受講者に毎回１名、研究発表をしてもらう。３回生は前期後期それぞれ１回、４回生は１年１回が義務となる。
到達目標	人文学の専門的な領域の学び
授業計画	第１回：授業概要・成績評価の説明。ジュースキントと小説のについて概説。研究発表者の割り振り。 第２～３回：『香水―ある人殺しの物語』を一緒に読む。 第４～１５回：１回に１人が研究発表、１人が小説の要約発表、１人が渡された論文の要約発表。 （『モモ』を読了した時点で映画を鑑賞） 第１６～１８回：『においの歴史―嗅覚と社会的想像力』を一緒に読む。 第１９～３０回：１回に１人が研究発表、１人が『匂いの魔力―香りと匂いの文化史』の要約発表、１人が渡された論文の要約発表。
授業外における学習（準備学習の内容）	自分の発表の順番でなくとも、小説を読み上げること。 研究発表のときは、よく下調べをすること。
授業方法	初めはテクストの回読。 慣れてきたら個人研究発表、テクストの要約発表、論文の要約発表の３本立て。
評価基準と評価方法	出席率、授業に対する熱意、個人発表内容、レポート内容に基づき総合的に評価。
教科書	パトリック・ジュースキント、池内紀訳『香水―ある人殺しの物語』（文春文庫、2003年）
参考書	アラン・コルバン、山田・鹿島訳『においの歴史―嗅覚と社会的想像力』（藤原書店、1990年） アニック・グレ、小泉敦子訳『匂いの魔力―香りと匂いの文化史』（工作舎、2000年）

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習VI						
担当教員	木村　勲						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	4.0

授業のテーマ	近代文芸とメディア
授業の概要	講義。尾崎紅葉が読売新聞、夏目漱石が朝日新聞、樋口一葉は「近代文学」というように日本の近代文学は新聞・雑誌をベースに成立した。これは日本の近代文学の基本的特徴を形成したと考えられる。細やかな日常感覚の描写に優れる一方、大ロマンが生まれにくい体質だ。一葉の作・生涯を軸に考えていく。
到達目標	近代文芸成立期の特徴把握
授業計画	＜短編の名作をじっくり読み込む＞ 前期 ①ゼミとは何か。当方の説明。②レジュメの作り方実例（一葉の全体像について当方の報告で行う）。③同（本郷界隈の江戸・明治）。以下順番に『にごりえ』の報告④一章「おい木村さん」⑤二章「山高帽子の三十男」⑥三章「結城朝之助」⑦四章「髪結床」⑧五章「無限地獄」⑨六章「お力」⑩七章「お精霊さま」⑪八章「棺二つ」⑫井上ひさし『頭痛肩こり樋口一葉』ビデオ鑑賞⑬同、論議⑭五千円札はなぜ⑮『たけくらべ』一章「お歯ぐろ溝」 後期 ①二章「千束神社」②三章「大黒屋の美登利」③四章「三味の音色」④五章「待つ身につらき」⑤六章「喧嘩の相手」⑥七章「龍華寺」⑦八章「紺屋の乙娘」⑧九章「後新造」⑨十章「田町の姉」⑩十一章「行く後影」⑪十二章「鞍馬の石灯籠」⑫一三章「生憎の雨」⑬一四章「角町京町」⑭十五章「嶋田の髷」⑮十六章「喧嘩」 なお後期は上記より何回か早くあがると思うので山川登美子をします。 毎回課題として、日常の紙面から関心のある記事について小レポートを提出してもらう。
授業外における学習（準備学習の内容）	漱石後期３部作を読んでおく
授業方法	ゼミ。ゼミは通常の講義とは逆に学生からの発信が基本。順番に報告してもらう。報告者は持ち 時間をフル活用して、自己の考えを開陳すること。聞く側も遠慮なく意見をいうこと。と もに権利である。
評価基準と評価方法	報告・討議への意欲、小レポート（以上50㌫）、期末レポート（50㌫）を総合して。
教科書	樋口一葉「にごりえ　たけくらべ」岩波文庫　ＩＳＢＮ４－００－３１０２５１－７
参考書	馬場弧蝶「明治文壇の人々」ウェッジ文庫

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習VII						
担当教員	村上　知彦						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	4.0

授業のテーマ	雑誌とメディア文化
授業の概要	世の中に流通する多種多様な雑誌の分析、研究を通して、文学、映画、テレビ、ラジオ、音楽、まんが、アニメ、ゲーム、ファッション、広告、インターネットなど現代のメディア文化全般について、それらがメディアによってどのように表現され、時代や社会とどのように関わってきたかを考察する。 授業は、前期は課題についてのグループ発表および各人の関心のある、雑誌・出版やメディア文化に関わるテーマについての個人発表、後期はメディア研究の基礎的テキストの講読および卒論テーマの検討と発表によって進める。
到達目標	雑誌というメディアを通して、現代のメディア文化の多様な広がりを知る。雑誌を手がかりに、私たちの暮らしや文化とメディアとのかかわりを考察し、卒業研究の主題の発見へとつなげる。
授業計画	・以下は、受講生による議論の広がりや授業の進展等により、随時修整される可能性がある。 前期 （１）イントロダクション/雑誌研究の意義と展望 （２）〜（３）「雑誌文化論」講義と発表者割り振り （４）〜（６）グループ発表とディスカッション （７）〜（14）個人発表とディスカッション、および関連講義 （15）まとめ 後期 （１）イントロダクション/メディア文化研究の方法 （２）〜（３）テキスト概説と発表者割り振り （４）〜（９）テキストの各章につき２〜３人ずつの発表とディスカッション （10）〜（14）卒論テーマの検討と研究計画の発表 （15）レポート指導とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：指示した文献の精読、発表の準備などを十分に行った上で授業に臨むこと。 授業後学習：配布資料、レジュメ等を整理し、自分自身の関心にひきつけて考えをまとめてみる。
授業方法	学生による発表と討論を中心にした演習形式
評価基準と評価方法	発表内容、授業への参加度、提出物等により総合的に評価する。
教科書	「再起動せよと雑誌はいう」仲俣暁生、京阪神エルマガジン社　ISBN978-4-87435-369-1 その他、授業中に指示します。
参考書	授業中に紹介します

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習I						
担当教員	宗像　衣子						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	文学・芸術の創造性と文化の諸相
授業の概要	文芸をめぐる諸問題を、以下の視点から検討してゆく。 分野：言語・文学―芸術（美術・音楽）―社会・思想―文化 時代：近代（18・19世紀）―現代（20・21世紀）を軸に 地域：フランスを中心に西洋・アメリカ―東洋・日本 ここから広がる関連領域にどのような研究テーマの可能性があるかを紹介し、 数例の探究を経験した上で、出席者が各々関心をもっている事柄を手掛かりに研究発表をしてゆく。 その突き合わせによって、種々の研究内容・方法を学び、関連資料に接しながら、 全員がこの研究領域に関する知見を深めて、 自らの研究課題を発掘し見直しつつ、より豊かな地平から探究してゆくことを目指す。
到達目標	身近な関心から出発し、視聴覚資料も見たり聞いたりしながら、様々な「見方・感じ方」に触れて、 関心と意識と知識を充実させ、広い視野を開拓してほしい。 出席者皆の感性・知性を重ねることで、思いもかけない楽しみや自分が変わるよろこびを たくさん発見できます。
授業計画	以下、授業の性質上、受講生の人数・状況等によって修正されることがある。 前期 １回　演習オリエンテーション ２～１１回　4年生による研究発表と討論 １２～１５回　補足討論・関連資料研究・まとめ 見学授業を含む場合がある 後期 １６回　演習ガイダンス １７～２４回　３年生による研究発表と討議 ２５～３０回　補足討論・関連資料研究 見学授業を含む場合がある
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習
授業方法	演習
評価基準と評価方法	平常点８０％、レポート等２０％
教科書	授業内容に即した各種資料や参考書を配付・紹介する。
参考書	日本の風景・西欧の景観 著 A.ベルク 篠田勝英訳(講談社)

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習II						
担当教員	勝村　弘也						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	民俗学と歴史研究
授業の概要	２年サイクルの授業計画に従っている演習。前期は、昔話の研究方法について学んだ後で、世界の生活文化について調べて行きます。同時に世界各地の神話を比較します。後期は、歴史の社会史的研究方法について学びます。また技術と芸術の関係について考察します。
到達目標	自分でテーマを設定して、歴史を研究する。
授業計画	１）宮沢賢治の童話に描かれた人々の生活（１） ２）宮沢賢治の童話に描かれた人々の生活（２） ３）昔話の比較研究（１） ４）昔話の比較研究（２） ５）昔話の比較研究（３） ６）民話の構造（１） ７）民話の構造（２） ８）世界の生活文化（１）アジア、太平洋 ９）世界の生活文化（２）アフリカ、南アメリカ １０）世界の生活文化（３）地中海世界、西アジア １１）世界の生活文化（４）ヨーロッパ １２）世界の神話（１） １３）世界の神話（２） １４）世界の神話（３） １５）前期のまとめと反省 １６）近代以前のヨーロッパ社会（１） １７）近代以前のヨーロッパ社会（２） １８）阿部謹也の著作を読む（１） １９）阿部謹也の著作を読む（２） ２０）阿部謹也の著作を読む（３） ２１）死生観の歴史（１） ２２）死生観の歴史（２） ２３）死生観の歴史（３） ２４）死生観の歴史（４） ２５）技術と人間 ２６）科学技術と芸術（１） ２７）科学技術と芸術（２） ２９）科学技術と芸術（３） ３０）後期のまとめと反省
授業外における学習（準備学習の内容）	特に発表に当たった時は、参考文献などを読み、決められた課題について適当な長さにまとめて印刷すること。簡単な課題については、口頭発表できるように知識を整理しておくこと。
授業方法	学生による研究発表と討論を中心にした演習形式。簡単な課題は、全員に課されることがある。
評価基準と評価方法	出席(単なる「出席」の意味ではなく、課題の発表、討論への参加が前提条件である）。テーマごとに割り当てられる研究発表（ここまでの項目で約６０パーセント）。各学期末のレポート（約４０パーセント）などを総合する。評価の比率については目安である。レポートに関しては加点されることがある。
教科書	
参考書	毎回のように授業中に紹介します。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習IV						
担当教員	山田　道夫						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	神話の中の女たち
授業の概要	ギリシア神話や日本の神話に登場する女性たちにスポットを当てて、神話を題材としたテクストをさまざまな角度から考察する。取り上げる主要なテクストはギリシア悲劇と古事記。前期は先ず「抑圧された女たちとカタルシス」という観点からオレステイア劇のエレクトラについて調べ、異なるテクストのなかでどのようなヒロイン像がどのように造型されているかを考察し、さらにそれらと対照させながら『古事記』の女性たちへも考察の範囲を拡げてゆく。
到達目標	古代の文芸における悲劇的女性像を探ってゆくという作業を通して、さまざまな文芸テクストを深く、また相互に比較して多面的に考察する力、自分なりの解釈や筋の通った批評を組み立てる力を養う。
授業計画	前期 第１回　イントロダクション、テクスト・参考文献概説 第２回　オレステイア劇とエレクトラ 第３回　アイスキュロス「オレステイア三部作」の場合 第４回　ソポクレス『エレクトラ』(1) 第５回　ソポクレス『エレクトラ』(2) 第６回　ソポクレス『エレクトラ』(3) 第７回　エウリピデス『エレクトラ』(1) 第８回　エウリピデス『エレクトラ』(2) 第９回　エウリピデス『エレクトラ』(3) 第10回　４回生による調査発表とディスカッション 第11回　４回生による調査発表とディスカッション 第12回　ギリシア神話の女性たち(1) 第13回　ギリシア神話の女性たち(2) 第14回　ギリシア神話の女性たち(3) 第15回　まとめと展望、期末レポート提出 後期 第１回　シンデレラの話(1) 第２回　シンデレラの話(2) 第３回　シンデレラの話(3) 第４回　『古事記』「沙本毘古と沙本毘売」 第５回　『古事記』「石之日売皇后の嫉妬」 第６回　エウリピデス『タウリケのイピゲネイア』(1) 第７回　エウリピデス『タウリケのイピゲネイア』(2) 第８回　エウリピデス『タウリケのイピゲネイア』(3) 第９回　３回生による調査発表とディスカッション 第10回　３回生による調査発表とディスカッション 第11回　３回生による調査発表とディスカッション 第12回　アリストテレスの『詩学』(1) 第13回　アリストテレスの『詩学』(2) 第14回　アリストテレスの『詩学』(3) 第15回　まとめと展望、期末レポート提出
授業外における学習（準備学習の内容）	シラバスを見て、各回の授業で取り上げるテクストや参考文献をあらかじめよく読み、問題点を整理しておくこと。
授業方法	演習。あらかじめじぶんで拾い出した問題点とそれについての解釈を提示しあい議論する。ひとり一度ずつまとまった研究発表の機会がある。
評価基準と評価方法	出席状況と授業態度を総合した平常点５０％と学期末のレポート（５０％）によって評価する。
教科書	授業時に指示する

参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習V						
担当教員	柿沼　伸明						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	パトリック・ジュースキント『香水―ある人殺しの物語』を読む ヨーロッパの芳香と悪臭の文化史について考える
授業の概要	パトリック・ジュースキントは、ドイツの現代作家である。小説『香水―ある人殺しの物語』（1985）によって、ギュンター・グラスやミャエル・エンデに次ぐ、ひさびさの世界的に著名なドイツ人作家に躍り出た。 2006年にこの作品は映画化されているので、その映画作品も鑑賞する。 　また、ヨーロッパ中世以来の「香りの文化史」も研究していきたい。中世の都市をとりまく悪臭からどのように香料やハーブといった香りの文化が育成していき、1921年のココ・シャネルの「No.5」という香水の世界的流行に発展していったのか。後期には、シャネルの数奇な人生についても触れたい。 　香りについての文化史、香水についての歴史に関する論文をもってくるので、担当者はこれを要約発表してほしい。以上とは別に、受講者に毎回１名、研究発表をしてもらう。３回生は前期後期それぞれ１回、４回生は１年１回が義務となる。
到達目標	人文学の専門的な領域の学び
授業計画	第１回：授業概要・成績評価の説明。ジュースキントと小説のについて概説。研究発表者の割り振り。 第２～３回：『香水―ある人殺しの物語』を一緒に読む。 第４～１５回：１回に１人が研究発表、１人が小説の要約発表、１人が渡された論文の要約発表。 （『モモ』を読了した時点で映画を鑑賞） 第１６～１８回：『においの歴史―嗅覚と社会的想像力』を一緒に読む。 第１９～３０回：１回に１人が研究発表、１人が『匂いの魔力―香りと匂いの文化史』の要約発表、１人が渡された論文の要約発表。
授業外における学習（準備学習の内容）	自分の発表の順番でなくとも、小説を読み上げること。 研究発表のときは、よく下調べをすること。
授業方法	初めはテクストの回読。 慣れてきたら個人研究発表、テクストの要約発表、論文の要約発表の３本立て。
評価基準と評価方法	出席率、授業に対する熱意、個人発表内容、レポート内容に基づき総合的に評価。
教科書	パトリック・ジュースキント、池内紀訳『香水―ある人殺しの物語』（文春文庫、2003年）
参考書	アラン・コルバン、山田・鹿島訳『においの歴史―嗅覚と社会的想像力』（藤原書店、1990年） アニック・グレ、小泉敦子訳『匂いの魔力―香りと匂いの文化史』（工作舎、2000年）

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習VI						
担当教員	木村　勲						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	近代文芸とメディア
授業の概要	講義。尾崎紅葉が読売新聞、夏目漱石が朝日新聞、樋口一葉は「近代文学」というように日本の近代文学は新聞・雑誌をベースに成立した。これは日本の近代文学の基本的特徴を形成したと考えられる。細やかな日常感覚の描写に優れる一方、大ロマンが生まれにくい体質だ。一葉の作・生涯を軸に考えていく。
到達目標	近代文芸成立期の特徴把握
授業計画	＜短編の名作をじっくり読み込む＞ 前期 ①ゼミとは何か。当方の説明。②レジュメの作り方実例（一葉の全体像について当方の報告で行う）。③同（本郷界隈の江戸・明治）。以下順番に『にごりえ』の報告④一章「おい木村さん」⑤二章「山高帽子の三十男」⑥三章「結城朝之助」⑦四章「髪結床」⑧五章「無限地獄」⑨六章「お力」⑩七章「お精霊さま」⑪八章「棺二つ」⑫井上ひさし『頭痛肩こり樋口一葉』ビデオ鑑賞⑬同、論議⑭五千円札はなぜ⑮『たけくらべ』一章「お歯ぐろ溝」 後期 ①二章「千束神社」②三章「大黒屋の美登利」③四章「三味の音色」④五章「待つ身につらき」⑤六章「喧嘩の相手」⑥七章「龍華寺」⑦八章「紺屋の乙娘」⑧九章「後新造」⑨十章「田町の姉」⑩十一章「行く後影」⑪十二章「鞍馬の石灯籠」⑫一三章「生憎の雨」⑬一四章「角町京町」⑭十五章「嶋田の髷」⑮十六章「喧嘩」 なお後期は上記より何回か早くあがると思うので山川登美子をします。 毎回課題として、日常の紙面から関心のある記事について小レポートを提出してもらう。
授業外における学習（準備学習の内容）	漱石後期３部作を読んでおく
授業方法	ゼミ。ゼミは通常の講義とは逆に学生からの発信が基本。順番に報告してもらう。報告者は持ち 時間をフル活用して、自己の考えを開陳すること。聞く側も遠慮なく意見をいうこと。と もに権利である。
評価基準と評価方法	報告・討議への意欲、小レポート（以上50㌫）、期末レポート（50㌫）を総合して。
教科書	樋口一葉「にごりえ　たけくらべ」岩波文庫　ＩＳＢＮ４－００－３１０２５１－７
参考書	馬場弧蝶「明治文壇の人々」ウェッジ文庫

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習VII						
担当教員	村上　知彦						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	雑誌とメディア文化
授業の概要	世の中に流通する多種多様な雑誌の分析、研究を通して、文学、映画、テレビ、ラジオ、音楽、まんが、アニメ、ゲーム、ファッション、広告、インターネットなど現代のメディア文化全般について、それらがメディアによってどのように表現され、時代や社会とどのように関わってきたかを考察する。授業は、前期は各自の卒論テーマに関する個人発表、後期はテキストの講読によって進める。
到達目標	雑誌というメディアを通して、現代のメディア文化の多様な広がりを知る。雑誌を手がかりに、私たちの暮らしや文化とメディアとのかかわりを考察し、卒業研究の主題の考察へと生かす。
授業計画	・以下は、受講生による議論の広がりや授業の進展等により、随時修整される可能性がある。 前期 （１）イントロダクション/雑誌研究の意義と展望 （２）〜（３）「雑誌文化論」講義と発表者割り振り （４）〜（６）グループ発表とディスカッション （７）〜（14）卒論テーマに関する個人発表とディスカッション （15）まとめ 後期 （１）イントロダクション/メディア文化研究の方法 （２）〜（３）テキスト概説と発表者割り振り （４）〜（９）テキストの各章につき２〜３人ずつの発表とディスカッション （10）〜（14）３年卒論テーマの検討・発表への参加とディスカッション （15）まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：指示した文献の精読、発表の準備などを十分に行った上で授業に臨むこと。 授業後学習：配布資料、レジュメ等を整理し、自分自身の関心にひきつけて考えをまとめてみる。
授業方法	学生による発表と討論を中心にした演習形式
評価基準と評価方法	発表内容、授業への参加度、提出物等により総合的に評価する。
教科書	「再起動せよと雑誌はいう」仲俣暁生、京阪神エルマガジン社　ISBN978-4-87435-369-1 その他、授業中に指示します。
参考書	授業中に紹介します

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IA／文芸特殊講義C／（世界の民俗と民話）						
担当教員	勝村　弘也						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	世界の民話の研究
授業の概要	民話の研究方法に関する基礎知識を学ぶ。グリム昔話など海外の民話を中心に扱う。
到達目標	世界各地の民話を比較研究するために必要な基礎知識を獲得し、自分で簡単なテーマを立てて、研究できるようになること。
授業計画	１）民話の分類、グリム兄弟の生涯 ２）グリム昔話集、昔話研究に必要な基礎知識 ３）前回のつづき ４）シャルル・ペローとグリム ５）前回のつづき ６）マックス・リューティの昔話研究 ７）前回のつづき ８）グリム昔話を中心にした比較研究（１） ９）グリム昔話を中心にした比較研究（２） １０）寓話 １１）動物昔話 １２）パンチャタントラと日本文学 １３）死体化生作物起源神話 １４）神話を読む １５）まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	適宜講義の中で指示する。ウエブサイトから簡単に得ることの出来る情報を事前に見ておくように指示することがある。
授業方法	主として講義形式、受講者による簡単な報告を適宜行う。
評価基準と評価方法	授業への参加（単なる出席ではなく受講態度をも含む。３０パーセント）、小レポート（３０－４０パーセント）、学期末のレポート（３０－４０パーセント）を総合して評価する。
教科書	
参考書	講義時間中に適宜紹介する。「グリム昔話集」は文庫本などを各自で購入しておくことが望ましい。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IB／文芸特殊講義D／（日本の民俗と民話）						
担当教員	勝村　弘也						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	日本の民話と生活文化
授業の概要	日本の昔話・伝説の研究方法について学びながら、日本文化の基底にある生活文化について考察する。
到達目標	民話を民衆の生活との関係で考えるための方法を習得する
授業計画	１）日本の代表的な昔話、日本の気候 ２）照葉樹林文化（１） ３）照葉樹林文化（２）日本各地の食文化 ４）河童（１） ５）河童（２）、浦島太郎（１） ６）浦島太郎（２） ７）天人女房（１） ８）天人女房（２） ９）日本の年中行事（１）、暦 １０）客人の訪問、大歳の客 １１）酒呑童子 １２）日本の年中行事（２） １３）大木、森と生活文化 １４）伝説や古典文学から災害について考える １５）照葉樹林文化について再考する
授業外における学習（準備学習の内容）	テーマごとに簡単な予習をすること。数回の小レポートの作成。
授業方法	講義形式。受講者による簡単な報告を求めることがある。
評価基準と評価方法	平常点４０―６０％（小レポートなどを含む）、期末のレポート６０－４０％。提出の義務づけられていないレポートを提出した場合には、平常点の割合を大きくすることがある。 ＊注記：この科目には、義務化されていないレポートの提出があります。これは講義期間中に提出するものです。出しておいた場合は、期末レポートの評価方法が違ってきます。
教科書	
参考書	参考文献は、テーマごとに講義の中で知らせる。基本的文献としては、日本伝説大系、柳田國男全集、折口信夫全集がある。また、野本寛一の著書はいずれも重要である。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IIA／文芸特殊講義E／（キリスト教美術A）						
担当教員	横川　典古						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	キリスト教美術を読み解く
授業の概要	東方キリスト教美術史 「はじめに言葉ありき」とは、ヨハネによる福音書の冒頭をかざる有名な文章ですが、ことば（ロゴス）を重要視するキリスト教は、同時にイメージ言語とも言うべき図像も重要視して、発展させました。 草創期のキリスト教教会においては、画像表現を偶像崇拝につながるものとして禁止していたユダヤ教の影響が強かったため、美術表現を危険視していました。しかしローマ帝国の権力と結びつき、ヨーロッパ世界におけるキリスト教信仰の普及と共に視覚芸術を壮大に創造し、西洋美術の根幹を形成してきました。 前期は、古代オリエント美術から古代ギリシャ・ローマ美術をへて、東方キリスト教美術であるビザンティン美術をとりあげます。
到達目標	この講義では、東方キリスト教世界のキリスト教美術を理解し鑑賞する為に、キリスト教図像学を理解することを目標に置きますが、そのために先行する古代オリエント美術、さらに古代ギリシャ・ローマ美術を美術史的に学びます。
授業計画	1.　西洋美術史と図像解釈学 2.　古代エジプト美術 3.　古代メソポタミア美術 4.　地中海文明とエーゲ海美術 5.　古代ギリシャ美術 6.　古代ローマ美術 7.　初期キリスト教美術 8.　コンスタンティヌス大帝と古代末期の美術 9.　キリスト教建築の形成 10.　テオドシウス朝の美術 11.　ビザンティン帝国と東方キリスト教美術 12.　ユスティニアヌス朝の美術 13.　モザイク装飾とイコン 14.　聖像論争とイコノクラスム 15.　末期ビザンティン美術
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で扱った作例を、画集やインターネットによる画像などを通じて確認し、作品を鑑賞するようにしてください。さらに、関連のある美術展が開催される時には授業中に案内しますので、積極的に足を運び本物に多く触れるよう心がけてください。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	平常点５０％、期末テストまたは期末レポート５０％
教科書	
参考書	H.W.ジャンソン著/木村重信・辻成史訳『美術の歴史』創元社

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IIB／文芸特殊講義F／（キリスト教と美術B）						
担当教員	横川　典古						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	キリスト教美術を読み解く
授業の概要	西方キリスト教美術史 「はじめに言葉ありき」とは、ヨハネによる福音書の冒頭をかざる有名な文章ですが、ことば（ロゴス）を重要視するキリスト教は、同時にイメージ言語ともいうべき図像表現も重要視して、発展させました。 草創期のキリスト教教会においては、画像表現を偶像崇拝につながるものとして禁止していたユダヤ教の影響が強かったため、美術表現を危険視していました。しかしローマ帝国の権力と結びつき、ヨーロッパ世界におけるキリスト教信仰の普及と共に視覚芸術を壮大に発展させ、西洋美術の根幹を形成してきました。 この講義では、こうしたキリスト教美術を理解し鑑賞する為に、キリスト教図像学を中心にした西洋美術史を概観していきます。 西ローマ帝国の崩壊後、西ヨーロッパはしばらく暗黒時代に入りますが、中世キリスト教社会の中で形成されていく西方キリスト教美術をとりあげ、さらに発展をとげるルネサンス美術、バロック美術までを概観します。
到達目標	この講義では、西方キリスト教世界のキリスト教美術を理解し鑑賞する為に、キリスト教図像学を中心にした西洋美術史を学びます。さらに前期に学んだ東方キリスト教美術と比較しながら、キリスト教美術の特色と歴史的役割について考察するのがねらいです。
授業計画	16.　ローマ帝国の崩壊と西ヨーロッパの誕生 17.　ケルト・ゲルマンの美術 18.　カロリング朝の美術とキリスト教図像学 19.　オットー朝の美術とキリスト教修道主義 20.　ロマネスク美術と聖地巡礼 21.　ゴシックの大聖堂と光の美学 22.　都市の発展とゴシック美術 23.　国際ゴシック様式と写本挿絵芸術 24.　プロト・ルネサンス 25.　初期イタリアルネサンスの美術 26.　ローマ教皇庁と盛期ルネサンス 27.　北方ルネサンス 28.　宗教改革とマニエリスムの美術 29.　南欧バロック美術と対抗宗教改革 30.　北方バロック美術とプロテスタンティズム
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で扱った作例を、画集やインターネットによる画像などを通じて確認し、作品を鑑賞するようにしてください。さらに、関連のある美術展が開催される時には授業中に案内しますので、積極的に足を運び本物に多く触れるよう心がけてください。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	平常点50%、期末テストまたは期末レポート50%
教科書	
参考書	H.W.ジャンソン著/木村重信・辻成史訳『美術の歴史』創元社

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IIIA／（日本ジャーナリズム史）						
担当教員	木村　勲						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	言論の歴史
授業の概要	明治初期の自由民権運動期。成立した新聞は言論を通して果敢な権力批判を行った。ジャーナリズムの原点としての活動を改めて確認する。
到達目標	批判・検証としてのジャーナリズムがかつてこの国にあったという認識。
授業計画	①　かわら版から政論へ ②　幕末の遣欧使節 ③　「ペンは剣より強し」の衝撃 ④　初の新聞、浜田彦蔵の「海外新聞」 ⑤　絵入り大衆新聞（大阪） ⑥　英人ブラック「日新真事誌」のスクープ ⑦　反乱から言論へ ⑧　自由党の「自由新聞」 ⑨　立憲改新党の「東京横浜毎日新聞」 ⑩　都市民権派の「嚶鳴雑誌」 ⑪　開拓使官有物払い下げ事件 ⑫　明治１４年の政変と新聞 ⑬　同（同後） ⑭　「白虹事件」 ⑮　大正デモクラシーへ
授業外における学習（準備学習の内容）	日々の新聞を読む。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	期末レポート６０％、受講意欲・問題意識４０％
教科書	稲田雅洋『自由民権運動の系譜――近代日本の言論の力』吉川弘文館・歴史文化ライブラリー（１７００円＋税）　ＩＳＢＮ９７８－４－６４２－０５６８１－６
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IIIB／（メディア社会の諸問題）						
担当教員	木村　勲						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	報道が生む被害
授業の概要	大事件のときマスコミは加害者追及だけでなく、被害者やその遺族・関係者も取り囲みマイクやカメラをつきつける。興味本位の噂話のショー化もある。そんななかで被害を犯人視して報道してしまうという理不尽な事態さえ起こっている。そこからプライバシー保護の名のもと、報道規制という法的対応を安易に肯定する論調を生む。言論の自由な民主主義社会を確立するために、どうしていったらいいのか、個別事例を通して検証する。
到達目標	メディアへの冷静な見方
授業計画	（シリア日本人ジャーナリスト殺害事件等が生じたため一部以下のように変えます） 1フリーランスと記者クラブ記者の比較①どこで取材 2同②映像・文章はどう現実化するか 3同③米ビデオ「戦場のジャーナリズム」 4東電ＯＬ事件①大手メディア 5同②フリーランス 6同③被告15年の人権 7”科学”捜査が生んだ冤罪・菅谷さん 8松本サリン事件①カルト集団 9同②犯人報道の始まり 9　取材源の秘匿①「奈良放火少年事件」 10　同②「ウォーターゲート事件」 12　文芸に見るメディア・ショー・司馬作品 13　政治に見るショー①大阪 14　同②米映画「スミス都へ行く」に見る原型 15　私たちは何を知り、知り得るのか
授業外における学習（準備学習の内容）	報道内容の社・局ごとの違いを自覚的に
授業方法	講義。プリントを配布。
評価基準と評価方法	期末レポート６０％、受講意欲・問題意識（小課題を含む）４０％。
教科書	
参考書	梓澤和幸『報道被害』　岩波新書 木村勲『「坂の上の雲」の幻影――”天才”秋山は存在しなかった』論創社

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IVA／文芸特殊講義A／（まんが文化論A）						
担当教員	村上　知彦						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	まんが文化論-出版・メディア産業としてのまんが
授業の概要	子どもから若者、成人まで幅広い読者を魅了し、現代を代表する大衆文化のひとつに成長したまんがは、いまや、世界に発信される日本文化として、あるいは世界をリードする「コンテンツ産業」として注目を集めるものとなっている。 前期の授業ではまんがを「出版・メディア産業」としての側面から、その歴史的なりたちやメディアとしての特性、読者層の変化やまんが表現の発展などを概説し、現代の文化現象や社会の変化とのかかわり、海外での受容なども紹介し、戦後、独自の発展をとげた日本まんがの、出版文化とメディア産業のなかで果たした意味と役割を考察する。
到達目標	日本のまんが文化が、どのようなメディア産業の発展とメディア文化の広がりのなかで現在に至ったか、そのなりたちを理解する。日本のまんがが、さまざまな文化に影響を与える理由を知り、メディア文化としてのまんがのもつ力を、産業社会の多様な局面で使いこなすための基礎知識を得る。
授業計画	（１）イントロダクション （２）まんが産業の基本構造 （３）まんがが産業になるまで （４）二つのまんが市場 （５）テレビが大きくしたまんが市場 （６）まんが生産者としてのまんが家 （７）まんが産業の30年（1）70年代 （８）まんが産業の30年（2）80年代 （９）まんが産業の30年（3）90年代 （10）少年誌と青年誌の競合 （11）新しいまんがはどこから来るか？ （12）雑誌の時代は終わるのか？ （13）高齢化社会のまんが世代 （14）デジタル化はまんがを救うか？ （15）まとめ （変更予定）
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前回授業で理解できなかった点の質問を準備するなど、授業の流れを確認して授業に臨む。 授業後学習：配布資料はもういちど精読し、授業の要点をまとめておく。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	期末レポート（60%）、提出物および平常点等(40%)
教科書	適宜プリントを配布します。
参考書	「マンガ産業論」中野晴行、筑摩書房　ISBN 4-480-87346-5 「マンガ進化論」中野晴行、ブルース・インターアクションズ　ISBN 978-4-86020-348-1 その他、授業中に紹介します。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IVB／文芸特殊講義B／（まんが文化論B）						
担当教員	村上　知彦						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	まんが文化論-まんが雑誌の現在
授業の概要	子どもから若者、成人まで幅広い読者を魅了し、現代を代表する大衆文化のひとつに成長したまんがは、いまや、世界に発信される日本文化として、あるいは世界をリードする「コンテンツ産業」として注目を集めるものとなっている。 後期の授業では「まんが雑誌」をとりあげ、その歴史的なりたちやメディアとしての特性、読者層の変化やまんが表現の発展などを概説し、現代の出版不況のなかでまんが雑誌が、出版文化とメディア産業のなかにいかなる位置を占め、どのような誌面を作り、どこへ向かおうとしているのか、その現在と未来を考察する。
到達目標	店頭にあふれる多様なまんが雑誌が、どのように作られ、読まれているか。そのメディアとしてのなりたちと、まんが文化・出版文化の中での役割や意義を理解する。
授業計画	（１）イントロダクション/メディアとしてのまんが雑誌 （２）まんが雑誌の現在 （３）まんが雑誌を読み解く/少年誌（1）ジャンプの現在 （４）まんが雑誌を読み解く/少年誌（2）ジャンプの歴史 （５）まんが雑誌を読み解く/少年誌（3）マガジン・サンデーの現在 （６）まんが雑誌を読み解く/少年誌（4）マガジン・サンデーの歴史 （７）まんが雑誌を読み解く/少女誌（1）花とゆめ/少女誌の発行形態 （８）まんが雑誌を読み解く/少女誌（2）少女誌の読者層 （９）まんが雑誌を読み解く/少女誌（3）ララ/少女月刊誌の場合 （10）まんが雑誌を読み解く/少女誌（4）花とゆめ・ララの現在 （11）まんが雑誌を読み解く/女性誌　歴史と現在/あるフリー編集者の場合 （12）まんが雑誌を読み解く/青年誌（1）歴史と現在/モーニングの場合 （13）まんが雑誌を読み解く/青年誌（2）月刊青年誌と新ジャンル （14）世界のまんが雑誌 （15）まとめ/まんが雑誌の未来
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前回授業で理解できなかった点の質問を準備するなど、授業の流れを確認して授業に臨む。 授業後学習：配布資料はもういちど精読し、授業の要点をまとめておく。紹介したまんが雑誌を実際に店頭で手に取ってみるなど、授業内容の実践的理解を心がける。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	期末レポート（60%）、提出物および平常点等(40%)
教科書	適宜プリントを配布します。
参考書	「サンデーとマガジン　創刊と死闘の15年」大野茂、光文社新書　ISBN978-4-334-03503-7 「わたしの少女まんが史　別マから花ゆめ、LaLaへ」小長井信昌、西田書店　ISBN 978-4888665445 その他、授業中に紹介します。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いI／文学との触れ合いI／（詩と小説）						
担当教員	青木　和						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	4.0

授業のテーマ	文芸作品の創作
授業の概要	作品を実際に制作することにより、創作文芸における表現力とは何かを学習します。授業では、与えられた課題について各自が作成した作品を鑑賞します。
到達目標	文芸作品を創作する上での心構えと基本的な技術を身につけます。
授業計画	前期　第1回　創作する目的について考える 第2回　原稿用紙の使い方 第3回　作品鑑賞（１）目に見えるものを書く：近くにあるもの 第4回　作品鑑賞（２）目に見えるものを書く：風景 第5回　作品鑑賞（３）目に見えるものを書く：現象 第6回　作品鑑賞（４）目に見えるものを書く：動くもの 第7回　何を書くかということ 第8回　作品鑑賞（５）感情を書く：喜 第9回　作品鑑賞（６）感情を書く：怒 第10回　作品鑑賞（７）感情を書く：哀 第11回　タイトルと導入 第12回　作品鑑賞（８）感情を書く：楽 第13回　作品鑑賞（９）感覚を書く：正方向の感覚 第14回　作品鑑賞（１０）感覚を書く：負方向の感覚 第15回　まとめと質疑応答 後期　第1回　導入と質疑応答 第2回　構成と起承転結 第3回　作品鑑賞（１）目に見えないものを書く 第4回　作品鑑賞（２）目に見えないものを書く 第5回　描写のテクニック 第6回　作品鑑賞（３）目に見えないものを書く 第7回　作品鑑賞（４）目に見えないものを書く 第8回　推敲の必要性 第9回　作品鑑賞（５）状況から描写する：時間 第10回　作品鑑賞（６）状況から描写する：場所 第11回　作品鑑賞（７）状況から描写する：心 第12回　作品鑑賞（８）状況から描写する：その他 第13回　作品鑑賞（９）　自由課題 第14回　作品鑑賞（１０）　自由課題 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	課題に沿った作品を制作し、指示された期限内に提出して下さい
授業方法	講義および受講生作品の鑑賞
評価基準と評価方法	平常点50%　課題点50%
教科書	プリント配布

参考書	なし

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いII／文学との触れ合いIII／（朗読・演劇）						
担当教員	岩崎　正裕						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	4.0

授業のテーマ	文芸作品の音読研究
授業の概要	前期：戯曲という文芸作品を声に出して読みます。戯曲の中心は対話であり、その行間には様々な解釈が成り立ちます。現代・近代・古典の戯曲の中から抜粋し、登場人物の感情や行動を分析し、実際の劇表現を体験します。 後期：日本の現代戯曲をテキストに、リーディングを行います。リーディングとは複数の相手とコミュニケーションを取りながら台詞を声に出して表現する行為です。何度も反復練習しながら作品をどのように立体化するかを模索します。
到達目標	前期：台詞の分析、音読を通して現代における対話の可能性を探ります。それは自分自身のコミュニケーションを見直す機会ともなり、他者との意思疎通の向上にも役立ちます。 後期：台詞を中心とする文学が戯曲です。作品が具体化するにつれて立体的な空間が現れます。相手との呼吸や距離を意識することによって、普段のコミュニケーションを見つめ直す機会となります。
授業計画	前期 １、Wシェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む 物語と構造を中心に ２、Wシェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む 恋愛と登場人物について ３、Wシェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む 現代における翻案の可能性 ４、Wシェイクスピア「ロミオとジュリエット」 音読と実践 ５、Aチェーホフ「かもめ」を読む 物語と構造を中心に ６、Aチェーホフ「かもめ」を読む 人物の関係性と恋愛模様 ７、Aチェーホフ「かもめ」を読む 台詞の解釈と謎解き ８、Aチェーホフ「かもめ」を読む 音読と実践 ９、地域言語による戯曲の可能性Ⅰ 関西弁の台詞を読む 10、地域言語による戯曲の可能性Ⅱ 関西弁と標準語の差異 11、現代詩を群読するⅠ 12、現代詩を群読するⅡ 13、日本の戯曲 日本の現代演劇史の中から 14、日本の戯曲 現代演劇の領域と実践 15、前期のまとめと発展 後期 １、リーディング候補作の提案 ２、リーディング候補作の選定 ３、登場人物の関係性と背景(実践) ４、立って読む、座って読む（立ち座りの実践） ５、行動を起こす(音読と行為) ６、相手との距離(近づく離れる) ７、空間と身体(有効なポジションとは) ８、感情の解放と抑制(生きた役を作る) ９、場面を創造する(作品の可視化) 10、戯曲に頼らず演技する(台詞に戻るための即興練習) 11、言葉と向き合う(即興から戯曲へ。新たなる発見) 12、関係の構築Ⅰ(呼吸と距離の点検) 13、関係の構築Ⅱ(呼吸と距離の点検、その発展) 14、リーディング発表(２班体制で発表。) 15、後期のまとめ(発表の合評会)
授業外における学習（準備学習の内容）	前期：特に「ロミオとジュリエット」・「かもめ」については一読しておいてください。その他のテキストについては随時配布します。 後期：台詞を暗誦することが目的ではありませんが日々の間隙に、作品をよく読むことが大切です。
授業方法	前期：講義と実技 後期：実技実践を中心とします。
評価基準と評価方法	平常点70%　欠席の場合は減点　参加意欲30%

教科書	新訳　ロミオとジュリエット　シェイクスピア 河合祥一郎訳 角川文庫 ISBN978-4-04-210615-9 かもめ・ワーニャ伯父さん　チェーホフ 神西清訳 新潮文庫 ISBN978-4-10-206502-0
参考書	なし

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いVI／音楽との触れ合いII／（鍵盤楽器）						
担当教員	上野　静江						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	4.0

授業のテーマ	鍵盤楽器の演奏体験を通して音楽と触れ合う
授業の概要	学生時代によい音楽と触れ合い、そのすばらしさを知る経験は、みなさんのこれからの人生をさらに豊かなものにしてくれるに違いありません。この授業では、ただ音楽を鑑賞し知識を得るだけにとどまらず、学内にある鍵盤楽器の初歩的な演奏体験を通して、さらに深く音楽と関わっていくことを目指します。前期は主にチェンバロとアンサンブルを、後期は主にパイプオルガンを取り上げ、鍵盤楽器のしくみや歴史、代表的な楽曲などを学習しつつ、楽譜に書かれた音符を、鍵盤を通して実際に生きた音「音楽」にしていく課程を辿ることで広がる世界を知りましょう。
到達目標	鍵盤楽器を通して代表的な名曲を知り、さらにはその曲を育んだ作曲家、国や時代、それらを取り巻く文化環境を理解します。学期末には学生主体による発表会を予定しています。
授業計画	前期 第１回　キャンパス内の鍵盤楽器見学 ＊初回授業では、キャンパス内にあるパイプオルガン・ポジティフオルガン・グロッケン・チェンバロ・ピアノ等の鍵盤楽器を見学しながら（予定）、同じ鍵盤楽器でも様々な仕組みや音色があることを体験する。 第２回　チェンバロについての基礎知識 ＊松蔭所蔵のイタリアンチェンバロを見学しながら、そのしくみや歴史を詳しく知る。バロック期の代表的なチェンバロのための作品を鑑賞する。 第３回　チェンバロを弾くための基本（１） 第４回　チェンバロを弾くための基本（２） ＊チェンバロの「鍵盤操作で弦をツメではじく」、という独特の機構を理解し、実際に楽器に触れてみながら音を作っていく。 第５回　「チェンバロができるまで」ＤＶＤ鑑賞 ＊日本のチェンバロビルダーが製作したＤＶＤを鑑賞しながら、チェンバロの製造工程を知り、国による様式や音色の特徴を知る。 第６回　バロックの小曲を弾いてみよう（１） 第７回　バロックの小曲を弾いてみよう（２） 第８回　バロックの小曲を弾いてみよう（３） ＊バロック時代の簡単な小品の中から、各自が自分に合った曲を選び、実際にチェンバロを用いて演奏しながら詳細を学ぶ。 第９回　アンサンブルをしてみよう（１） 第１０回　アンサンブルをしてみよう（２） 第１１回　アンサンブルをしてみよう（３） ＊チェンバロでできるごく簡単な通奏低音に挑戦し、クラス内で実際にアンサンブルを組み、合奏を体験する。 第１２回　発表会の準備（１） 第１３回　発表会の準備（２） 第１４回　発表会の準備（３） ＊各人の進度に合わせて、個別に課題（楽曲）を決め、その曲に取り組む。また各自が選んだ楽曲に関して、その作曲者や成立の背景、また作曲家をはぐくんだ国や時代、文化環境等、調べられる限り調べ、クラスで発表する。 第１５回　前期クラス内発表会 ＊各自が前期中に取り組んだ曲の中で、チェンバロのソロ曲を１曲と、アンサンブル曲１曲を選び、演奏する。 人前で演奏することを経験し、また人の演奏を聴くことで、客観的に聴く耳、演奏を批評することを学ぶ。 後期 第１回　パイプオルガンについて基礎知識 ＊松蔭のオルガンについて、代表的なオルガン曲のデモンストレーションを聴きながら、いろいろな音色を体験する。 また実際にオルガン内部を見学し、パイプオルガンの基本的な構造や仕組み、またいろいろなパイプの種類の詳細を知る。（予定） 第２回　パイプオルガンを弾くための基本（１） 第３回　パイプオルガンを弾くための基本（２）

授業計画	第４回　パイプオルガンを弾くための基本（３） 第５回　パイプオルガンを弾くための基本（４） ＊パイプオルガンの「鍵盤操作でパイプに風を送る」という独特の機構を理解し、 実際に楽器に触れてみながら音を作っていく。 第６回　「パイプオルガン誕生」ＤＶＤ鑑賞 第７回　いろいろな曲を弾いてみよう（１） 第８回　いろいろな曲を弾いてみよう（２） 第９回　いろいろな曲を弾いてみよう（３） 第１０回　いろいろな曲を弾いてみよう（４） ＊よく知られた作品の中から、各人の進度に合わせて個別に課題（楽曲）を決め、 実際にパイプオルガンを用いて演奏しながら詳細を学ぶ。 第１１回　発表会の準備（１） 第１２回　発表会の準備（２） 第１３回　発表会の準備（３） 第１４回　発表会の準備（４） ＊各自が後期中に取り組んだ曲の中で１曲を選び、人前で演奏できるよう準備する。 またただ弾くだけではなく、その楽曲に関しての情報を可能な限り集め、クラスで紹介する。 発表した内容を簡潔にまとめ、発表会の折にはプログラムノートとする。 第１５回　クラス内発表会と講評
授業外における学習（準備学習の内容）	学外で鍵盤楽器を練習できることが望ましい。
授業方法	講義・実習・発表
評価基準と評価方法	平常点（60%）、レポート（10%）および発表（30%）を総合的に評価。
教科書	プリントを配布。楽曲に関しては随時授業中に紹介していく。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いIA						
担当教員	青木　和						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	文芸作品の創作
授業の概要	作品を実際に制作することにより、創作文芸における表現力とは何かを学習します。授業では、与えられた課題について各自が作成した作品を鑑賞します。
到達目標	文芸作品を創作する上での心構えと基本的な技術を身につけます。
授業計画	第1回　創作する目的について考える 第2回　原稿用紙の使い方 第3回　作品鑑賞（１）目に見えるものを書く：近くにあるもの 第4回　作品鑑賞（２）目に見えるものを書く：風景 第5回　作品鑑賞（３）目に見えるものを書く：現象 第6回　作品鑑賞（４）目に見えるものを書く：動くもの 第7回　何を書くかということ 第8回　作品鑑賞（５）感情を書く：喜 第9回　作品鑑賞（６）感情を書く：怒 第10回　作品鑑賞（７）感情を書く：哀 第11回　タイトルと導入 第12回　作品鑑賞（８）感情を書く：楽 第13回　作品鑑賞（９）感覚を書く：正方向の感覚 第14回　作品鑑賞（１０）感覚を書く：負方向の感覚 第15回　まとめと質疑応答
授業外における学習（準備学習の内容）	課題に沿った作品を制作し、指示された期限内に提出して下さい
授業方法	講義および受講生作品の鑑賞
評価基準と評価方法	平常点50%　課題点50%
教科書	プリント配布
参考書	なし

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いIB						
担当教員	青木　和						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	文芸作品の創作
授業の概要	作品を実際に制作することにより、創作文芸における表現力とは何かを学習します。授業では、与えられた課題について各自が作成した作品を鑑賞します。
到達目標	文芸作品を創作する上での心構えと基本的な技術を身につけます。
授業計画	第1回　導入と質疑応答 第2回　構成と起承転結 第3回　作品鑑賞（１）目に見えないものを書く 第4回　作品鑑賞（２）目に見えないものを書く 第5回　描写のテクニック 第6回　作品鑑賞（３）目に見えないものを書く 第7回　作品鑑賞（４）目に見えないものを書く 第8回　推敲の必要性 第9回　作品鑑賞（５）状況から描写する：時間 第10回　作品鑑賞（６）状況から描写する：場所 第11回　作品鑑賞（７）状況から描写する：心 第12回　作品鑑賞（８）状況から描写する：その他 第13回　作品鑑賞（９）　自由課題 第14回　作品鑑賞（１０）　自由課題 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	課題に沿った作品を制作し、指示された期限内に提出して下さい
授業方法	講義および受講生作品の鑑賞
評価基準と評価方法	平常点50%　課題点50%
教科書	プリント配布
参考書	なし

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いIIA						
担当教員	岩崎　正裕						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	文芸作品の音読研究
授業の概要	戯曲という文芸作品を声に出して読みます。戯曲の中心は対話であり、その行間には様々な解釈が成り立ちます。現代・近代・古典の戯曲の中から抜粋し、登場人物の感情や行動を分析し、実際の劇表現を体験します。
到達目標	台詞の分析、音読を通して現代における対話の可能性を探ります。それは自分自身のコミュニケーションを見直す機会ともなり、他者との意思疎通の向上にも役立ちます。
授業計画	１、Wシェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む 物語と構造を中心に ２、Wシェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む 恋愛と登場人物について ３、Wシェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む 現代における翻案の可能性 ４、Wシェイクスピア「ロミオとジュリエット」 音読と実践 ５、Aチェーホフ「かもめ」を読む 物語と構造を中心に ６、Aチェーホフ「かもめ」を読む 人物の関係性と恋愛模様 ７、Aチェーホフ「かもめ」を読む 台詞の解釈と謎解き ８、Aチェーホフ「かもめ」を読む 音読と実践 ９、地域言語による戯曲の可能性Ⅰ 関西弁の台詞を読む 10、地域言語による戯曲の可能性Ⅱ 関西弁と標準語の差異 11、現代詩を群読するⅠ 12、現代詩を群読するⅡ 13、日本の戯曲 日本の現代演劇史の中から 14、日本の戯曲 現代演劇の領域と実践 15、前期のまとめと発展
授業外における学習（準備学習の内容）	特に「ロミオとジュリエット」・「かもめ」については一読しておいてください。その他のテキストについては随時配布します。
授業方法	講義と実技
評価基準と評価方法	平常点70%　欠席の場合は減点　参加意欲30%
教科書	新訳　ロミオとジュリエット　シェイクスピア 河合祥一郎訳 角川文庫 ISBN978-4-04-210615-9 かもめ・ワーニャ伯父さん　チェーホフ 神西清訳 新潮文庫 ISBN978-4-10-206502-0
参考書	なし

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いIIB						
担当教員	岩崎　正裕						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	文芸作品の音読研究
授業の概要	日本の現代戯曲をテキストに、リーディングを行います。リーディングとは複数の相手とコミュニケーションを取りながら台詞を声に出して表現する行為です。何度も反復練習しながら作品をどのように立体化するかを模索します。
到達目標	台詞を中心とする文学が戯曲です。作品が具体化するにつれて立体的な空間が現れます。相手との呼吸や距離を意識することによって、普段のコミュニケーションを見つめ直す機会となります。
授業計画	１、リーディング候補作の提案 ２、リーディング候補作の選定 ３、登場人物の関係性と背景(実践) ４、立って読む、座って読む（立ち座りの実践） ５、行動を起こす(音読と行為) ６、相手との距離(近づく離れる) ７、空間と身体(有効なポジションとは) ８、感情の解放と抑制(生きた役を作る) ９、場面を創造する(作品の可視化) 10、戯曲に頼らず演技する(台詞に戻るための即興練習) 11、言葉と向き合う(即興から戯曲へ。新たなる発見) 12、関係の構築Ⅰ(呼吸と距離の点検) 13、関係の構築Ⅱ(呼吸と距離の点検、その発展) 14、リーディング発表(２班体制で発表。) 15、後期のまとめ(発表の合評会)
授業外における学習（準備学習の内容）	台詞を暗誦することが目的ではありませんが日々の間隙に、作品をよく読むことが大切です。
授業方法	実技実践を中心とします。
評価基準と評価方法	平常点70%　欠席の場合は減点 参加意欲30%
教科書	必要に応じて配布します。
参考書	なし

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いIIIA						
担当教員	松尾　郁子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	自然と響き合う、色を響かせ合う
授業の概要	季節の草花の色をつくることや基本的な色彩構成・構図を学び制作、実践していく。
到達目標	日常生活の中にあふれる様々な美しい色をより鋭敏に感じ、色を響かせ合い、自身の色をつくる。
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：季節の草花の色をつくる 第3回：季節の草花の色をつくる 第4回：季節の草花の色をつくる 第5回：ＡＲＺＡＫ　ＲＨＡＰＳＯＤＹ・フレンチコミック 第6回：色彩キューブ 第7回：色彩キューブ 第8回：色彩キューブ 第9回：色彩キューブ 第10回：切り絵・はさみによる植物デッサン 第11回：切り絵・はさみによる植物デッサン 第12回：切り絵・はさみによる植物デッサン 第13回：構図について 第14回：コラージュ 第15回：コラージュ・合評
授業外における学習（準備学習の内容）	基本的に無し
授業方法	講義・実技
評価基準と評価方法	出席重視。提出物・レポート等から総合的に評価する。
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いIIIB						
担当教員	徳永　隆之						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	美術としての写真
授業の概要	写真を使った作品制作に取り組み、制作者の視点から美術作品を考察することに重点を置きます。授業ではピンホールカメラを製作した後に撮影をおこない、写真の原理を理解します。その後、デジタルカメラを使用して撮影技術を学びます。また、普段触る機会が少ない大型カメラでの撮影も体験し、写真の原理に対する理解を深めます。実習と平行して、写真作家の作品集鑑賞をおこない、作品に込められたメッセージを読み取る練習をします。
到達目標	制作する体験を通して、美術作品をより深く理解できるようになって欲しいと考えています。
授業計画	第 1回　授業ガイダンス 第 2回　作品集鑑賞 第 3回　ピンホールカメラ製作 第 4回　撮影実習①　（ピンホールカメラ使用） 第 5回　撮影の基礎知識について 第 6回　撮影実習②　人物撮影 第 7回　撮影実習③　複写 第 8回　blogの作成及び画像調整ソフトの使用説明 第 9回　大型カメラ及びデジタル一眼レフカメラの使用説明 第10回　撮影実習④　（大型カメラ使用） 第11回　撮影実習⑤　（大型カメラ使用） 第12回　撮影実習⑥　（大型カメラ使用） 第13回　撮影実習⑦　（デジタル一眼レフ使用） 第14回　撮影実習⑧　静物撮影 第15回　画像編集・作品提出
授業外における学習（準備学習の内容）	授業外で各自被写体を探し撮影します。また、写真提出はblogでおこないます。
授業方法	実習及び演習
評価基準と評価方法	「課題 40%、平常点 60%」欠席した場合は大幅に減点しますので注意してください。
教科書	必要な際にプリントを配布します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いIVA						
担当教員	上野　静江						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	鍵盤楽器の演奏体験を通して音楽と触れ合う
授業の概要	学生時代によい音楽と触れ合い、そのすばらしさを知る経験は、みなさんのこれからの人生をさらに豊かなものにしてくれるに違いありません。この授業では、ただ音楽を鑑賞し知識を得るだけにとどまらず、学内にある鍵盤楽器の初歩的な演奏体験を通して、さらに深く音楽と関わっていくことを目指します。前期は主にチェンバロとアンサンブルを、後期は主にパイプオルガンを取り上げ、鍵盤楽器のしくみや歴史、代表的な楽曲などを学習しつつ、楽譜に書かれた音符を、鍵盤を通して実際に生きた音「音楽」にしていく課程を辿ることで広がる世界を知りましょう。
到達目標	鍵盤楽器を通して代表的な名曲を知り、さらにはその曲を育んだ作曲家、国や時代、それらを取り巻く文化環境を理解します。学期末には学生主体による発表会を予定しています。
授業計画	前期 第１回　キャンパス内の鍵盤楽器見学 ＊初回授業では、キャンパス内にあるパイプオルガン・ポジティフオルガン・グロッケン・チェンバロ・ピアノ等の鍵盤楽器を見学しながら（予定）、同じ鍵盤楽器でも様々な仕組みや音色があることを体験する。 第２回　チェンバロについての基礎知識 ＊松蔭所蔵のイタリアンチェンバロを見学しながら、そのしくみや歴史を詳しく知る。バロック期の代表的なチェンバロのための作品を鑑賞する。 第３回　チェンバロを弾くための基本（１） 第４回　チェンバロを弾くための基本（２） ＊チェンバロの「鍵盤操作で弦をツメではじく」、という独特の機構を理解し、実際に楽器に触れてみながら音を作っていく。 第５回　「チェンバロができるまで」ＤＶＤ鑑賞 ＊日本のチェンバロビルダーが製作したＤＶＤを鑑賞しながら、チェンバロの製造工程を知り、国による様式や音色の特徴を知る。 第６回　バロックの小曲を弾いてみよう（１） 第７回　バロックの小曲を弾いてみよう（２） 第８回　バロックの小曲を弾いてみよう（３） ＊バロック時代の簡単な小品の中から、各自が自分に合った曲を選び、実際にチェンバロを用いて演奏しながら詳細を学ぶ。 第９回　アンサンブルをしてみよう（１） 第１０回　アンサンブルをしてみよう（２） 第１１回　アンサンブルをしてみよう（３） ＊チェンバロでできるごく簡単な通奏低音に挑戦し、クラス内で実際にアンサンブルを組み、合奏を体験する。 第１２回　発表会の準備（１） 第１３回　発表会の準備（２） 第１４回　発表会の準備（３） ＊各人の進度に合わせて、個別に課題（楽曲）を決め、その曲に取り組む。また各自が選んだ楽曲に関して、その作曲者や成立の背景、また作曲家をはぐくんだ国や時代、文化環境等、調べられる限り調べ、クラスで発表する。 第１５回　前期クラス内発表会 ＊各自が前期中に取り組んだ曲の中で、チェンバロのソロ曲を１曲と、アンサンブル曲１曲を選び、演奏する。 人前で演奏することを経験し、また人の演奏を聴くことで、客観的に聴く耳、演奏を批評することを学ぶ。
授業外における学習（準備学習の内容）	学外で鍵盤楽器を練習できることが望ましい。
授業方法	講義・実習・発表

評価基準と評価方法	平常点（60%）、レポート（10%）および発表（30%）を総合的に評価。
教科書	プリントを配布。楽曲に関しては随時授業中に紹介していく。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いIVB						
担当教員	上野　静江						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	鍵盤楽器の演奏体験を通して音楽と触れ合う
授業の概要	学生時代によい音楽と触れ合い、そのすばらしさを知る経験は、みなさんのこれからの人生をさらに豊かなものにしてくれるに違いありません。この授業では、ただ音楽を鑑賞し知識を得るだけにとどまらず、学内にある鍵盤楽器の初歩的な演奏体験を通して、さらに深く音楽と関わっていくことを目指します。前期は主にチェンバロとアンサンブルを、後期は主にパイプオルガンを取り上げ、鍵盤楽器のしくみや歴史、代表的な楽曲などを学習しつつ、楽譜に書かれた音符を、鍵盤を通して実際に生きた音「音楽」にしていく課程を辿ることで広がる世界を知りましょう。
到達目標	鍵盤楽器を通して代表的な名曲を知り、さらにはその曲を育んだ作曲家、国や時代、それらを取り巻く文化環境を理解します。学期末には学生主体による発表会を予定しています。
授業計画	後期 第１回　パイプオルガンについて基礎知識 ＊松蔭のオルガンについて、代表的なオルガン曲のデモンストレーションを聴きながら、 いろいろな音色を体験する。 また実際にオルガン内部を見学し、パイプオルガンの基本的な構造や仕組み、 またいろいろなパイプの種類の詳細を知る。（予定） 第２回　パイプオルガンを弾くための基本（１） 第３回　パイプオルガンを弾くための基本（２） 第４回　パイプオルガンを弾くための基本（３） 第５回　パイプオルガンを弾くための基本（４） ＊パイプオルガンの「鍵盤操作でパイプに風を送る」という独特の機構を理解し、 実際に楽器に触れてみながら音を作っていく。 第６回　「パイプオルガン誕生」ＤＶＤ鑑賞 第７回　いろいろな曲を弾いてみよう（１） 第８回　いろいろな曲を弾いてみよう（２） 第９回　いろいろな曲を弾いてみよう（３） 第１０回　いろいろな曲を弾いてみよう（４） ＊よく知られた作品の中から、各人の進度に合わせて個別に課題（楽曲）を決め、 実際にパイプオルガンを用いて演奏しながら詳細を学ぶ。 第１１回　発表会の準備（１） 第１２回　発表会の準備（２） 第１３回　発表会の準備（３） 第１４回　発表会の準備（４） ＊各自が後期中に取り組んだ曲の中で１曲を選び、人前で演奏できるよう準備する。 またただ弾くだけではなく、その楽曲に関しての情報を可能な限り集め、クラスで紹介する。 発表した内容を簡潔にまとめ、発表会の折にはプログラムノートとする。 第１５回　クラス内発表会と講評
授業外における学習（準備学習の内容）	学外で鍵盤楽器を練習できることが望ましい。
授業方法	講義・実習・発表
評価基準と評価方法	平常点（60%）、レポート（10%）および発表（30%）を総合的に評価。
教科書	プリントを配布。楽曲に関しては随時授業中に紹介していく。

参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いVA						
担当教員	梅村　憲子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	歌うことの技術を高めることによって、歌曲の美しさと芸術性を知り、実践的に音楽を学ぶ 音楽と言葉(文学）との密接な関係を知り、ひいては美術も含めた芸術全般の関係性を知る
授業の概要	様々な歌曲を実際に歌っていく。 歌うことは誰でも等しく持っている声という楽器を使って、誰もが音楽芸術を自ら経験できるジャンルである。 その中でも「歌曲」は言葉と音楽との密接な関係から、文芸的見地にたって音楽を知るのにふさわしいジャンルであるといえる。 歌詞から何を感じ取り、どのように表現するのか、旋律やハーモニーの助けを得て詩がどのように肉付けされるのか十分に理解できるよう、音楽と詩の解釈の両面から楽曲を練習していく。 歌曲の表現のためには声の正しいテクニックが必要である。 的確に美しく楽曲を表現できるように、歌うことの技術の習得にも力を入れる。 正しいテクニックをもてば自分の声が美しく変化していくことに気づき、喜びを持つことができるまで学んでいきたい。 楽譜を正しく読むことが、音楽を知る重要な要素であることを自覚し、作曲家の意図が楽譜から読み取れるレベルにまで、読譜の力を高めたい。 よい音楽を聞く耳を養うために鑑賞も取り入れる。
到達目標	身体を使って、体から声を出すことの実践 歌詞の意味を表現して歌う 歌う喜びを知る
授業計画	第１回 ・バロック時代のイタリア歌曲① ・楽譜の理解を深めよう① ・発声の基礎　立ち方① 第２回 ・バロック時代のイタリア歌曲② ・イタリア語の発音について ・発声の基礎　立ち方② 第３回 ・バロック時代のイタリア歌曲③ ・歌詞の内容を表現するには ・発声の基礎　重心① 第４回 ・ロマン派のイタリア歌曲① ・伴奏パートとのアンサンブル（和声）に注目 ・発声の基礎　重心② 第５回 ・ロマン派のイタリア歌曲② ・楽譜の理解を深めよう ・発声の基礎　腹式呼吸① 第６回 ・ロマン派のイタリア歌曲③ ・イタリア語とレガート ・発声の基礎　腹式呼吸② 第７回 ・ロマン派のイタリア歌曲④ ・伴奏のピアノパートとのアンサンブルに注目 ・発声の基礎　腹式呼吸③ 第８回 ・ドイツ語の歌曲① ・楽譜の理解を深めよう ・発声の基礎　腹式呼吸② 第９回 ・ドイツ語の歌曲② ・ドイツ語の発音について ・発声の基礎　腹式呼吸③ 第１０回

授業計画	・ドイツ語の歌曲③ ・歌詞の意味を表現しよう ・発声の基礎　腹筋と背筋① 第１１回 ・ドイツ語の歌曲④ ・旋律と和声 ・発声の基礎　腹筋と背筋② 第１２回 ・日本歌曲① ・歌詞の内容を表現しよう ・発声の基礎　腹筋と背筋③ 第１３回 ・日本歌曲② ・楽譜の理解を深めよう ・発声の基礎　喉を開く① 第１４回 ・日本歌曲③ ・歌詞の朗読と旋律の一致 ・発声の基礎　喉を開く② 第１５回 ・前期の振り返り ・発声の基礎　体を楽器にする ・実技試験
授業外における学習（準備学習の内容）	外国語の歌曲の場合は、歌詞の意味、発音などの復習 与えられた楽曲を反復練習する 身体の使い方、息の流れを反芻する
授業方法	配布する楽譜を、楽譜、歌詞の説明などを交えながら、講師の指導により皆で歌えるようになるまで練習する。 ピアノパートは講師が担当。 体の使い方、呼吸法を含めた発声の技術習得も目標とする
評価基準と評価方法	授業への積極性など平常点（５０％）に加えて、学期末に実技試験（１５％×２）、レポート課題（１０％×２）を実施する 皆で楽曲を練習する実技の授業であるので、欠席はすなわち練習回数の減数となる 欠席は減点の対象となるので注意されたし
教科書	使用する楽譜をそのつど配布する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いVB						
担当教員	三川　美幸						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	音・音との触れ合いについて考察する
授業の概要	我々の日常は、様々な音や音楽に囲まれている。そのような身近な題材に焦点をあててつつ、近年注目され始めたミュージックセラピーやサウンドスケープの紹介も交えながら、様々な視点から個人における音楽との触れ合い、意味について考えを深める。 授業形式としては、講義・視聴覚教材を使用しながら講義する共に、音や音楽を聴き、そうしたことを講義の教材として、ディスカッションを行う機会を設定する。
到達目標	様々な視点から自分と音や音楽との関わりについて考えることによって、自らを取り囲む音環境および音楽の意味についての理解を深める。
授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　音の生態学 第3回　サウンドエデュケーション１ 第4回　サウンドエデュケーション２ 第5回　日本の音風景１ 第6回　日本の音風景２ 第7回　静けさを考える１ 第8回　静けさを考える２ 第9回　音と映像１ 第10回 音と映像２ 第11回 音楽とイメージ 第12回 音楽療法について１ 第13回 音楽療法について２ 第14回 音楽と私 第15回 まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	事前学習についていは、指示された範囲についての予習を行う。また、事後学習については、課題を提示によって行う。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	出席状況/学習態度(60%)、試験/提出物(40%) （授業態度等の平常点を特に重視する）
教科書	新コロナシリーズ　４４ 音の生態学－音と人間のかかわり－ 若宮真一郎著 コロナ社　ISBN339-07694-5
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いVIA						
担当教員	山本　晴世						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	広告・コピーライティングの理論と実践
授業の概要	一般的な文芸・文学と、広告における文章の制作（いわゆるコピーライティング）とは、言葉を用いる表現行為と言う部分では同じように見えますが、実際には大きな隔たりがあります。何がどのように違うのか、広告とは何か?広告のコピーとは何か?etcを実践的に学ぶことを通じて、単なる広告クリエイティブの技術だけでなく、日本語と言うソフトを使っての思考を深めるところまで共に考える講座にしたいと希望しています。
到達目標	コピーライターは、言葉で人を動かすのが仕事です。その一方、消費者である貴女は、他人の言葉で動かされたいと思いますか? マスメディアの情報を読み解くチカラは、自ら書くことで身に付けましょう。
授業計画	第１回：広告って何 第２回：広告の仕掛けとカラクリ 第３回：文芸とコピーとの違いは? 第４回：マスメディアとコピーライティング 第５回：TVコマーシャルの研究その１ 第６回：TVコマーシャルの研究その２ 第７回：クリエィティブ・ワークショップその１ 第８回：クリエィティブ・ワークショップその２ 第９回：クリエィティブ・ワークショップその３ 第１０回：マーケティングのなかでの広告の位置づけとは 第１１回：アナログ時代とデジタル時代のコピーライティング 第１２回：言論、表現の自由と広告との関係 第１３回：グローバルスタンダードと日本語による広告の関係 第１４回：マス情報の消費者としての自分自身を考える 第１５回：クリエィティブ・ワークショップまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：TV、ラジオ、新聞、雑誌etcのマスメディアを通じて日々流されている広告に注意してください。 授業後学習：私（本講義担当の山本）の授業内容に対する反論（私は、こう考える。その理由は…）を思考する習慣を身に付けてください。それこそが大学での「学び」だと思います。
授業方法	講義とワークショップ
評価基準と評価方法	ワークショップの発表内容、課題レポートを中心に評価します。
教科書	使用しません。
参考書	必要に応じて、その都度に紹介します。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いVIB						
担当教員	木村　勲						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	簡潔なエッセイを学び、書く
授業の概要	講義と書く実践。新聞の文章には「事実の報告」と事実を押さえた上での「評論」という二タイプがある。前者をレポート、後者をコラムとも称する。レポートは５Ｗ１Ｈの原則で書かれる。コラムは記者の主観的判断を辞さずに対象を切っていく。どちらも簡にしてにして要が求められる文章ジャンル。二つのタイプを実例に即しながら学ぶ。授業中にテーマを出し即書いてもらう。
到達目標	どんな文章課題を出されても恐れない自信を養う。
授業計画	①　５Ｗ１Ｈ型記事の作成（交通事故） ②　５Ｗ１Ｈ型記事の作成（火事） ③　５Ｗ１Ｈ型記事の作成（汚職） ④　５Ｗ１Ｈ型記事の作成（殺人） ⑤　コラム（世相評）の試み ⑥　コラム（世相評）の作成。 ⑦　コラム（世相評）の作成続き ⑧　コラム（世相評）の作成続き ⑨　社説の比較・検証 ⑩　社説の比較・検証続き ⑪　ドキュメントを学ぶ ⑫　ドキュメントを学ぶ続き） ⑬　ドキュメントを学ぶ（続き） ⑭　文芸評論を学ぶ ⑮　文芸評論を学ぶ続き）
授業外における学習（準備学習の内容）	日常、新聞をよく読むこと。
授業方法	テーマを出しその場で書いてもらう。並行して名文記者の名が高い朝日・疋田桂一郎氏の文章を読む（プリント当方で用意）。書くとき、プリントを読むとき、そして添削点検・相互批評するときと時間配分は各回異なる。
評価基準と評価方法	平常点。日常の課題の合計点で。
教科書	プリントを用意する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸の基礎／文芸基礎論						
担当教員	宗像　衣子						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	4.0

授業のテーマ	文芸研究の基礎
授業の概要	総合文芸学科における学びの領域と方法 文芸学の根本問題について、簡単に理論的に学び、身近な題材で楽しく実践的に吟味する。 （1）言語学と詩学（2）フォルマリズム（3）フランス・サンボリズム（4）アヴァン・ギャルド理論 （5）言語芸術論と文化記号論　などの論点をわかりやすく概説する。 文字を読むだけでなく、美術を見たり音楽を聞いたり、幅広く文芸に触れて楽しんでゆく。
到達目標	「文芸」とは何か、「文芸研究」とは何か、その対象領域と研究方法を学ぶことによって、 文芸学の歴史を辿りながら、「文芸」の意味を探求する。４年間の総合文芸学科での勉学の基礎と なるものである。
授業計画	以下、講義と演習の授業の性質上、受講生の実践状況・希望等によって修正されることがある。 １　　オリエンテーション ２　　文芸学・批評史１（作家） ３　　文芸学・批評史２（作品） ４　　文芸学・批評史３（受容者） ５　　課題実践 ６　　伝統的批評１（発生） ７　　課題実践 ８　　伝統的批評２（展開） ９　　課題実践 １０　テーマ批評 １１　課題実践 １２　新批評 １３　課題実践 １４　まとめとテスト １５　反省・展開 １６　総論 １７　社会学批評 １８　課題実践 １９　フェミニズム批評 ２０　芸術の歴史 ２１　美術の領域 ２２　課題実践１（近代） ２３　課題実践２（現代） ２４　音楽の領域 ２５　課題実践１（古典） ２６　課題実践２（現代） ２７　演劇・映画の領域 ２８　課題実践 ２９　まとめとテスト ３０　総合
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の復習 課題学習
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	平常点７０％、テスト・レポート３０％
教科書	

参考書	言語芸術作品－文芸学入門－ 著 W.カイザー 柴田斎訳(法政大学出版会)

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸の基礎A						
担当教員	宗像　衣子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	文芸研究の基礎
授業の概要	総合文芸学科における学びの領域と方法 文芸学の根本問題について、簡単に理論的に学び、身近な題材で楽しく実践的に吟味する。 （1）言語学と詩学（2）フォルマリズム（3）フランス・サンボリズム（4）アヴァン・ギャルド理論 （5）言語芸術論と文化記号論　などの論点をわかりやすく概説する。 文字を読むだけでなく、美術を見たり音楽を聞いたり、幅広く文芸に触れて楽しんでゆく。
到達目標	「文芸」とは何か、「文芸研究」とは何か、その対象領域と研究方法を学ぶことによって、 文芸学の歴史を辿りながら、「文芸」の意味を探求する。４年間の総合文芸学科での勉学の基礎と なるものである。
授業計画	以下、講義と演習の授業の性質上、受講生の実践状況・希望等によって修正されることがある。 １　　オリエンテーション ２　　文芸学・批評史１（作家） ３　　文芸学・批評史２（作品） ４　　文芸学・批評史３（受容者） ５　　課題実践 ６　　伝統的批評１（発生） ７　　課題実践 ８　　伝統的批評２（展開） ９　　課題実践 １０　テーマ批評 １１　課題実践 １２　新批評 １３　課題実践 １４　まとめとテスト １５　反省・展開
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の復習 課題学習
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	平常点７０％、テスト・レポート３０％
教科書	
参考書	言語芸術作品－文芸学入門－ 著 W.カイザー 柴田斎訳(法政大学出版会)

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸の基礎B						
担当教員	宗像　衣子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	文芸研究の基礎
授業の概要	総合文芸学科における学びの領域と方法 文芸学の根本問題について、簡単に理論的に学び、身近な題材で楽しく実践的に吟味する。 （1）言語学と詩学（2）フォルマリズム（3）フランス・サンボリズム（4）アヴァン・ギャルド理論 （5）言語芸術論と文化記号論　などの論点をわかりやすく概説する。 文字を読むだけでなく、美術を見たり音楽を聞いたり、幅広く文芸に触れて楽しんでゆく。
到達目標	「文芸」とは何か、「文芸研究」とは何か、その対象領域と研究方法を学ぶことによって、 文芸学の歴史を辿りながら、「文芸」の意味を探求する。４年間の総合文芸学科での勉学の基礎と なるものである。
授業計画	１６　総論 １７　社会学批評 １８　課題実践 １９　フェミニズム批評 ２０　芸術の歴史 ２１　美術の領域 ２２　課題実践１（近代） ２３　課題実践２（現代） ２４　音楽の領域 ２５　課題実践１（古典） ２６　課題実践２（現代） ２７　演劇・映画の領域 ２８　課題実践 ２９　まとめとテスト ３０　総合
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の復習 課題学習
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	平常点７０％、テスト・レポート３０％
教科書	
参考書	言語芸術作品－文芸学入門－ 著 W.カイザー 柴田斎訳(法政大学出版会)

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文章表現						
担当教員	木村　勲						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	4.0

授業のテーマ	文は心である
授業の概要	人に分かってもらう文章を書くのはそうやさしいことではない。実はやさしいことを むずかし気に書くのは案外やさしいのだが、やさしいことをやさしく書くのはかなりむずかしい。ま してむずかしいことをやさしく書くのは大変むずかしい。で、私はいつも悪戦苦闘してるわけだが…。 ともかく、書くこと――その前提として良い文章をたくさん読むこと、それを書き写すこと、そして また書くこと。文章道の王道です。もとより言葉（漢字を含めて）の習得にも力を入れる。
到達目標	分かる文章が書ける
授業計画	１　心構え①　辞書の説明。句読点、「」等の使い方。 ２　心構え②　毎日書く習慣へ　日記について ３　心構え③　書き写す大切さ　名文との接触について ４　心構え④　繰り返し読む大切さ ５　心構え⑤　漢字を知るｉ ６　書き写し実践①　漱石の小品ｉ ７　書く実践①「思い出」 ８　心構え⑥　見る（具体的に、多角的に）ということ ９　心構え⑦　正直に、素朴に １０　心構え⑧　漢字を知るii １１　書き写し実践②　漱石の小品ii １２　書く実践②「私の通学路」 １３　心構え⑨　読む側の視点で １４　心構え⑩　漢字を知るiii １５　小まとめ：理解の点検 １６　紋切り型表現について １７　比喩について １８　心構え⑪　漢字を知るiv １９　書き写し実践③　谷崎の小品 ２０　書く実践③（テーマ未定） ２１　土地の言葉と「標準語」 ２２　心構え⑫　漢字を知るｖ ２３　推敲ということ ２４　文章の流れ、文末処理 ２５　書き写し実践④　幸田文の小品 ２６　書く実践④（テーマ未定） ２７　心構え⑬　漢字を知るvi ２８　デジタル表現と筆記表現 ２９　渾身の力とゆとり心 ３０　まとめ「文は人そのものなり」
授業外における学習（準備学習の内容）	漱石「夢十夜」は読むこと
授業方法	教科書は必要なところをピックアップして使う。音読してもらう。名品筆写と漢字 テストを織り込む。
評価基準と評価方法	小課題・小テスト（50点）、期末レポート（50点）。出席は当然。
教科書	「文章のみがき方」　辰濃和男（岩波書店）　isbn978-4-00-431095-2

参考書	適宜指示

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文章表現						
担当教員	宗像　衣子						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	4.0

授業のテーマ	楽しく書こう
授業の概要	文章を書くとは自己表現であり、自己創造。書くことによって自分を発見し、新たな自分を 創ってゆくことについて、実践的に学ぶ。添削指導で、実力アップをはかる。 日本語の基本的知識を習得するため、漢字検定にむけて、漢字の指導も行なう。
到達目標	文章表現を実際に試み、文章表現の様々な楽しみを 味わいながら、文章表現法を身につける。
授業計画	以下、使用テキストに沿って進めるが、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。 １　　オリエンテーション ２　　資料収集調査指導・図書館案内 ３　　書くこと ４　　文例１他 ５　　文例２他 ６　　文例３他 ７　　作文他 ８　　水の入ったコップ ９　　文例１他 １０　文例２他 １１　文例３他 １２　文例４他 １３　作文他 １４　まとめとテスト １５　反省・展開 １６　ガイダンス １７　学園の風景 １８　文例１他 １９　文例２他 ２０　文例３他 ２１　文例４他 ２２　作文他 ２３　もうひとりの自分 ２４　文例１他 ２５　文例２他 ２６　文例３他 ２７　文例４他 ２８　作文他 ２９　まとめとテスト ３０　総合
授業外における学習（準備学習の内容）	テキスト予習 作文作成
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	平常点８０％、レポート等２０％
教科書	下記の指定教科書以外に、授業中に関連テキスト・資料を配付する。 文章表現　四〇〇字からのレッスン（ちくま学芸文庫）著 梅田卓夫（筑摩書房） 漢検試験問題集　2級 著 （旺文社）

参考書	言語学から記号論へ(講座記号論1) 著 川本茂雄 (勁草書房)

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文章表現A						
担当教員	木村　勲						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	文は心である
授業の概要	人に分かってもらう文章を書くのはそうやさしいことではない。実はやさしいことを むずかし気に書くのは案外やさしいのだが、やさしいことをやさしく書くのはかなりむずかしい。ま してむずかしいことをやさしく書くのは大変むずかしい。で、私はいつも悪戦苦闘してるわけだが…。 ともかく、書くこと――その前提として良い文章をたくさん読むこと、それを書き写すこと、そして また書くこと。文章道の王道です。もとより言葉（漢字を含めて）の習得にも力を入れる。
到達目標	分かる文章を書く
授業計画	１　心構え①　辞書の説明。句読点、「」等の使い方。 ２　心構え②　毎日書く習慣へ　日記について ３　心構え③　書き写す大切さ　名文との接触について ４　心構え④　繰り返し読む大切さ ５　心構え⑤　漢字を知るｉ ６　書き写し実践①　漱石の小品ｉ ７　書く実践①「思い出」 ８　心構え⑥　見る（具体的に、多角的に）ということ ９　心構え⑦　正直に、素朴に １０　心構え⑧　漢字を知るii １１　書き写し実践②　漱石の小品ii １２　書く実践②「私の通学路」 １３　心構え⑨　読む側の視点で １４　心構え⑩　漢字を知るiii １５　小まとめ：理解の点検
授業外における学習（準備学習の内容）	漱石「夢十夜」を読んでおく
授業方法	教科書は必要なところをピックアップして使う。音読してもらう。名品筆写と漢字 テストを織り込む。
評価基準と評価方法	小課題・小テスト（50点）、期末レポート（50点）。出席は当然。
教科書	「文章のみがき方」　辰濃和男（岩波書店）　isbn978-4-00-431095-2
参考書	適宜指示

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文章表現A						
担当教員	宗像　衣子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	楽しく書こう
授業の概要	文章を書くとは自己表現であり、自己創造。書くことによって自分を発見し、新たな自分を 創ってゆくことについて、実践的に学ぶ。添削指導で、実力アップをはかる。 日本語の基本的知識を習得するため、漢字検定にむけて、漢字の指導も行なう。
到達目標	文章表現を実際に試み、文章表現の様々な楽しみを 味わいながら、文章表現法を身につける。
授業計画	以下、使用テキストに沿って進めるが、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。 １　　オリエンテーション ２　　資料収集調査指導・図書館案内 ３　　書くこと ４　　文例１他 ５　　文例２他 ６　　文例３他 ７　　作文他 ８　　水の入ったコップ ９　　文例１他 １０　文例２他 １１　文例３他 １２　文例４他 １３　作文他 １４　まとめとテスト １５　反省・展開
授業外における学習（準備学習の内容）	テキスト予習 作文作成
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	平常点８０％、レポート等２０％
教科書	下記の指定教科書以外に、授業中に関連テキスト・資料を配付する。 文章表現　四〇〇字からのレッスン（ちくま学芸文庫）著 梅田卓夫（筑摩書房） 漢検試験問題集　2級 著 （旺文社）
参考書	言語学から記号論へ(講座記号論1) 著 川本茂雄（勁草書房）

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文章表現B						
担当教員	木村　勲						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	文は心である
授業の概要	人に分かってもらう文章を書くのはそうやさしいことではない。実はやさしいことを むずかし気に書くのは案外やさしいのだが、やさしいことをやさしく書くのはかなりむずかしい。ま してむずかしいことをやさしく書くのは大変むずかしい。で、私はいつも悪戦苦闘してるわけだが…。 ともかく、書くこと――その前提として良い文章をたくさん読むこと、それを書き写すこと、そして また書くこと。文章道の王道です。もとより言葉（漢字を含めて）の習得にも力を入れる。
到達目標	分かる文章を書く
授業計画	１６　紋切り型表現について １７　比喩について １８　心構え⑪　漢字を知るⅳ １９　書き写し実践③　谷崎の小品 ２０　書く実践③（テーマ未定） ２１　土地の言葉と「標準語」 ２２　心構え⑫　漢字を知るⅴ ２３　推敲ということ ２４　文章の流れ、文末処理 ２５　書き写し実践④　幸田文の小品 ２６　書く実践④（テーマ未定） ２７　心構え⑬　漢字を知るⅵ ２８　デジタル表現と筆記表現 ２９　渾身の力とゆとり心 ３０　まとめ「文は人そのものなり」
授業外における学習（準備学習の内容）	漱石「夢十夜」を読んでおく
授業方法	教科書は必要なところをピックアップして使う。音読してもらう。名品筆写と漢字 テストを織り込む。
評価基準と評価方法	小課題・小テスト（50点）、期末レポート（50点）。出席は当然。
教科書	「文章のみがき方」　辰濃和男（岩波書店）　isbn978-4-00-431095-2
参考書	適宜指示

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文章表現B						
担当教員	宗像　衣子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	楽しく書こう
授業の概要	文章を書くとは自己表現であり、自己創造。書くことによって自分を発見し、新たな自分を 創ってゆくことについて、実践的に学ぶ。添削指導で、実力アップをはかる。 日本語の基本的知識を習得するため、漢字検定にむけて、漢字の指導も行なう。
到達目標	文章表現を実際に試み、文章表現の様々な楽しみを 味わいながら、文章表現法を身につける。
授業計画	以下、使用テキストに沿って進めるが、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。 １６　ガイダンス １７　学園の風景 １８　文例１他 １９　文例２他 ２０　文例３他 ２１　文例４他 ２２　作文他 ２３　もうひとりの自分 ２４　文例１他 ２５　文例２他 ２６　文例３他 ２７　文例４他 ２８　作文他 ２９　まとめとテスト ３０　総合
授業外における学習（準備学習の内容）	テキスト予習 作文作成
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	平常点８０％、レポート等２０％
教科書	下記の指定教科書以外に、授業中に関連テキスト・資料を配付する。 文章表現　四〇〇字からのレッスン（ちくま学芸文庫）著 梅田卓夫（筑摩書房） 漢検試験問題集　2級 著 (旺文社)
参考書	言語学から記号論へ(講座記号論1) 著 川本茂雄（勁草書房）

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	マスコミ文章編集						
担当教員	団藤　保晴						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	金曜2	配当学年	3～4	単位数	4.0

授業のテーマ	新聞はどう作られるのか――取材活動や編集経験を踏まえた講義と実習
授業の概要	新聞紙面制作の基本から講義を始め、見出し表現のテクニックや紙面構成の考え方などに進みます。社会について考える力、文章力をつけるとともに、パソコンで編集作業を模擬できるデスクトップ・パブリッシング（ＤＴＰ）ソフトを使い各種のパンフレットを組み上げる技術を身に付けます。。 パソコンの知識は、日本語の入力が出来る程度を前提に講義の中で教えていきます。ソフトを使いこなすには繰り返し練習していくことが必要です。最初の間は事前に用意した素材で実習します。第２段階の自由演習で素材を集めてパンフレット作りをし、最後には自分で素材も作って「自分史新聞」を組み上げることを計画しています。 マスメディアは大きな曲がり角を迎えています。インターネット世界の急膨張が人々の生活スタイルまで変えていくからです。市民の情報収集法も変わりつつあり、最先端の話題も適宜取り込んで講義をします。興味深い映像視聴や各種ツール使用も経験してもらい、情報リテラシー能力を高めます。
到達目標	新聞の紙面編集について基礎的な理解に達し、ＤＴＰソフトで組み上げられるようになる。さらに、応用としてチラシやパンフレットなどを効果的なデザインで編集できるようにする。
授業計画	１）新聞はこうして作られる ２）記事取材と文章作成の考え方 ３）紙面編集の基礎とＤＴＰソフト ４）見出しの種類と表現のテクニック ５）パソコンの基礎・ワードとエクセル ６）DTPソフト①テンプレートを使う ７）DTPソフト②見出し組みの実際 ８）DTPソフト③写真や画像などを置く ９）DTPソフト④フォントと特殊効果 10）DTPソフト⑤小さいが目立つ箱組み 11）DTPソフト⑥大組みと仕上げ 12）実習「西洋文学この百冊」① 13）実習「西洋文学この百冊」② 14）実習・新聞１面の模擬製作① 15）実習・新聞１面の模擬製作② 16)マスメディアの組織・運営とネットの世界 17)実習・スポーツ面模擬① 18)実習・スポーツ面模擬② 19)取材模擬・工場見学記事の作成 20)取材模擬・工場見学記事と紙面構想 21)取材模擬・工場見学新聞製作 22)実習・社会面模擬① 23)実習・社会面模擬② 24)自由演習（例＝海外旅行案内）①素材集め 25)自由演習（例＝海外旅行案内）②構成と見出し 26)自由演習（例＝海外旅行案内）③大組み 27)仕上げ実習・自分史新聞①記事の作成 28)仕上げ実習・自分史新聞②構成 29)仕上げ実習・自分史新聞③見出しと箱組み 30)仕上げ実習・自分史新聞④大組み
授業外における学習（準備学習の内容）	実習に使う記事やデータや画像の準備を指示することがあります。
授業方法	パソコンでデスクトップ・パブリッシング（ＤＴＰ）ソフトを使った実習を中心に進めます。適宜、講義も交え、映像視聴なども加えます。
評価基準と評価方法	授業・実習への参加ぶり（30%）、実習作品の仕上がり（70%）

教科書	毎回、以下の講義録ウェブから授業資料を配付する予定です。 http://dandoweb.com/S/
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	メディア・広報入門A／メディア・広報入門I						
担当教員	木村　勲						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	メディアの基本を理解する。
授業の概要	メディアとは常識的に新聞・雑誌・テレビ・ラジオと考えてほしい。言論の自由を軸に世論を形成し、民主主義社会を形づくる核心の役割を担っている。批判・検証作業を通じての国民の「知る権利」の代行者である。しかし、複雑・巨大化した現代の社会システムの中で、とくに急速なネット普及のなかで、利便さとともに少なからぬ問題も生じている。言論・表現の自由の歴史の原点から考えていく。
到達目標	新聞・テレビを批判的に見る態度。
授業計画	１　メディアとは ２　マスコミとは ３　ジャーナリズムとは ４　新聞社の機構 ５　編集（記者）の仕事 ６　紙面制作過程 ７　言論の自由の歴史①啓蒙主義 ８　言論の自由の歴史②フランス革命 ９　言論の自由の歴史③アメリカ独立宣言 １０言論の自由の歴史④日本国憲法 １１日本型メディアシステム①記者クラブ制度 １２日本型メディアシステム②テレビとの関係 １３日本型メディアシステム③ウェッブの普及 １４社論の違いについて １５まとめ：メディアにどう対応すべきか
授業外における学習（準備学習の内容）	日々、新聞を読むこと。
授業方法	講義。配布プリントを軸に、実物のスクリーン表示、ビデオ参照もしながら説明。
評価基準と評価方法	受講態度・意欲４０％、期末試験６０％
教科書	プリントを配布します。
参考書	佐藤卓己「メディア社会」（岩波新書）、木村勲「日本海海戦とメディア」（講談社）ほか授業中に紹介します。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	メディア・広報入門B／メディア・広報入門II						
担当教員	村上　知彦						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	メディアとコマーシャリズム
授業の概要	現代社会におけるメディアとコマーシャリズムの関係を考える。 出版、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネットなど多様な現代のメディア文化とコマーシャリズムとの関わりを概説し、メディアにおけるコマーシャリズムのはたらきと、社会に及ぼす影響などを考察する。また、広告の歴史的なりたちや広告表現のはたらきを概説し、広告のメディア文化としての側面を明らかにする。
到達目標	メディアにおけるコマーシャリズムの意義や、社会に及ぼす影響を理解し、身近なメディアとそのコマーシャリズム的側面を批評的に分析する視点を持つこと目指す。
授業計画	（１）はじめに/ジャーナリズムとコマーシャリズム （２）コマーシャリズムとテレビ・ラジオ/1　高度成長と余暇 （３）コマーシャリズムとテレビ・ラジオ/2　テレビ文化の定着 （４）コマーシャリズムとテレビ・ラジオ/3　商品文化とテレビ （５）コマーシャリズムとテレビ・ラジオ/4　ラジオというメディア （６）コマーシャリズムと雑誌・出版/1　日本の出版の現況 （７）コマーシャリズムと雑誌・出版/2　さまざまな出版物と私たち （８）コマーシャリズムと雑誌・出版/3　まんがは日本の文化なのか （９）広告の定義と類似活動/宣伝・PR・パブリシティ (10) 広告の分類/広告の機能 (11) 広告小史/1　広告の誕生 (12) 広告小史/2　消費者の動向 (13) 広告とコマーシャリズム/1　パリ万博と百貨店 (14) 広告とコマーシャリズム/2　モノからイメージへ (15) 広告とコマーシャリズム/3　飽和した物質文明・まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：自分自身が毎日、多様なメディアとどのように接しているかに注意を払う。 授業後学習：学んだことを整理し、身の回りのメディアにあてはめてみる。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	期末レポート（70%）に、提出物、平常点等（30%）を加味して総合評価する。
教科書	適宜プリントを配布します。
参考書	「メディア社会の歩き方　その歴史と仕組み」柳澤伸司他、世界思想社　ISBN 978-4-7907-1057-8 「図説　日本のマスメディア［第二版］」藤竹暁編、日本放送出版協会　ISBN978-4140910399 「現代広告論［新版］」岸志津江・田中洋・嶋村和恵、有斐閣　ISBN978-4641123564 「広告論講義」天野祐吉、岩波書店　ISBN4-00-022825-0 ほか、授業中に紹介します。